

2024 年度ソフトウェア動向調査（企業向け） 単純集計グラフ

2025 年 4 月 8 日
独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
デジタル基盤センター
デジタルエンジニアリング部
ソフトウェアエンジニアリンググループ

■留意事項

- ・ 2024 年度ソフトウェア動向調査（企業向け）の回答結果 798 件（2025/3/31 時点）を集計しグラフにしたものである。
- ・ 本資料における集計分類の定義は以下の通りである。

分類	定義
全体	設問の回答全て
ユーザー企業（金融業を除く）	Q1-3「企業種別」において「1. ユーザー企業」「2.ユーザー系情報システム子会社」のいずれかを選択かつ後述の「ユーザー企業（金融業）」「自治体（水道事業者）」に該当しない回答
ユーザー企業（金融業）	Q1-2「産業区分」において「27.銀行業（都市銀行）」「28.銀行業（地方銀行）」「29.銀行業（信用金庫）」「30.銀行業（労働金庫）」「31.銀行業（信用組合）」「32.貸金業、クレジットカード業」「33.保険業」「34.その他の金融業」のいずれか選択かつ Q1-3「企業種別」において「1. ユーザー企業」「2.ユーザー系情報システム子会社」のいずれかを選択した回答
ベンダー企業	Q1-3「企業種別」において「3.受託開発ソフトウェアベンダー」「4.パッケージソフトウェアベンダー」「5.組込みソフトウェアベンダー」「6.その他ソフトウェアベンダー」のいずれかを選択した回答
自治体（水道事業者）	Q1-2「産業区分」において「14.水道」を選択かつ Q1-3「企業種別」において「1. ユーザー企業」「2.ユーザー系情報システム子会社」のいずれかを選択した回答（産業区分が水道の回答者は基本的に自治体が回答しているため）
受託開発ソフトウェアベンダー	Q1-3「企業種別」において「3.受託開発ソフトウェアベンダー」を選択した回答
ユーザー系情報システム子会社	Q1-3「企業種別」において「2.ユーザー系情報システム子会社」を選択した回答

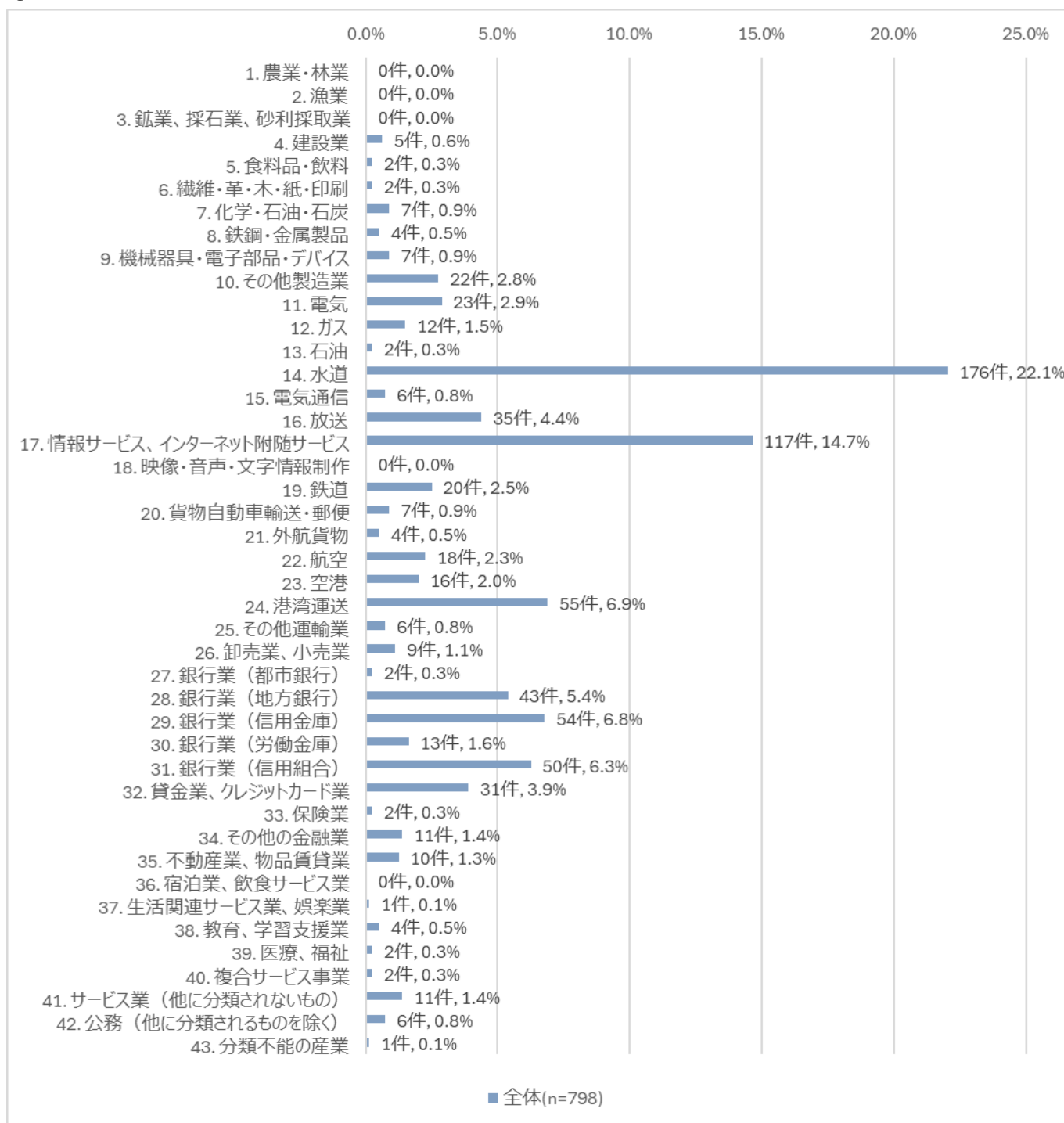
- ・ グラフの構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とならない可能性があるので注意すること。
- ・ 「2024 年度ソフトウェア動向調査」は以下のサイトで公開している。
 - <https://www.ipa.go.jp/digital/software-survey/software-engineering/result-software2024.html>

本レポートは、その内容に関する有用性、正確性、知的財産権の不侵害等の一切について、当組織が如何なる保証をするものではありません。

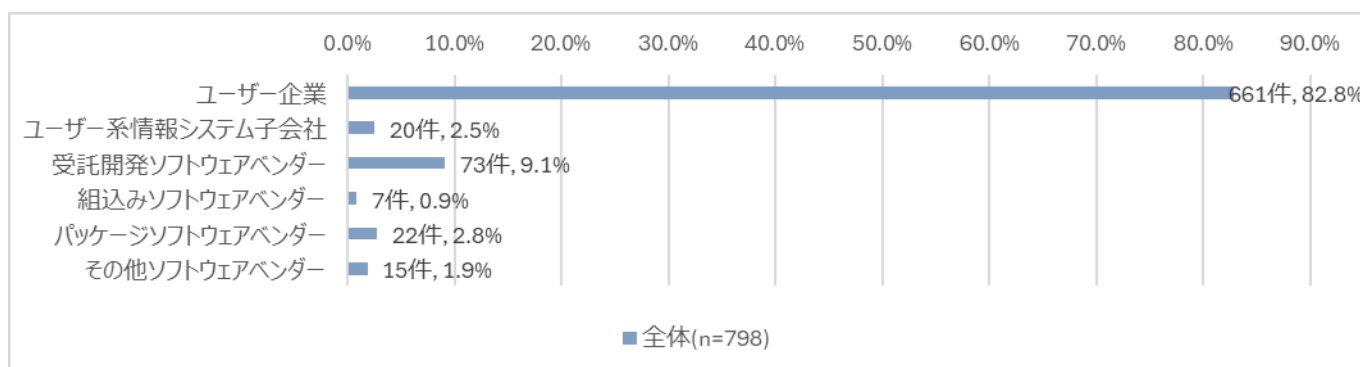
また、本レポートの読者が、本レポート内の情報の利用によって損害を被った場合も、当組織が如何なる責任を負うものではありません

<プロフィール>

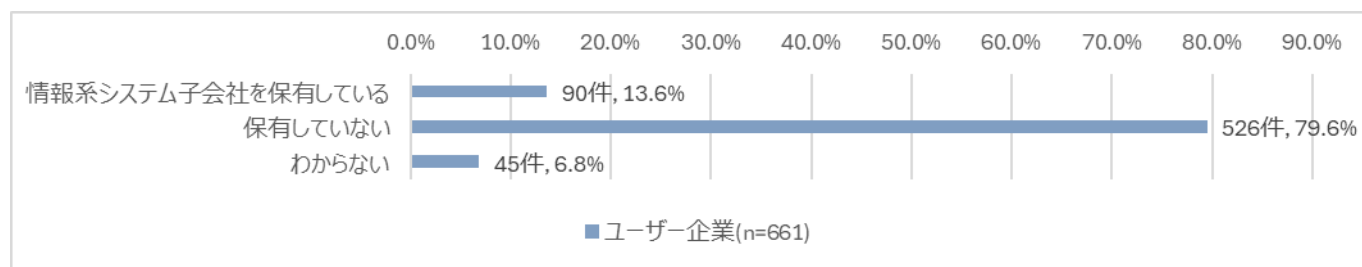
Q1-2 産業区分



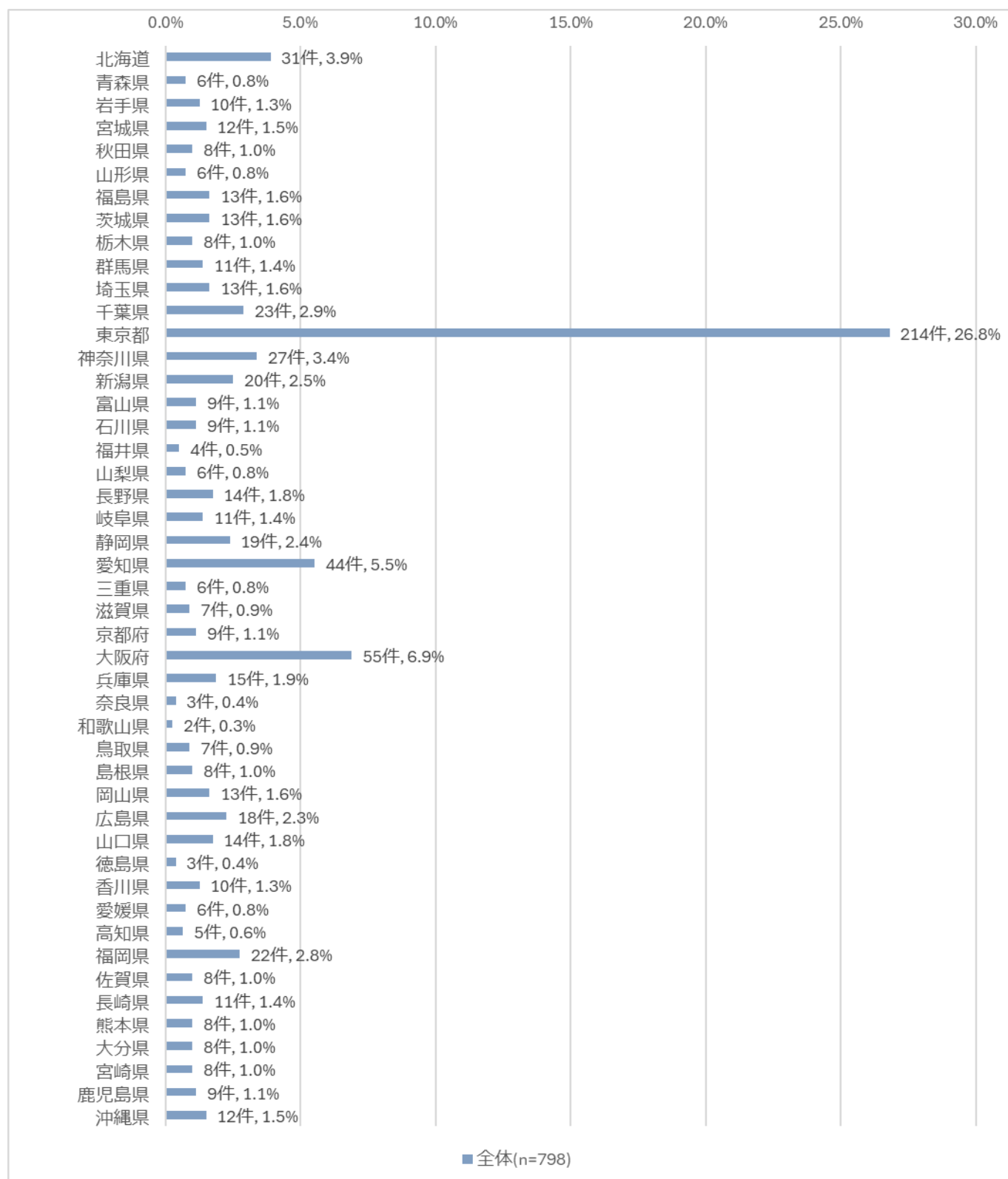
Q1-3 企業種別



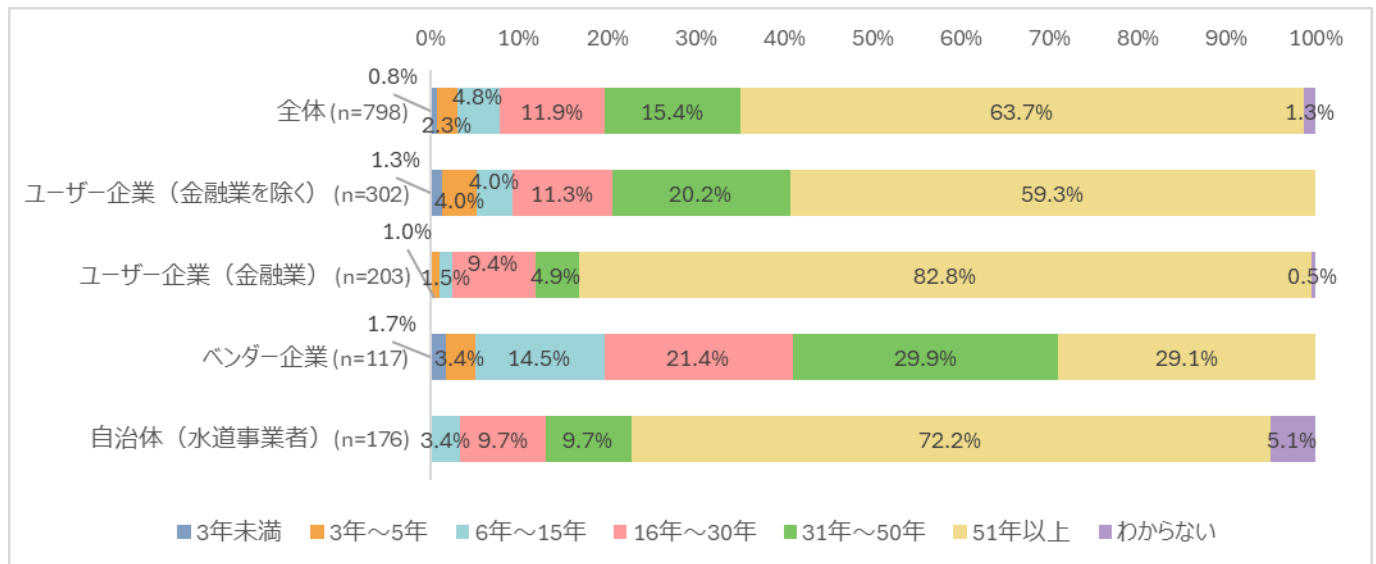
Q1-4 情報システム子会社の有無



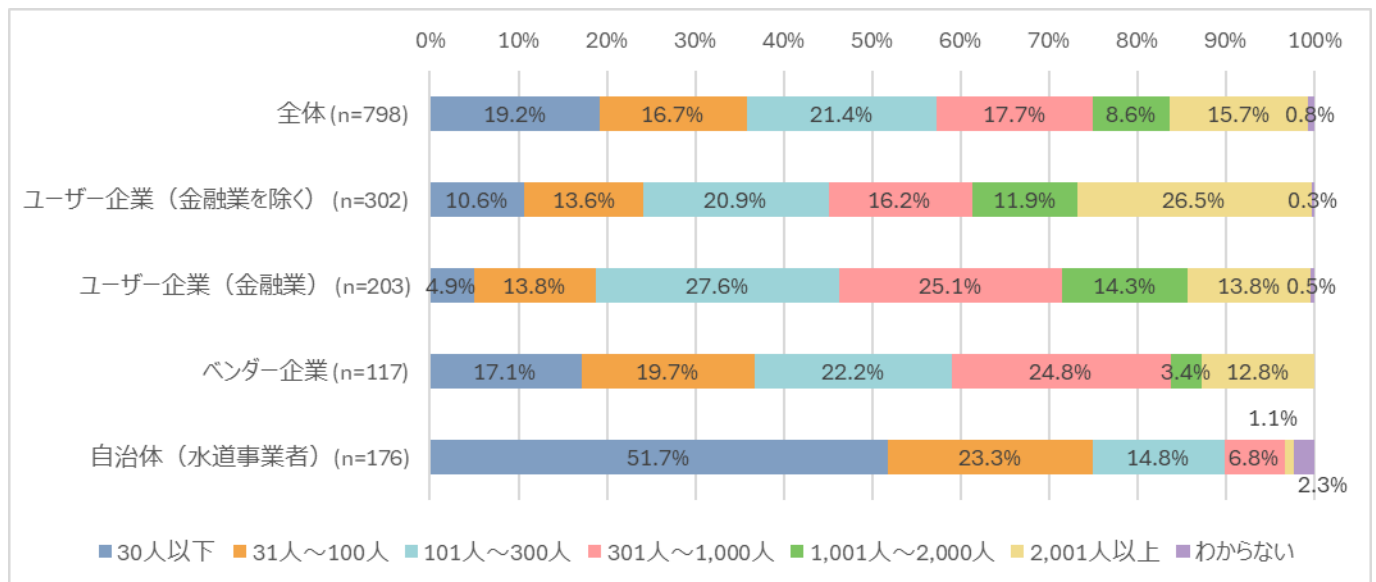
Q1-5 所在地



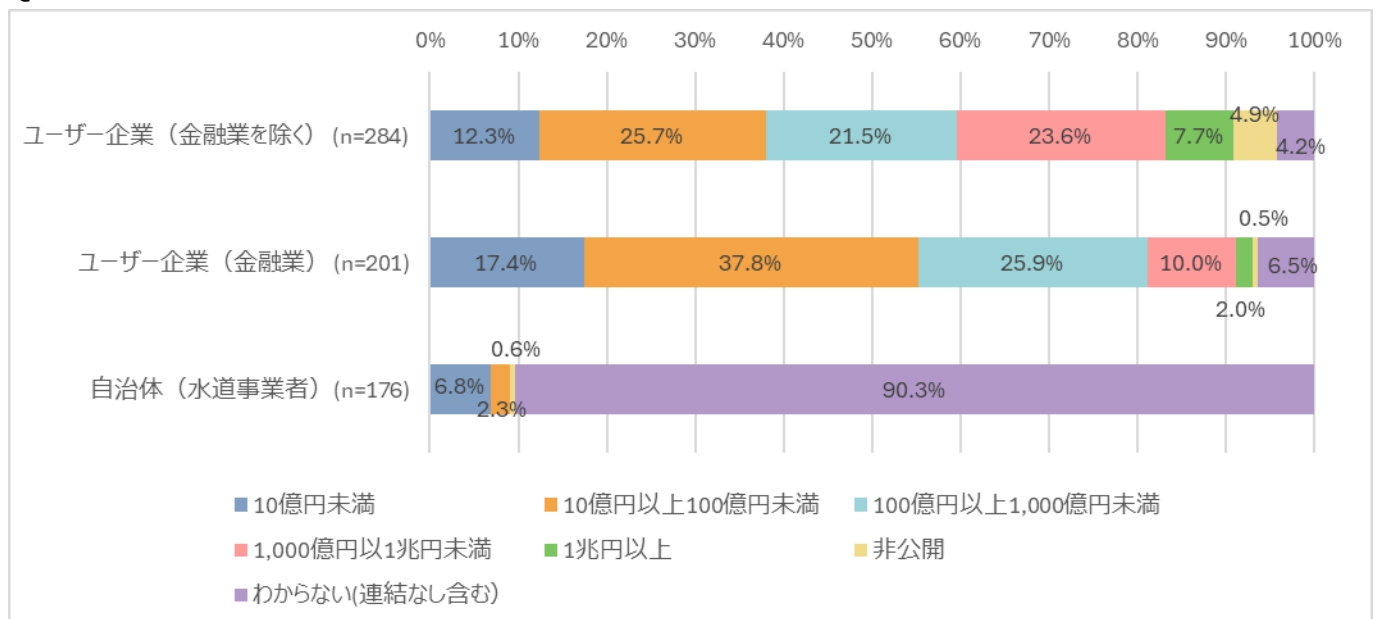
Q1-6 設立年数



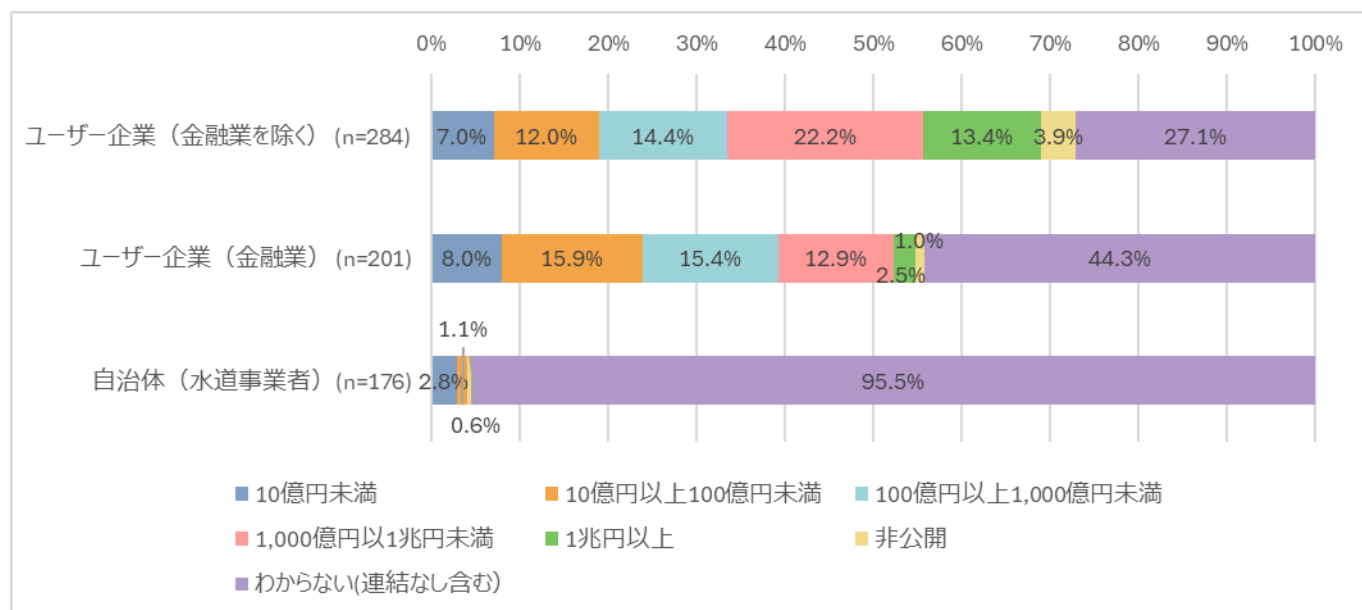
Q1-7 従業員数



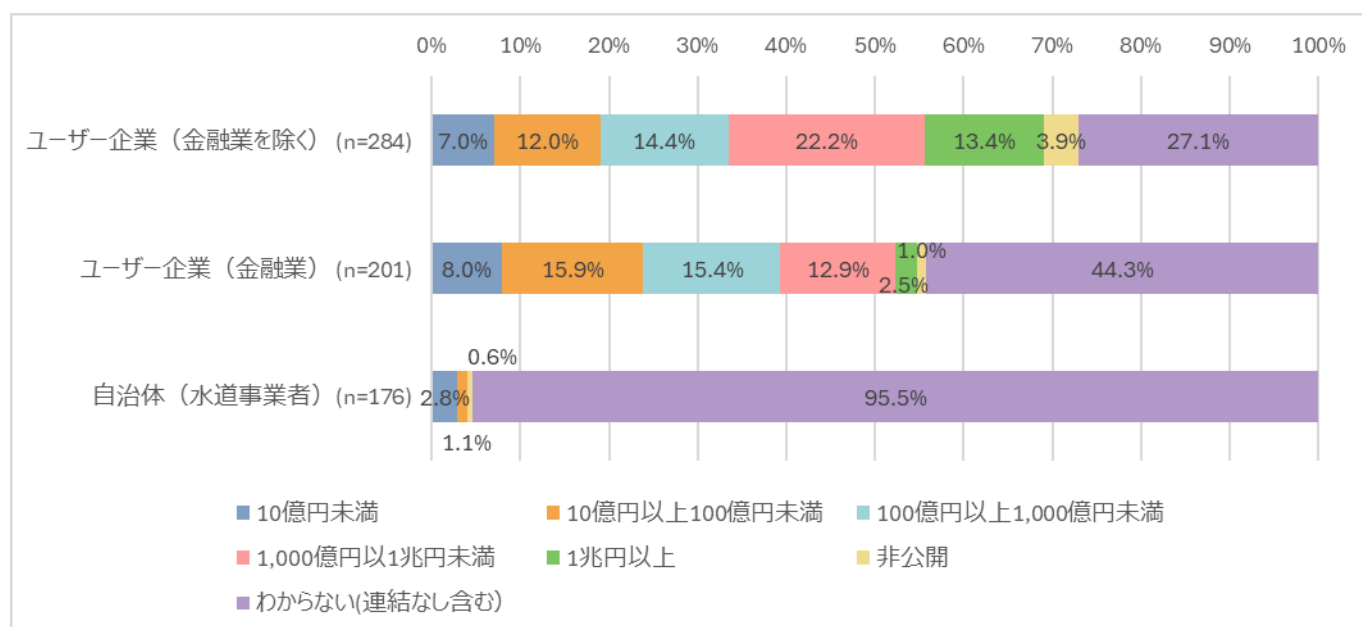
Q1-8 売上規模（単体）



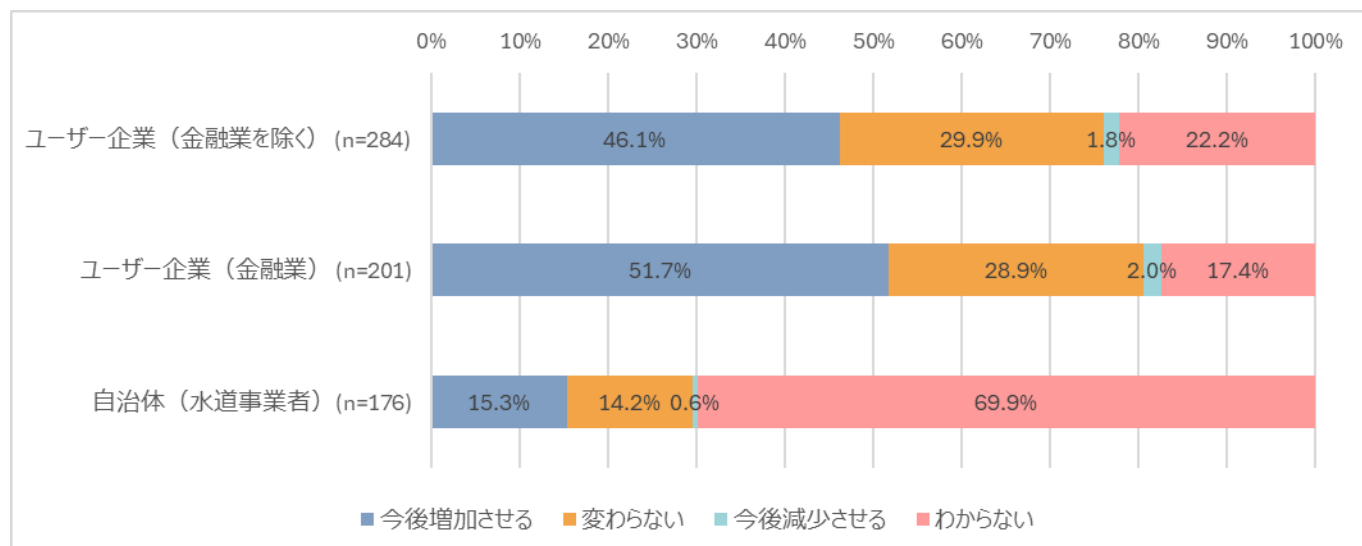
Q1-8 売上規模（連結）



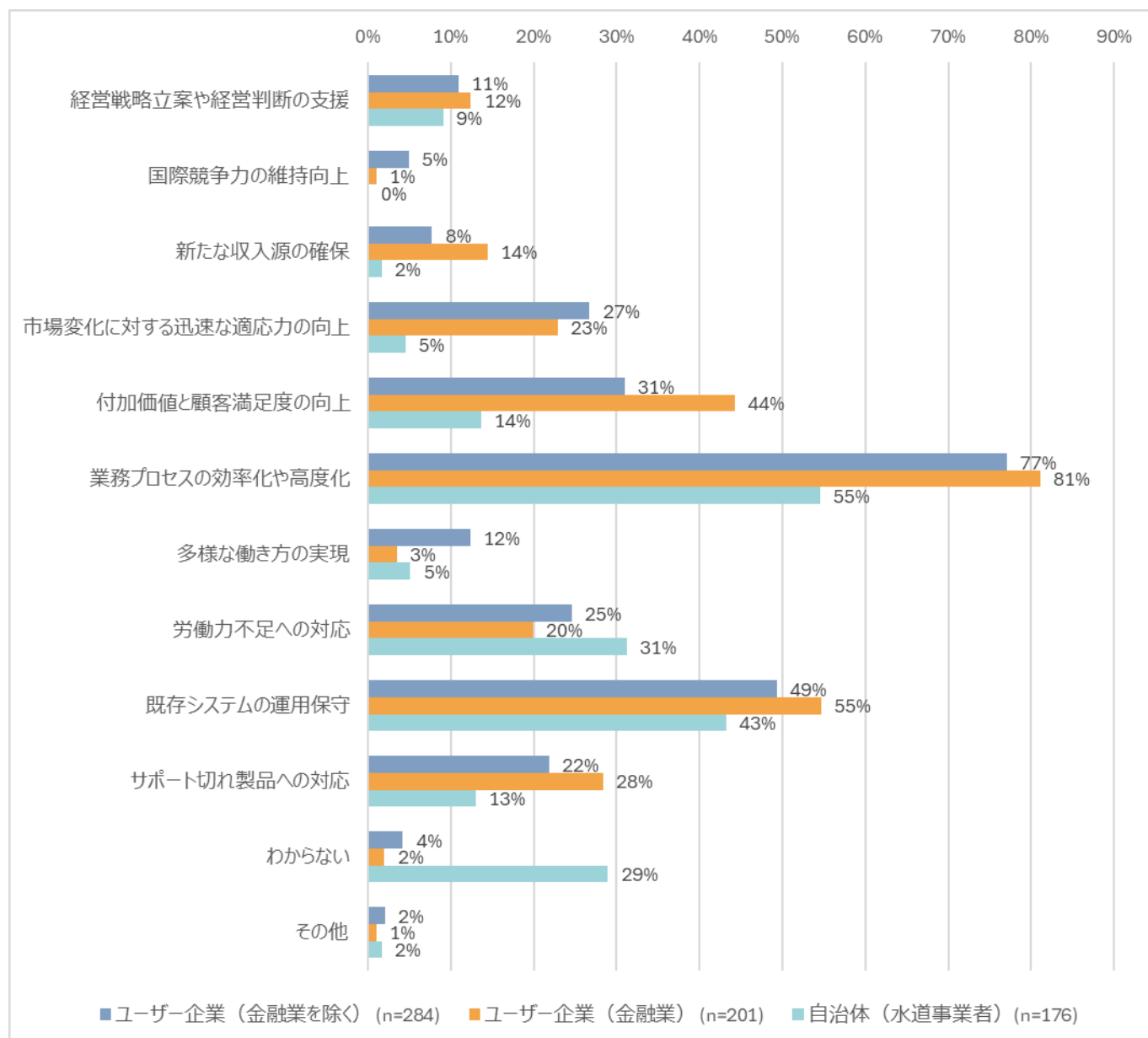
Q1-9 IT 予算割合



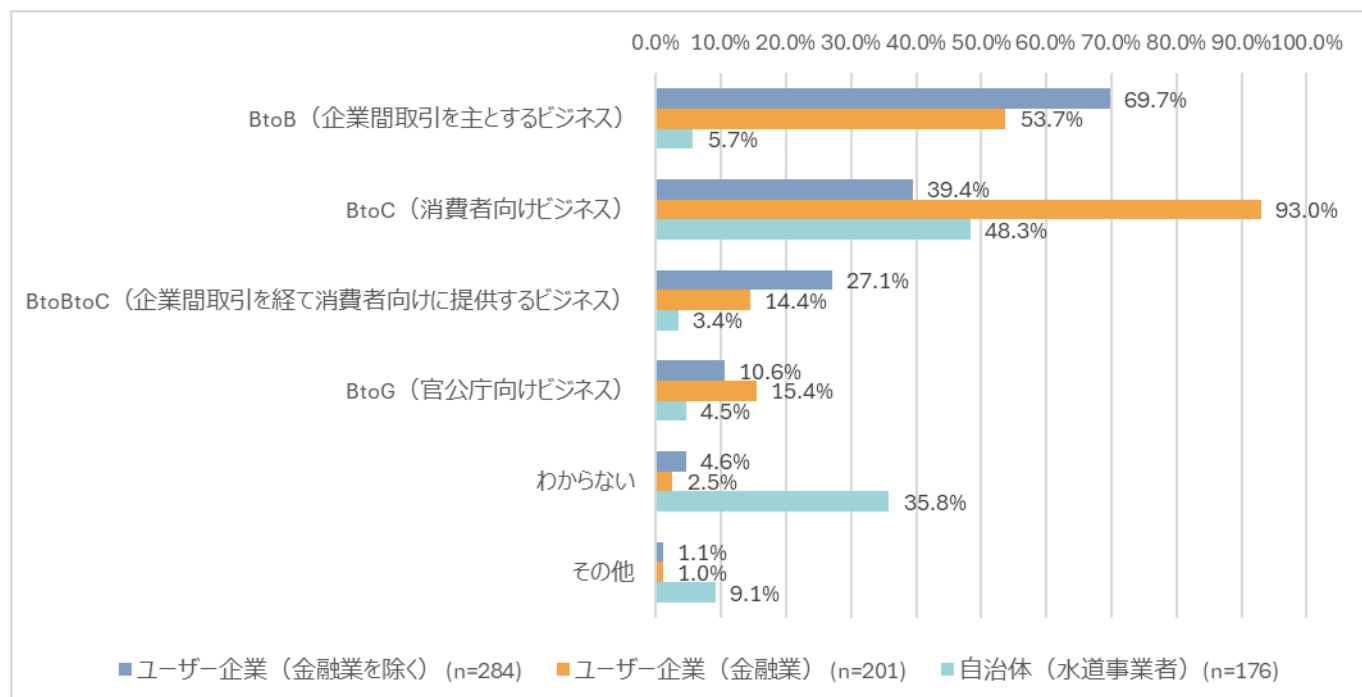
Q1-10 IT 投資の状況



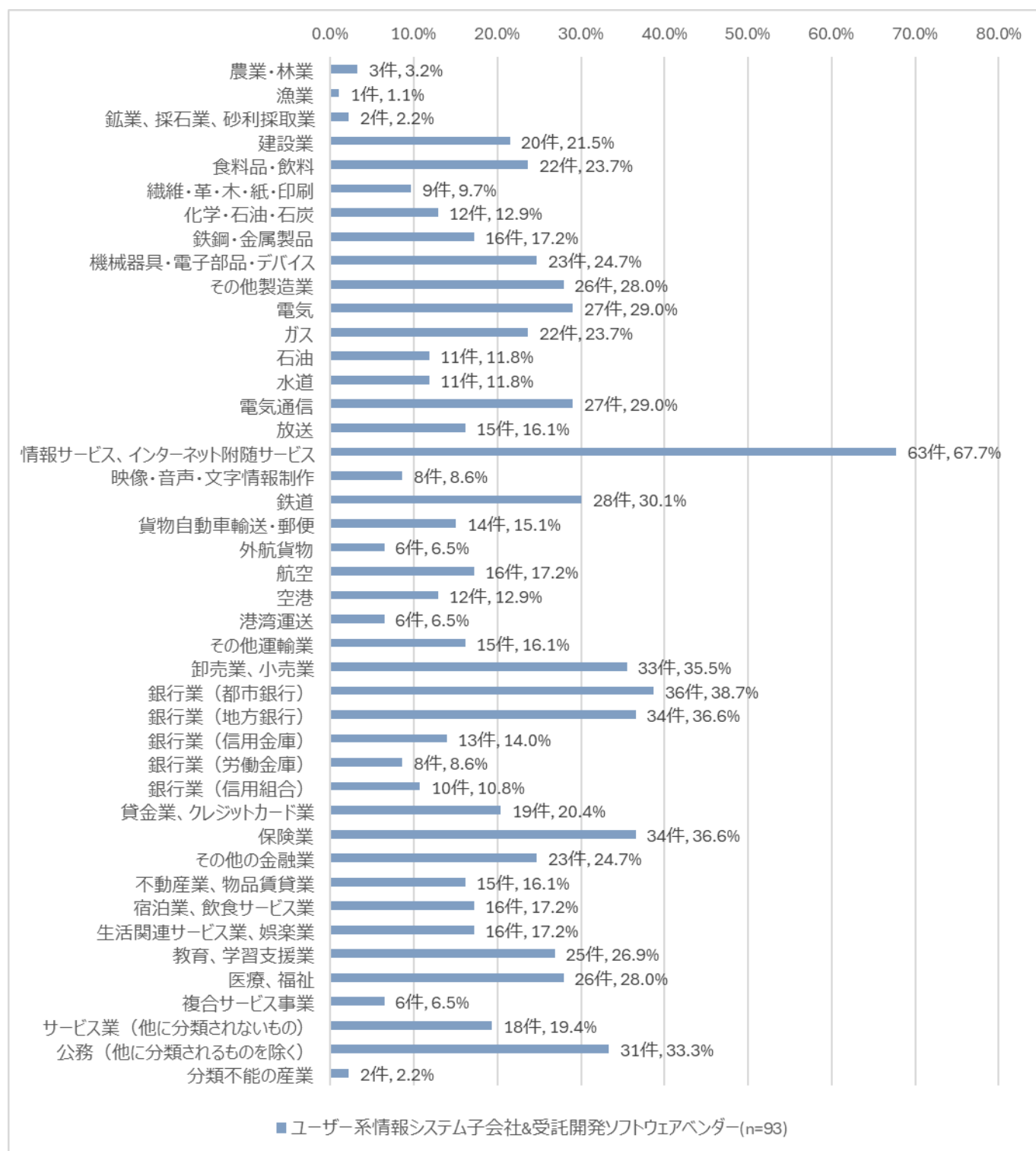
Q1-11 IT 投資の目的



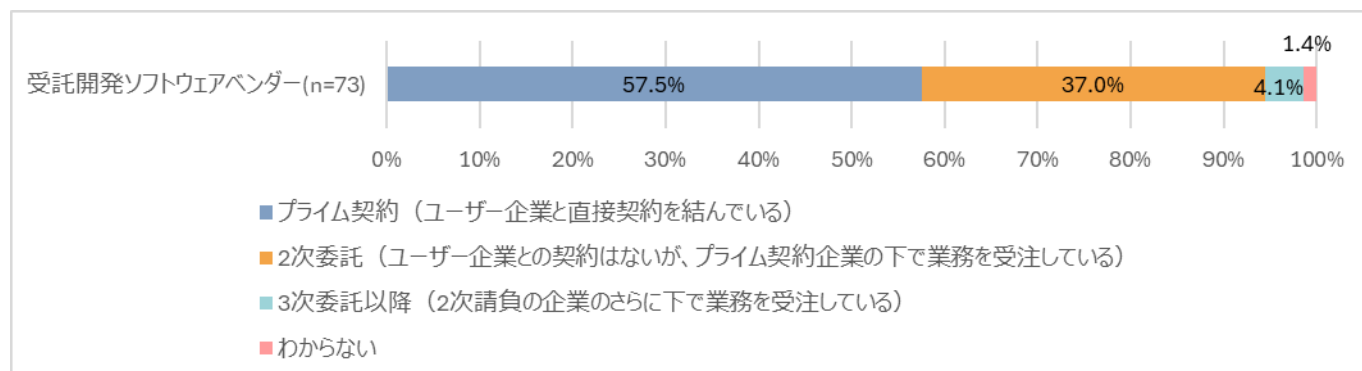
Q1-12 ビジネスモデル



Q1-13 発注元ユーザー企業の産業区分

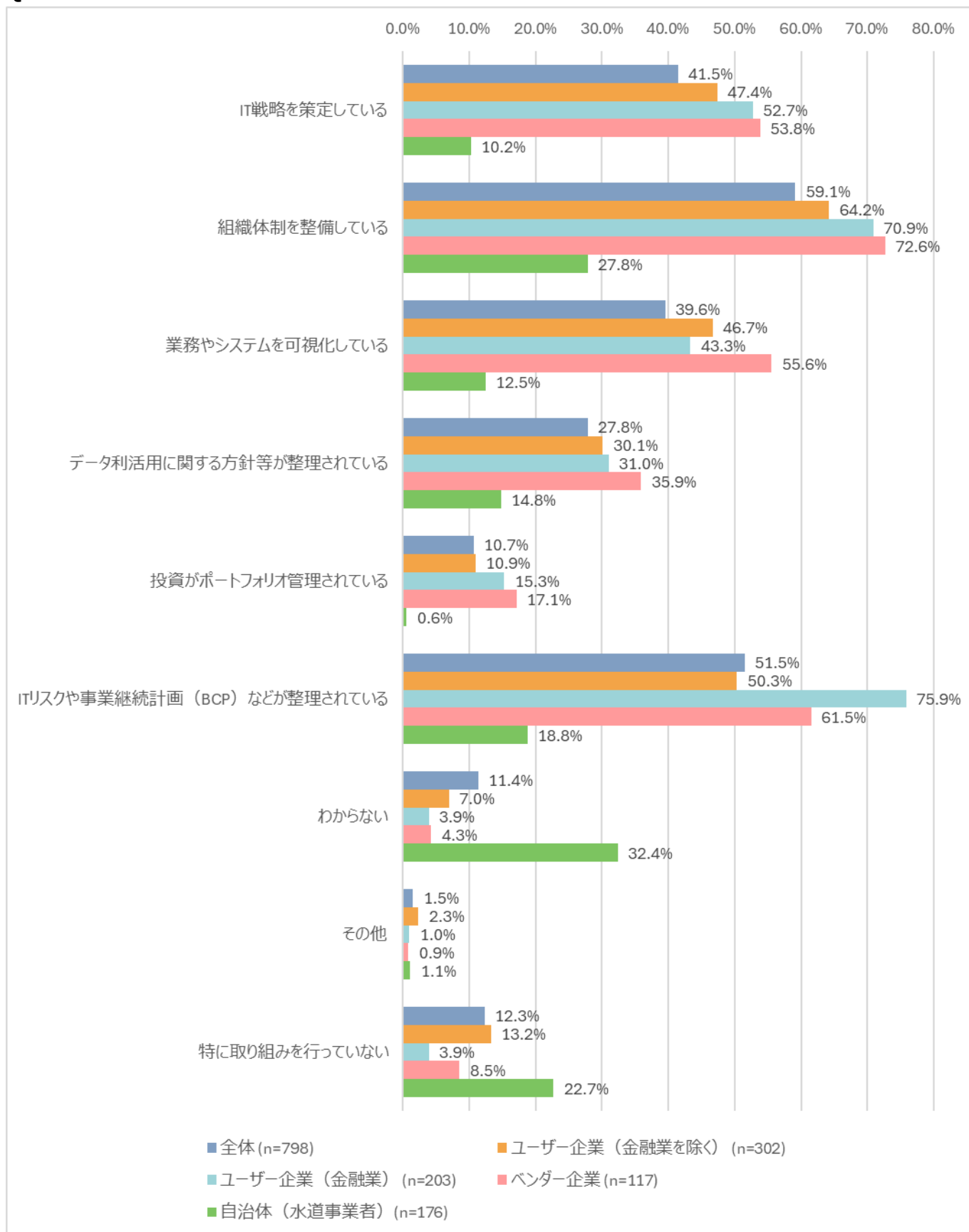


Q1-14 ユーザー企業との委託関係

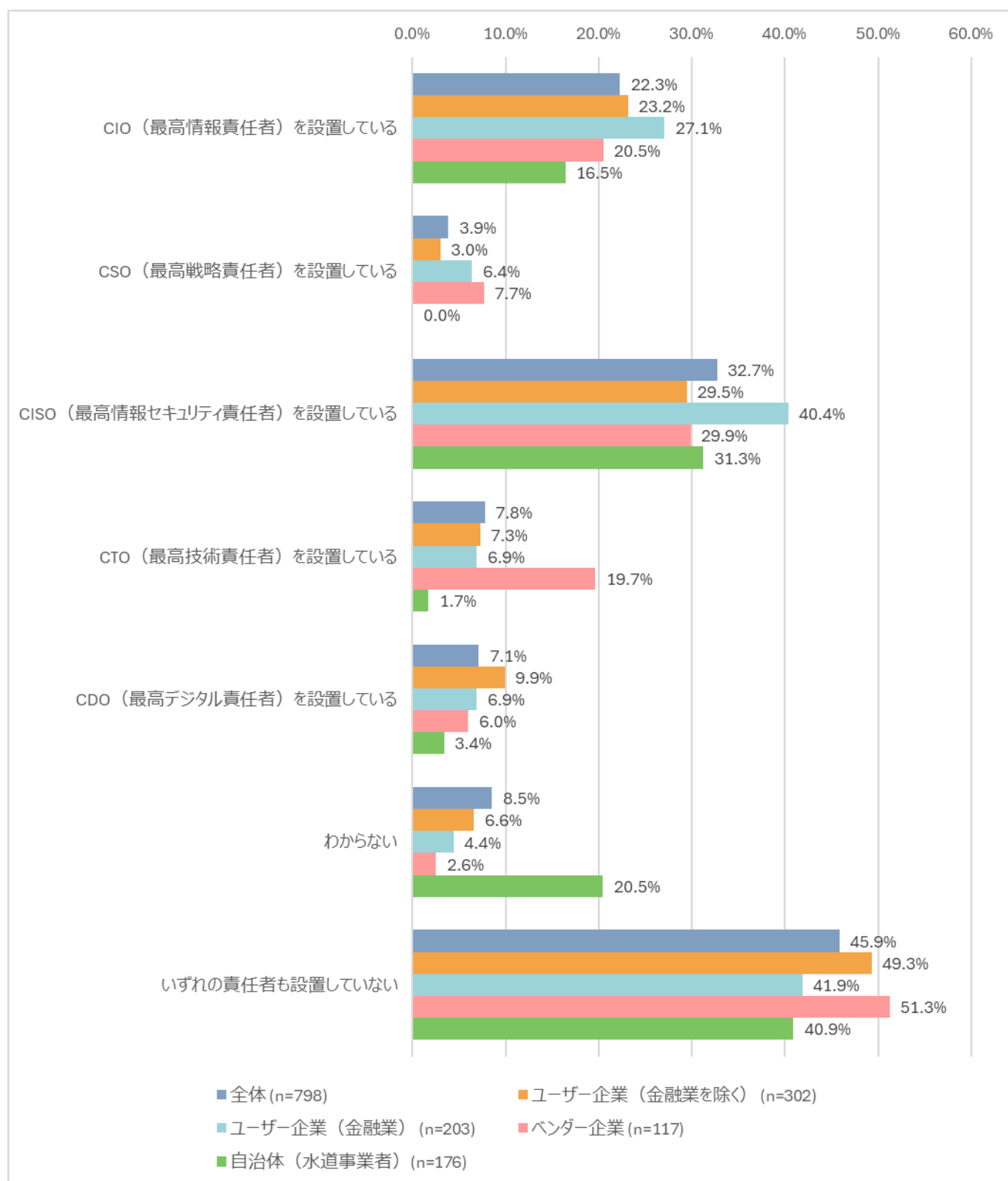


<組織>

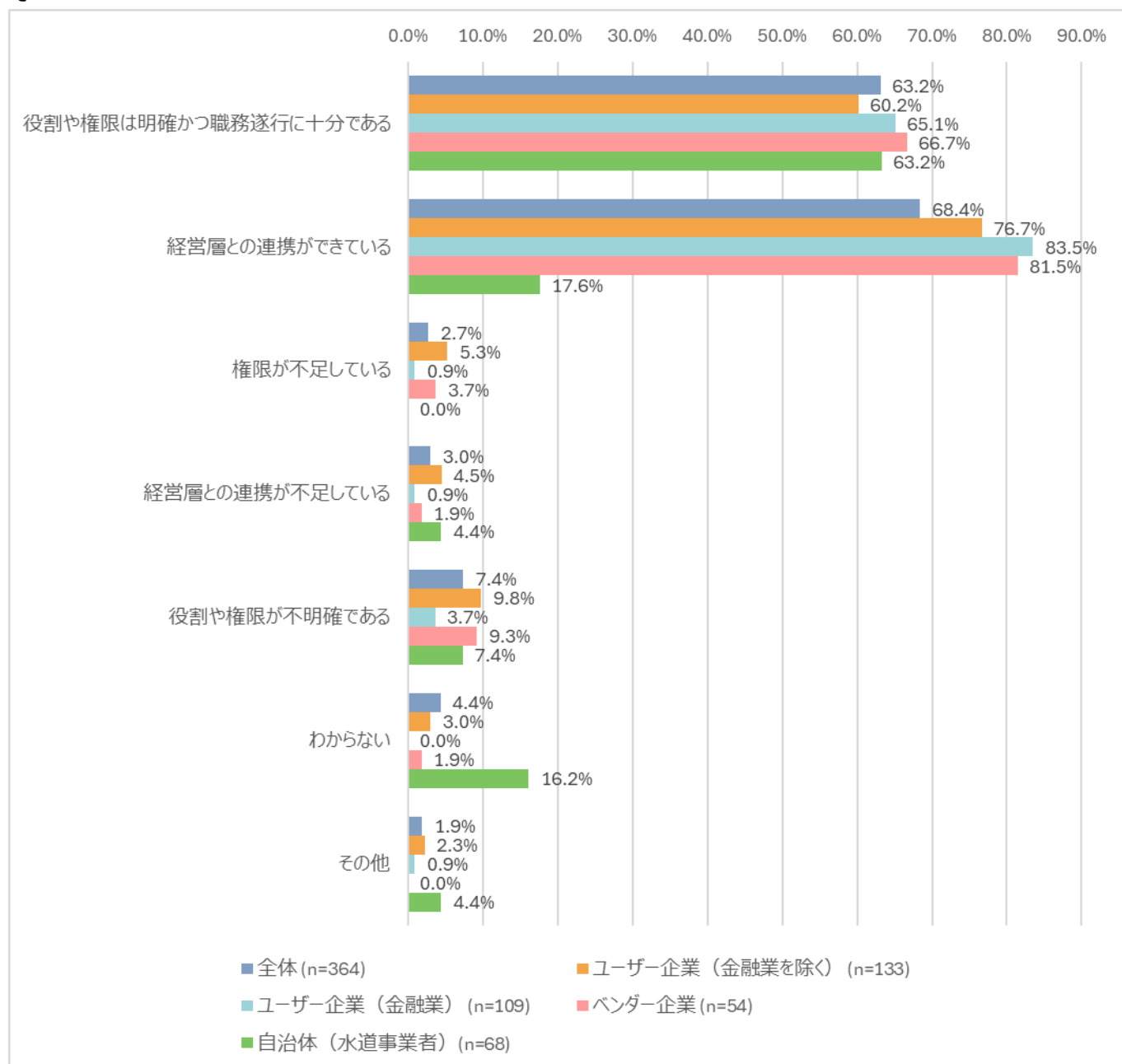
Q2-1 IT ガバナンスの状況



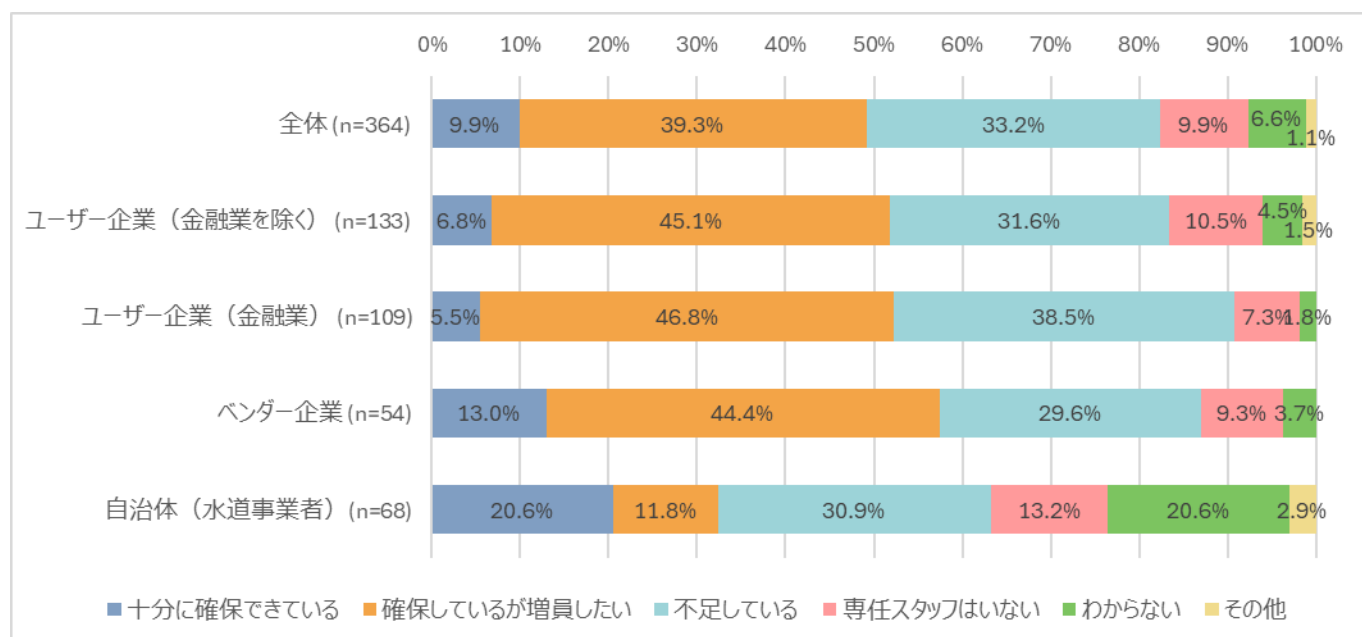
Q2-2 CxO の責任者の設置状況



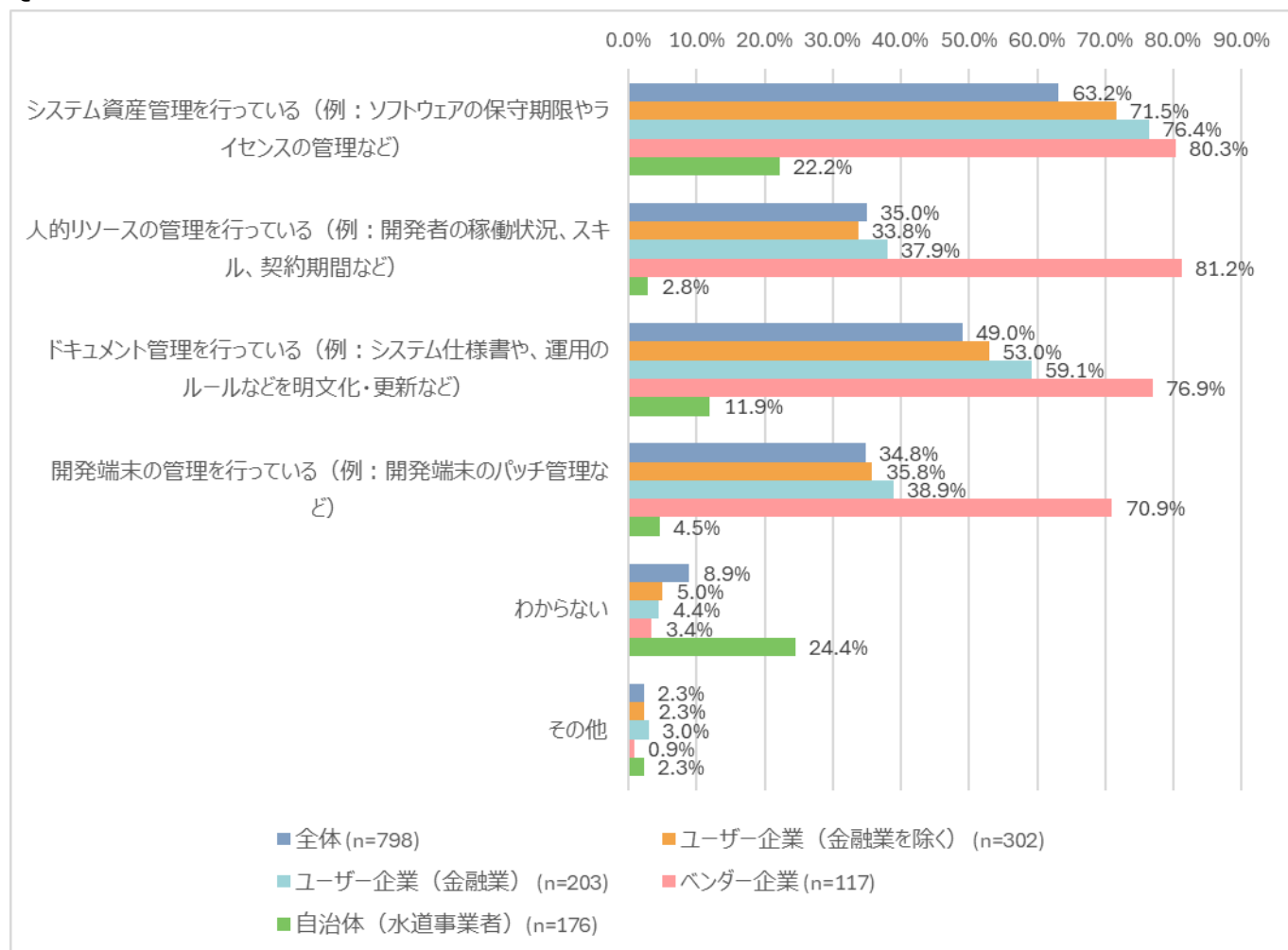
Q2-3 CxO の役割や権限の状況



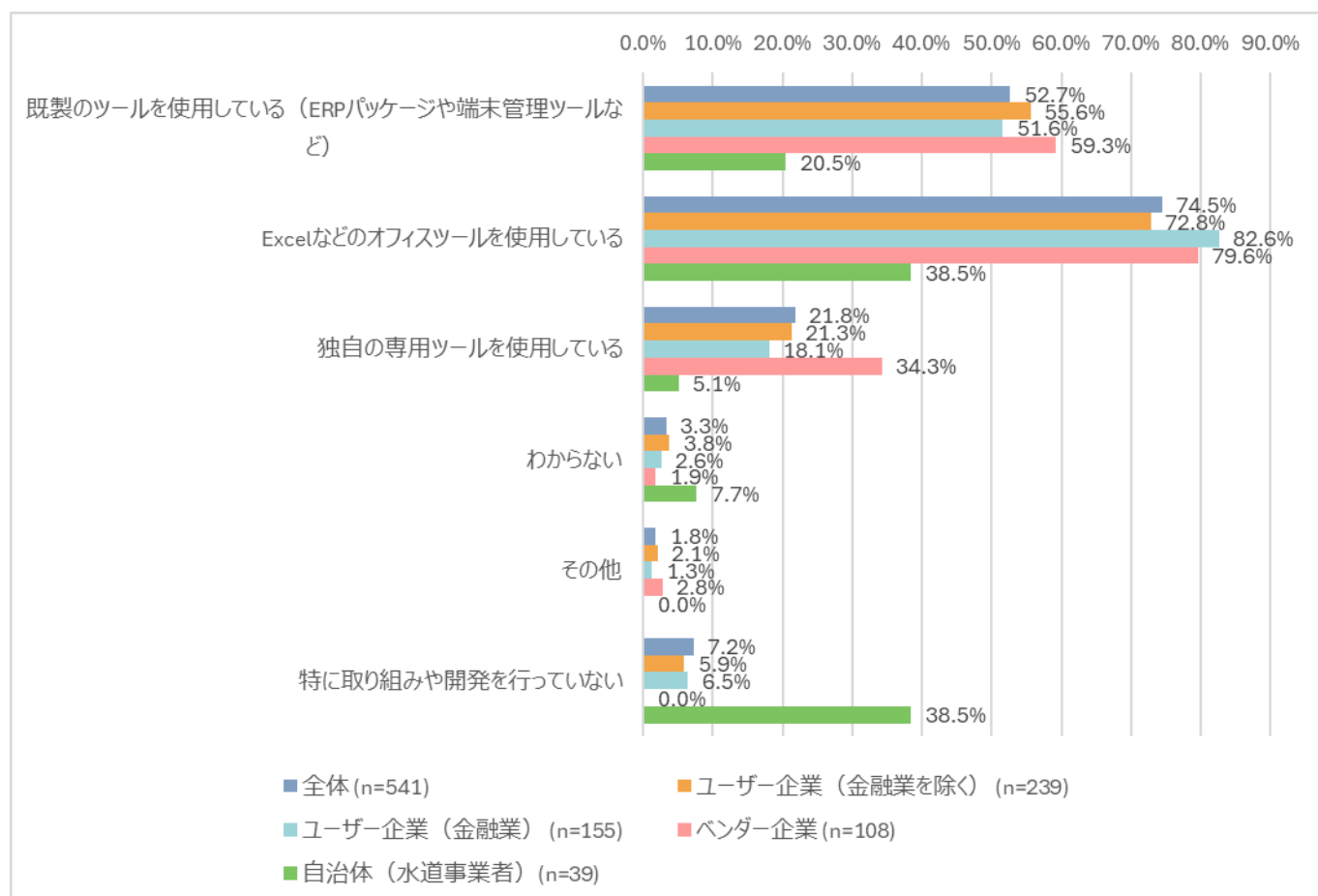
Q2-4 CxO の所管組織の状況



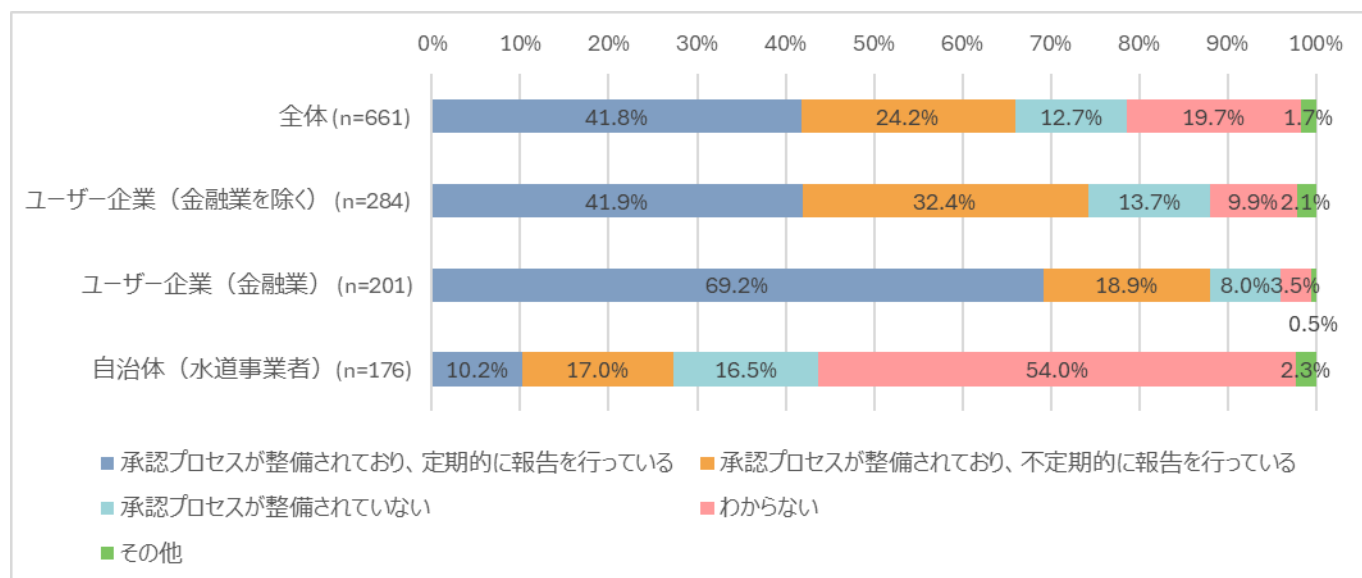
Q2-5 リソース管理状況



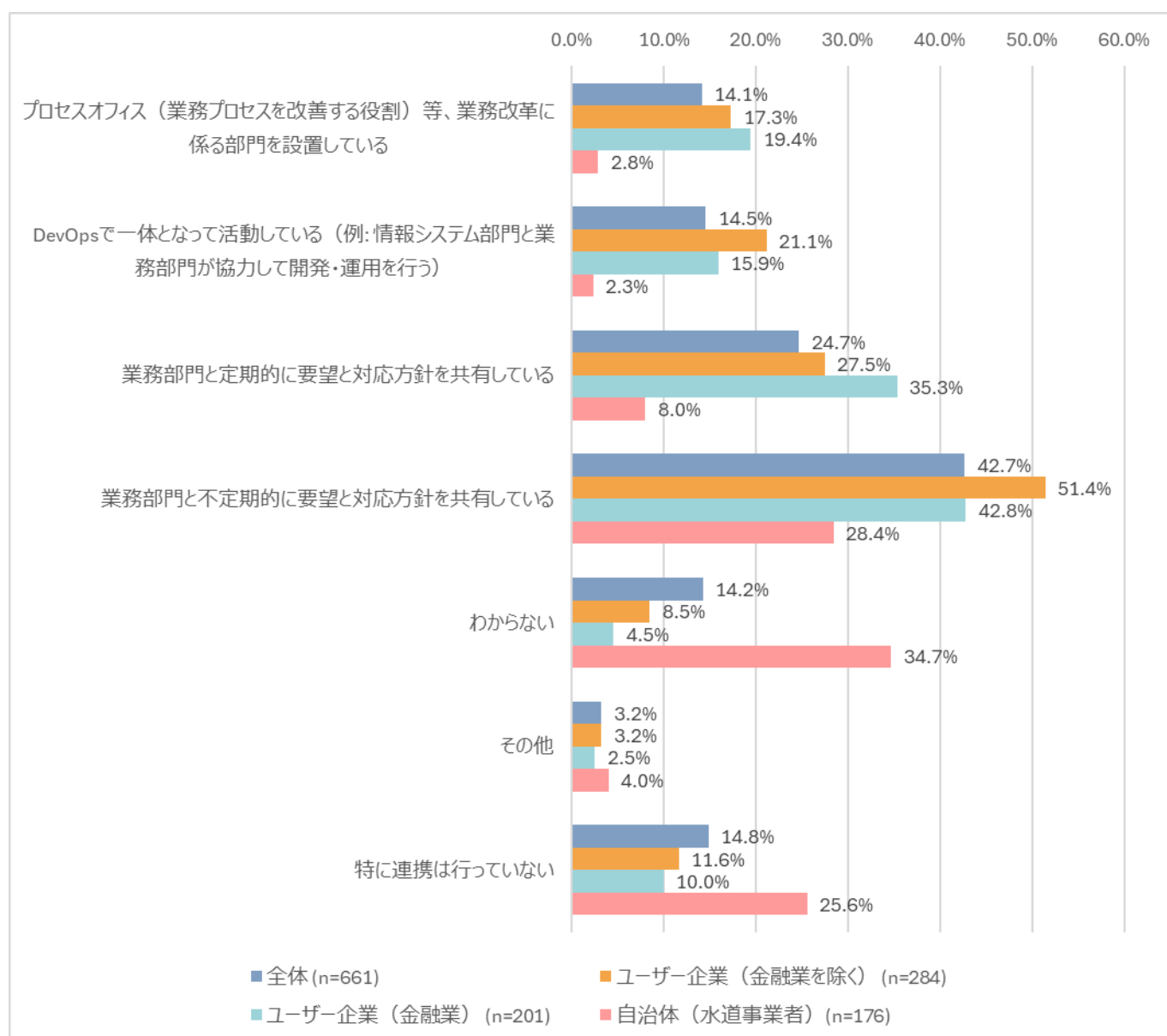
Q2-6 リソース管理ツールの利用状況



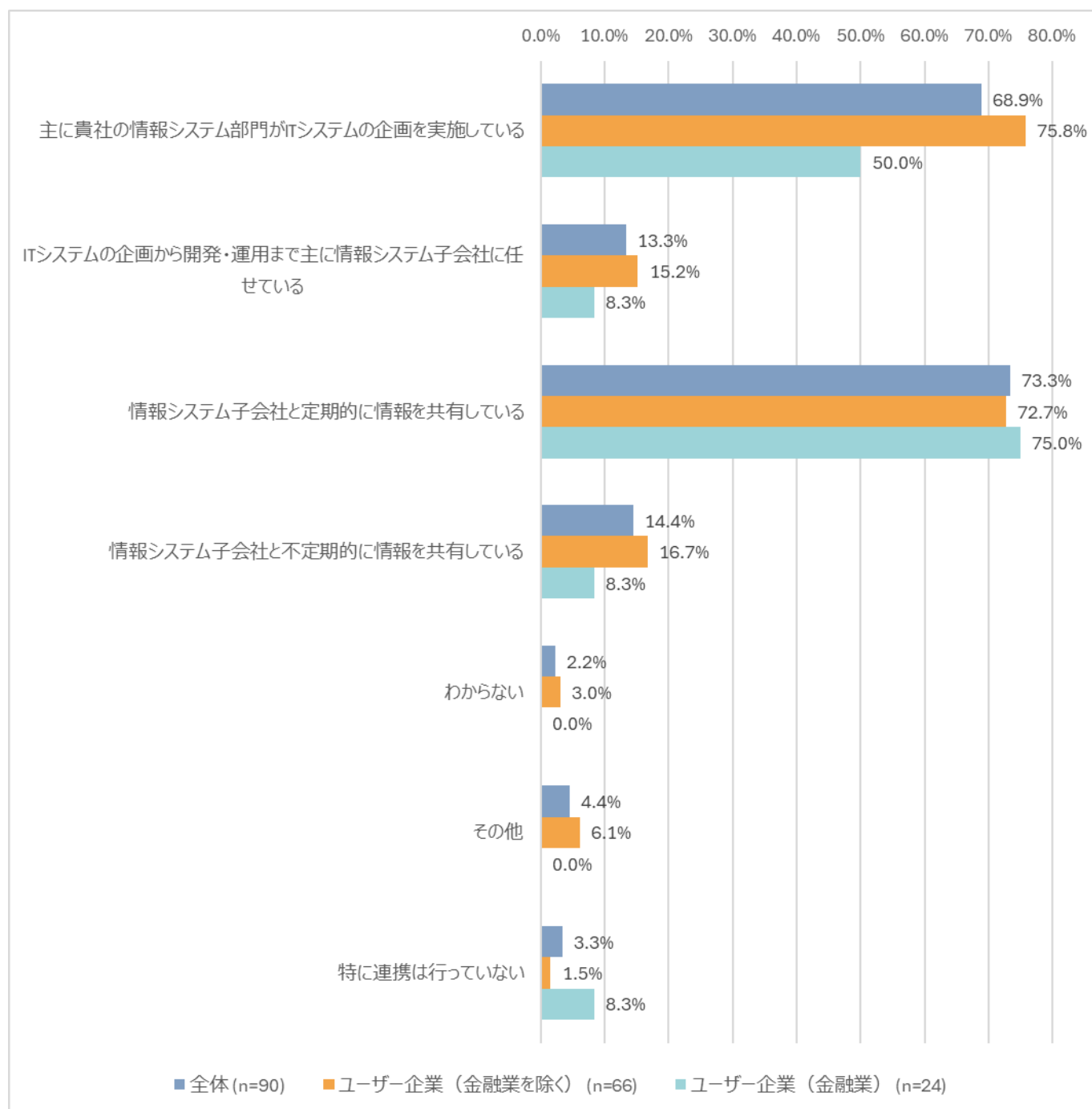
Q2-7 情報システム部門と経営者との連携状況



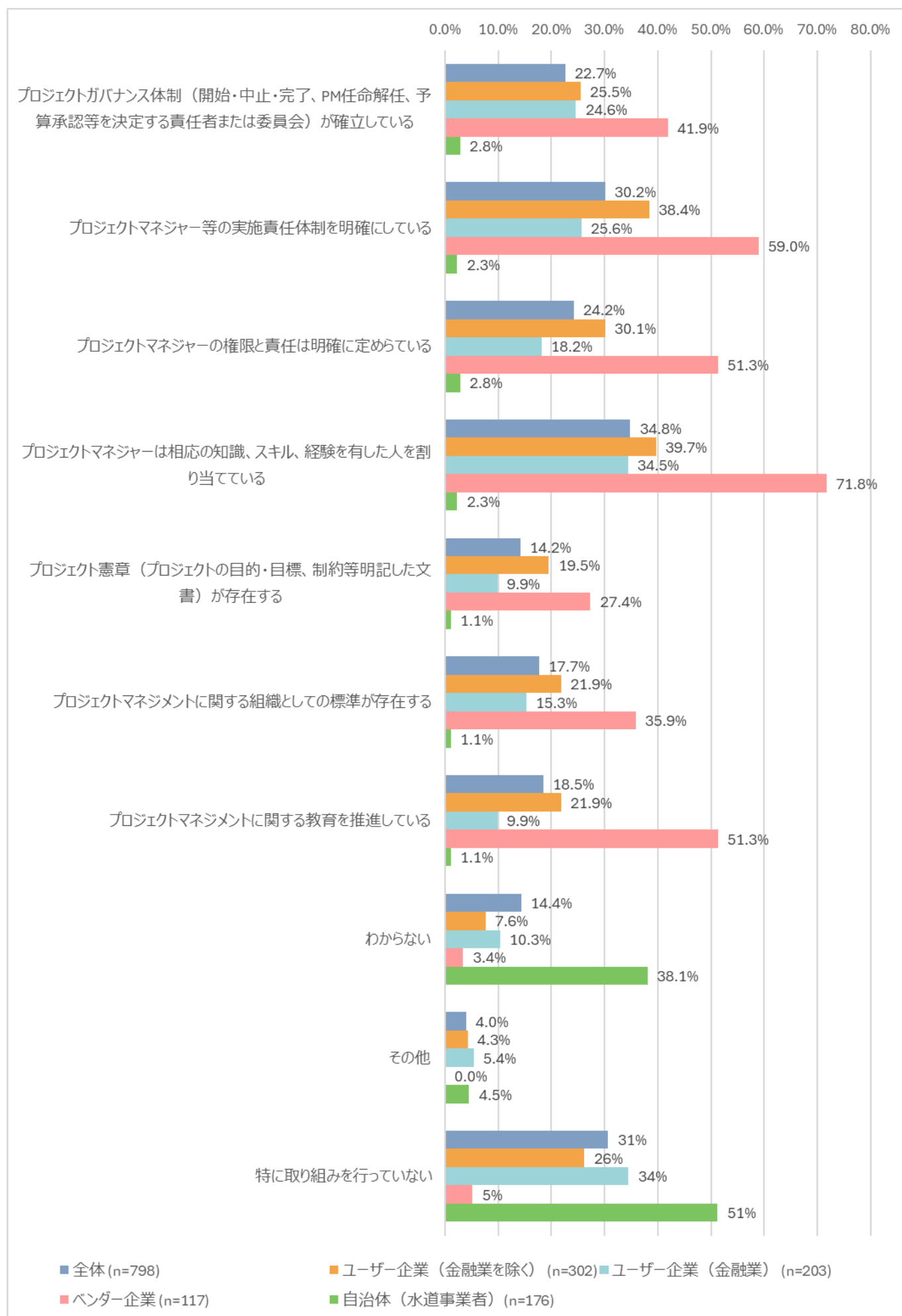
Q2-8 情報システム部門と業務部門との連携状況



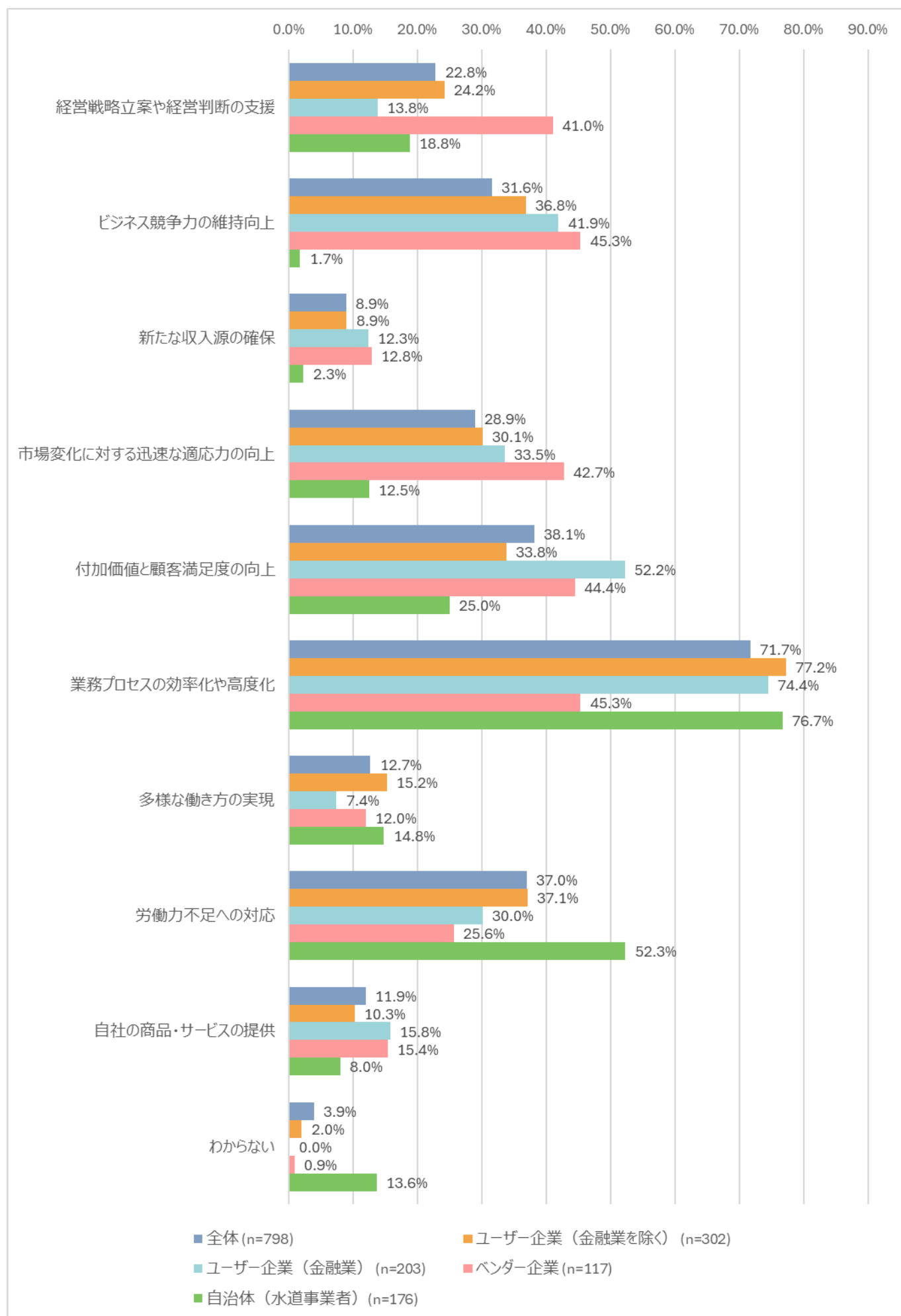
Q2-9 情報システム子会社との連携状況



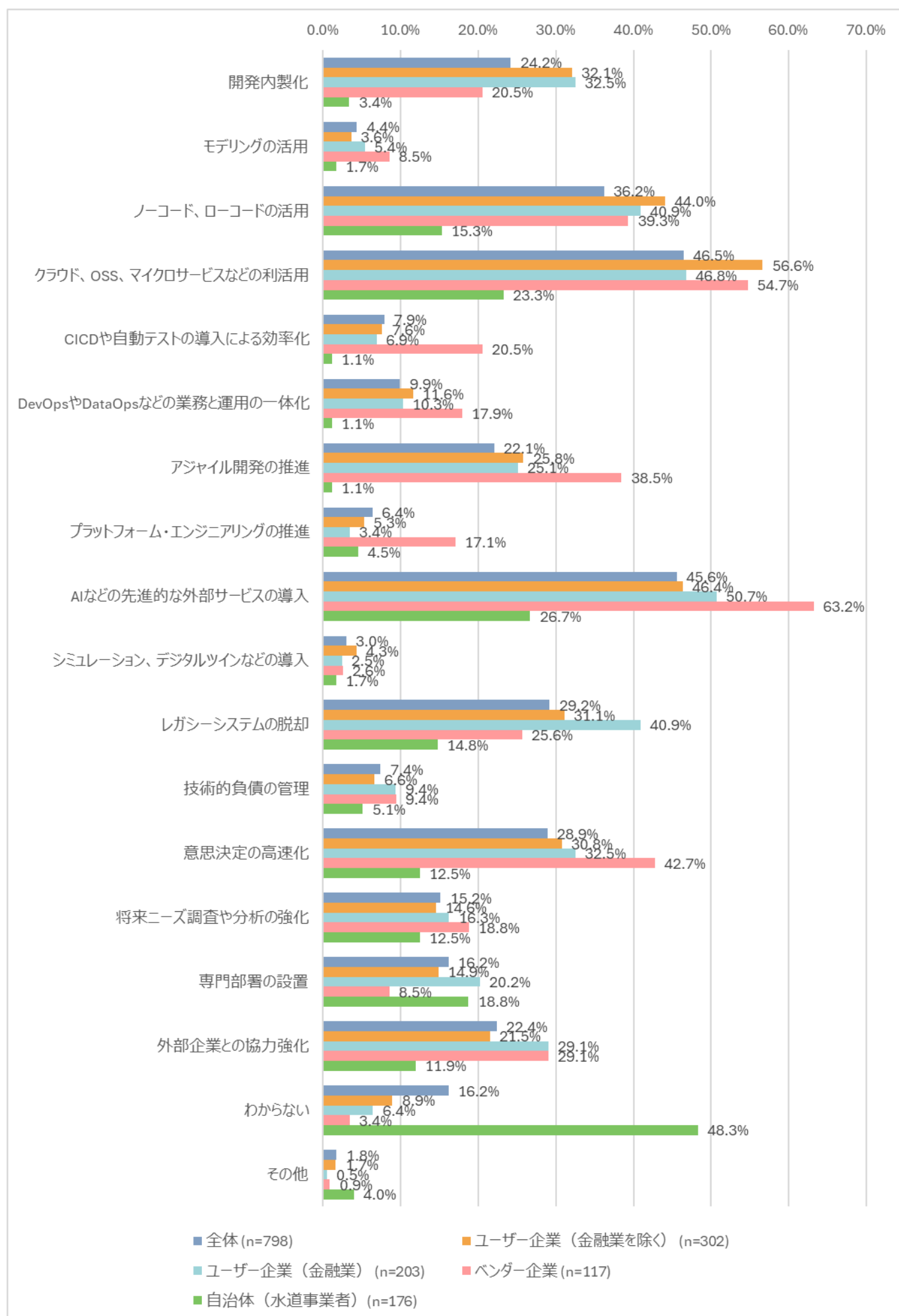
Q2-10 プロジェクトマネジメントの体制



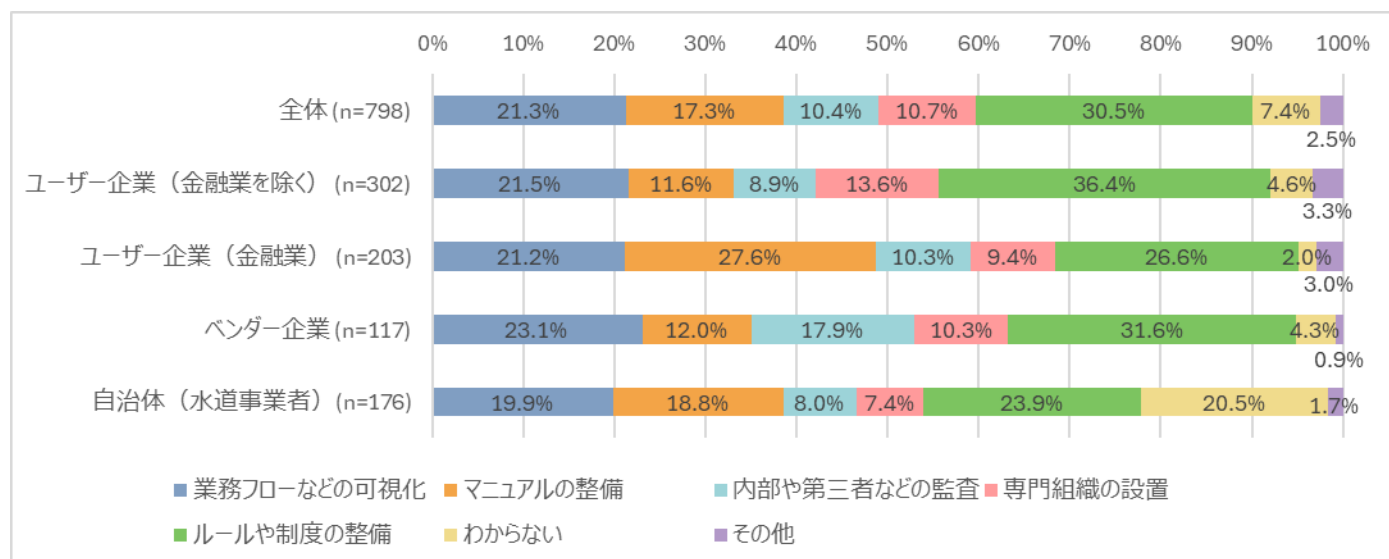
Q2-11 ソフトウェアが事業に与える影響の重視事項



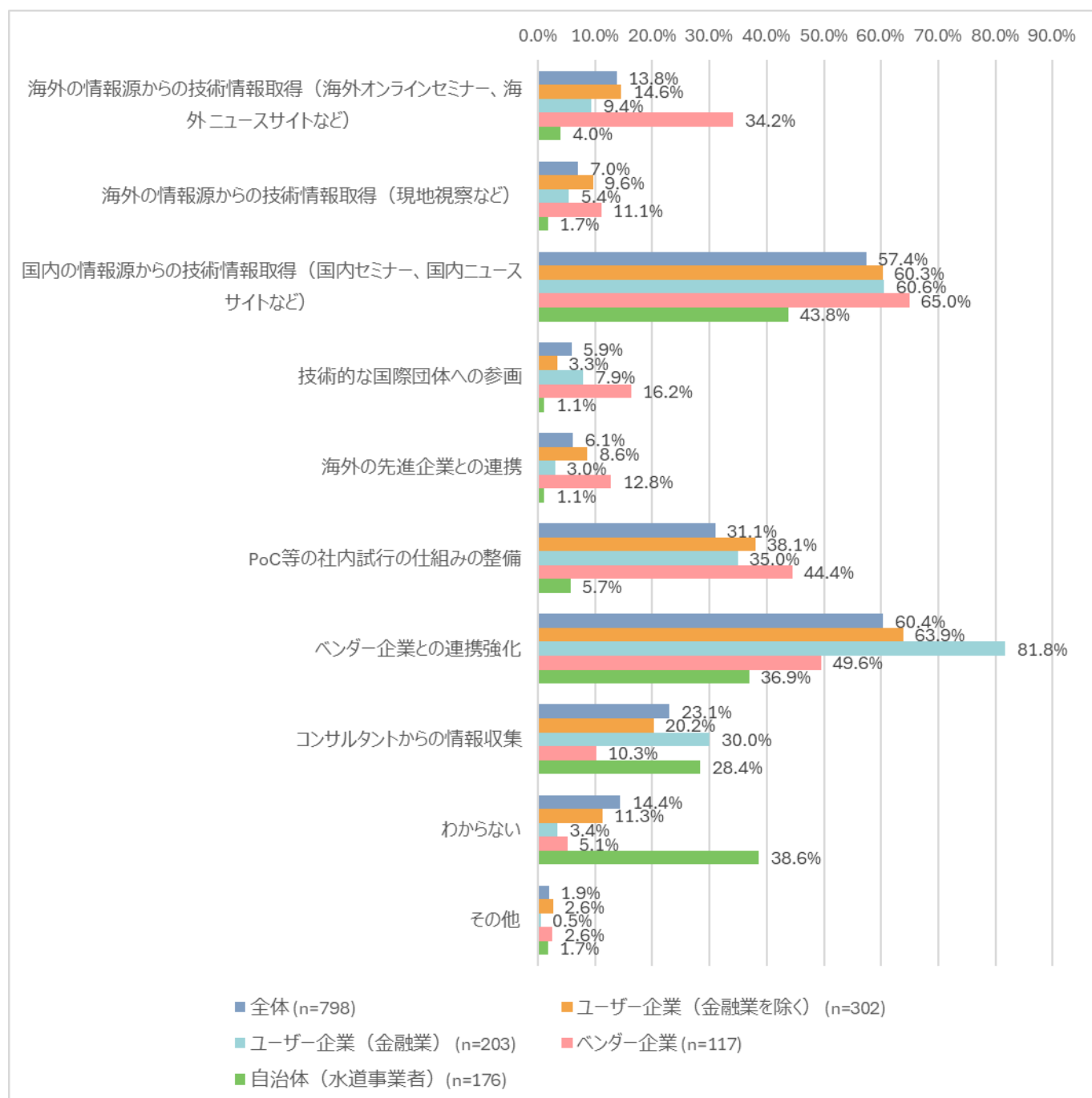
Q2-12 アジリティの高いソフトウェア開発を行う上での重視事項



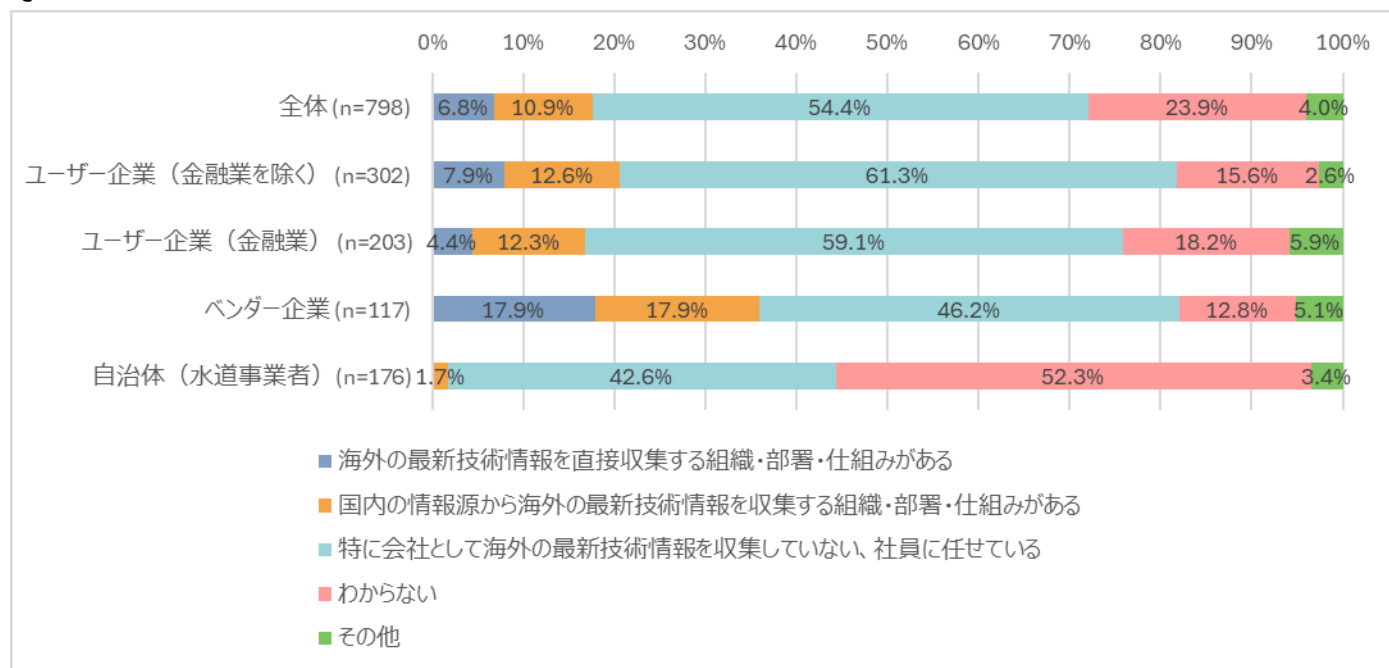
Q2-13 システムのアカウントビリティの重視事項



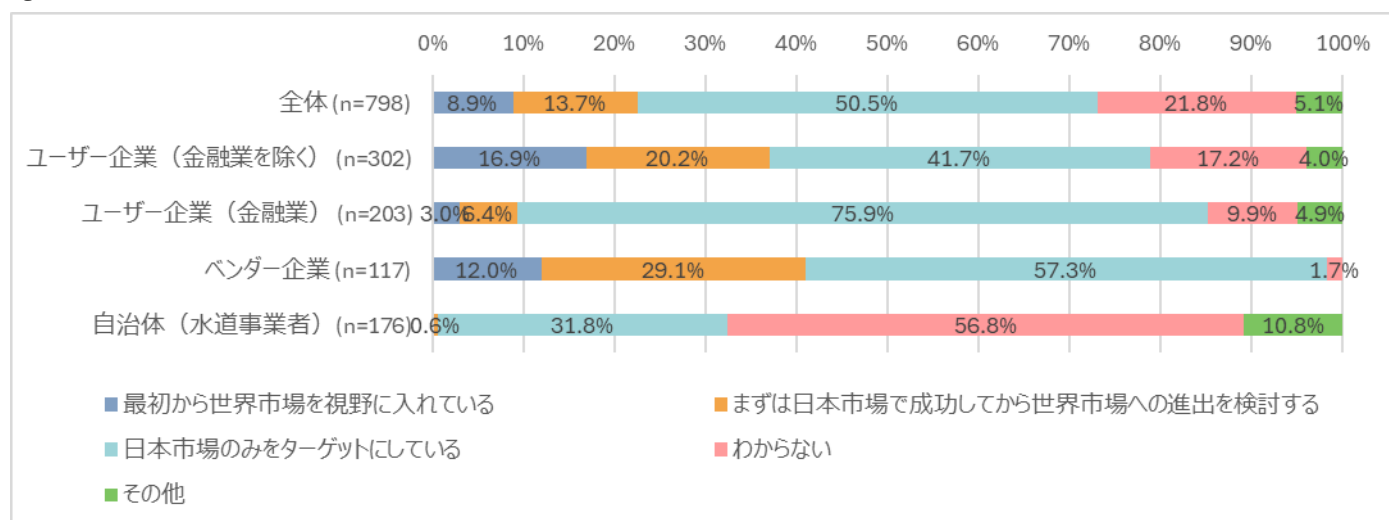
Q2-14 新技術への対応の重視事項



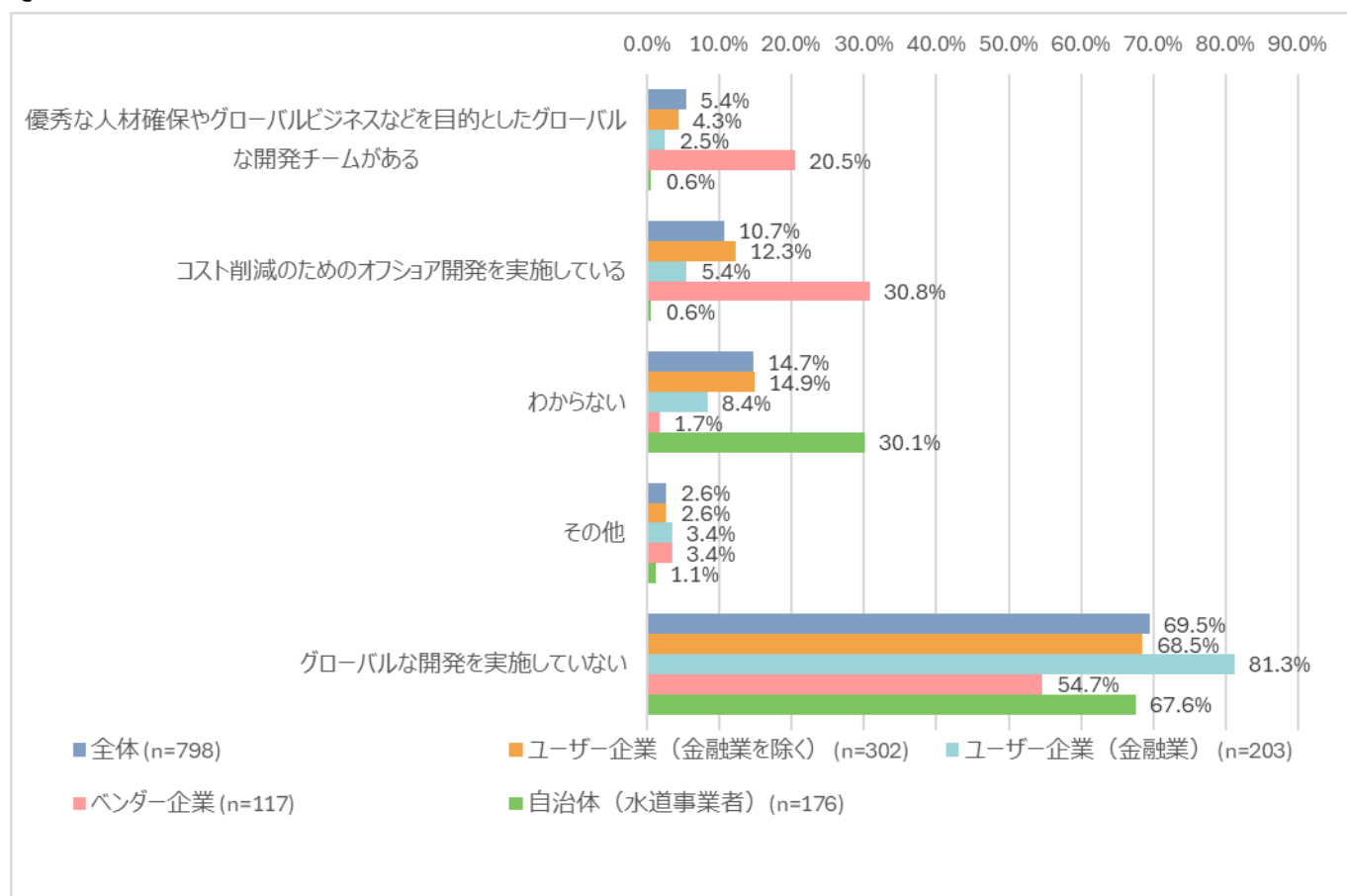
Q2-15 グローバル情報の収集状況



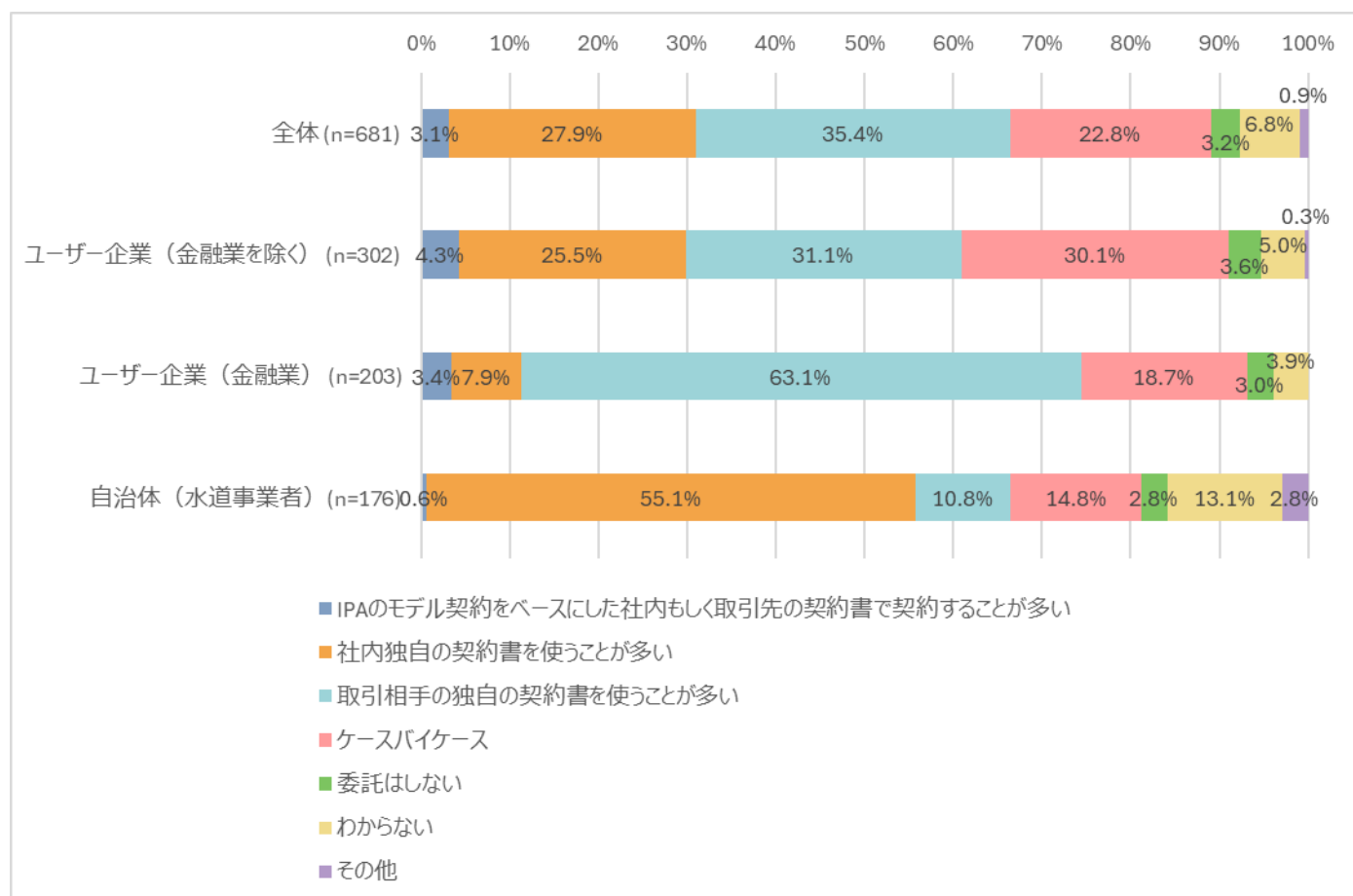
Q2-16 グローバル開発の状況



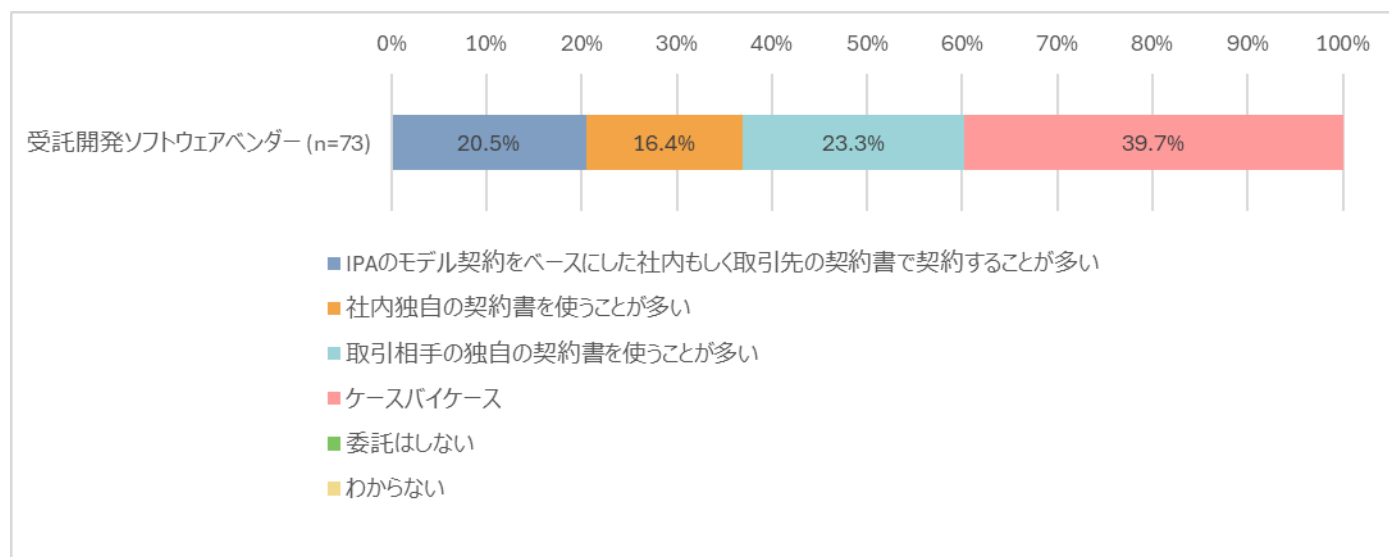
Q2-17 グローバル開発の状況



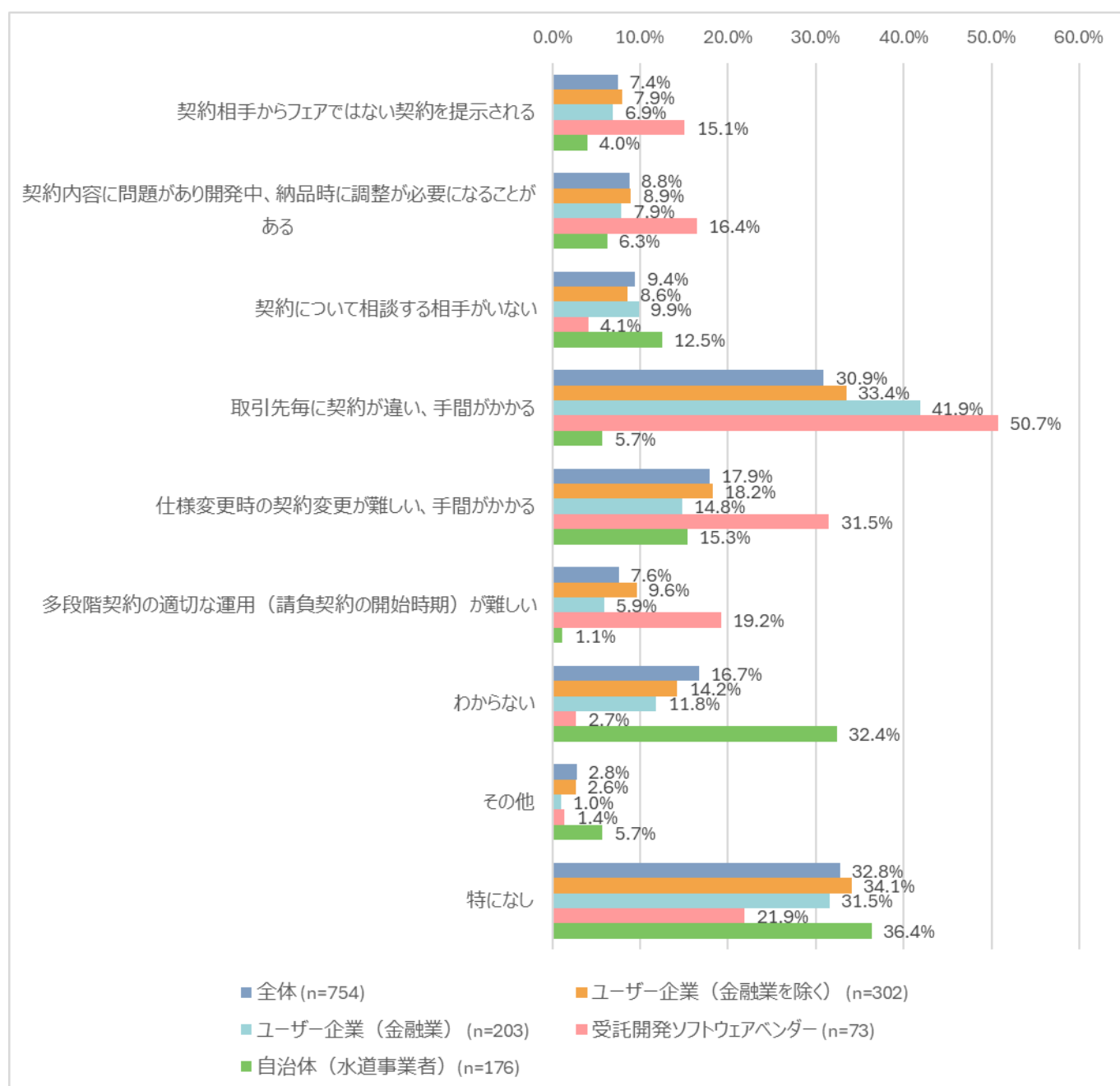
Q2-18 システム委託時の契約書の状況



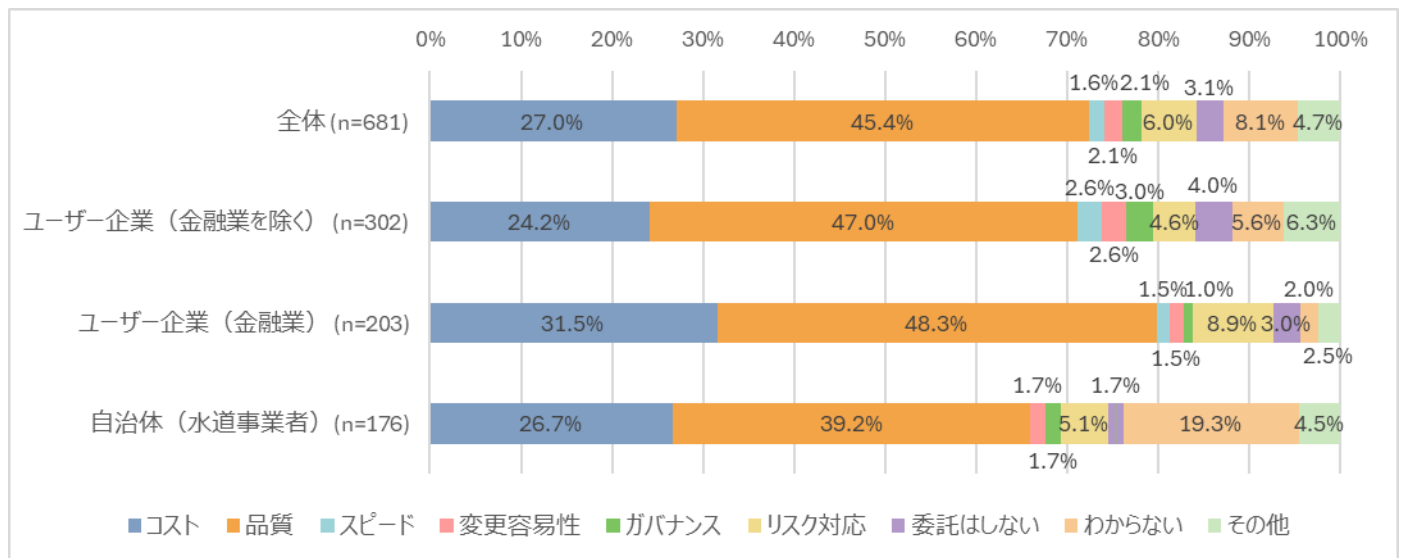
Q2-19 システム受託時の契約書の状況



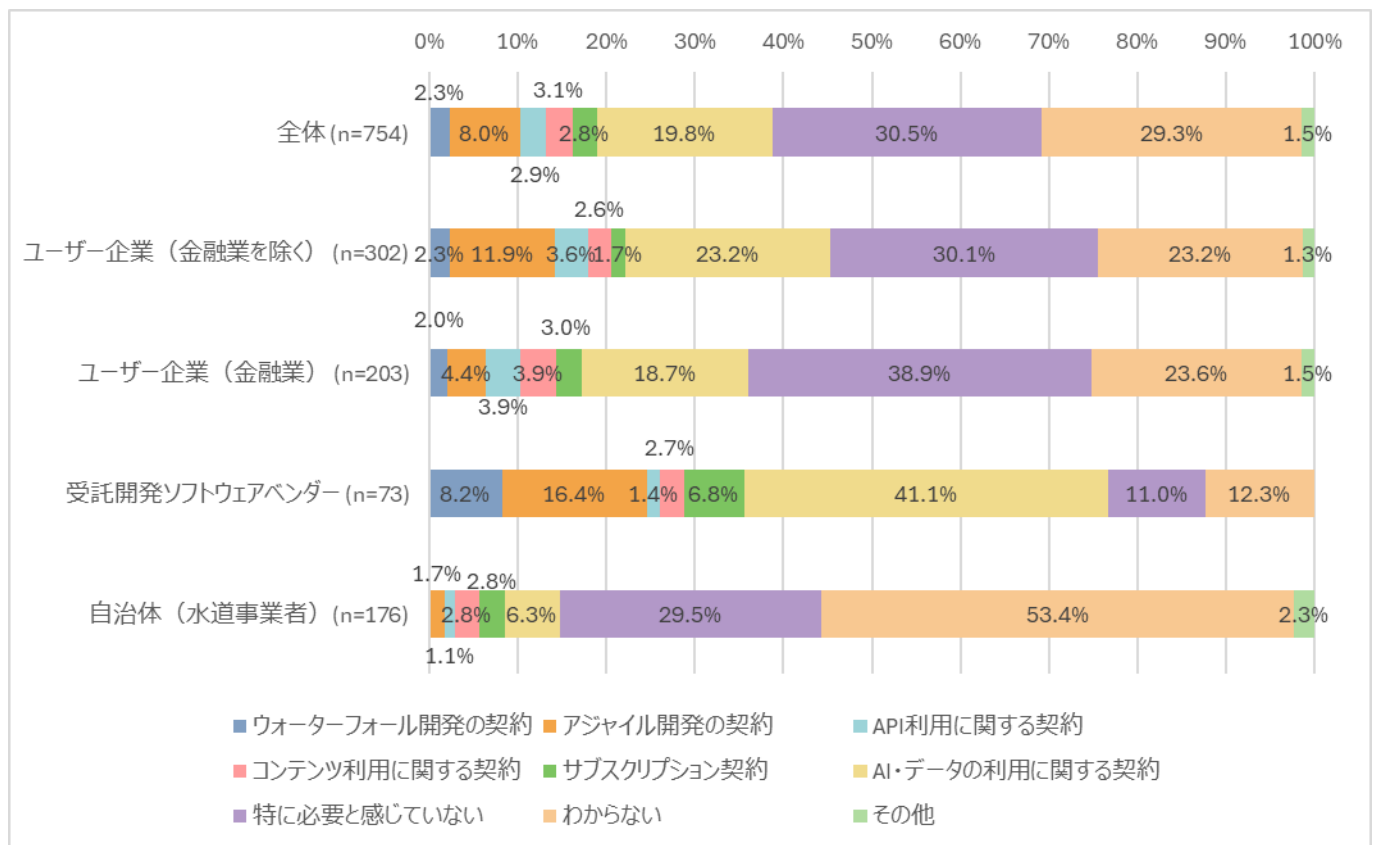
Q2-20 契約時の課題



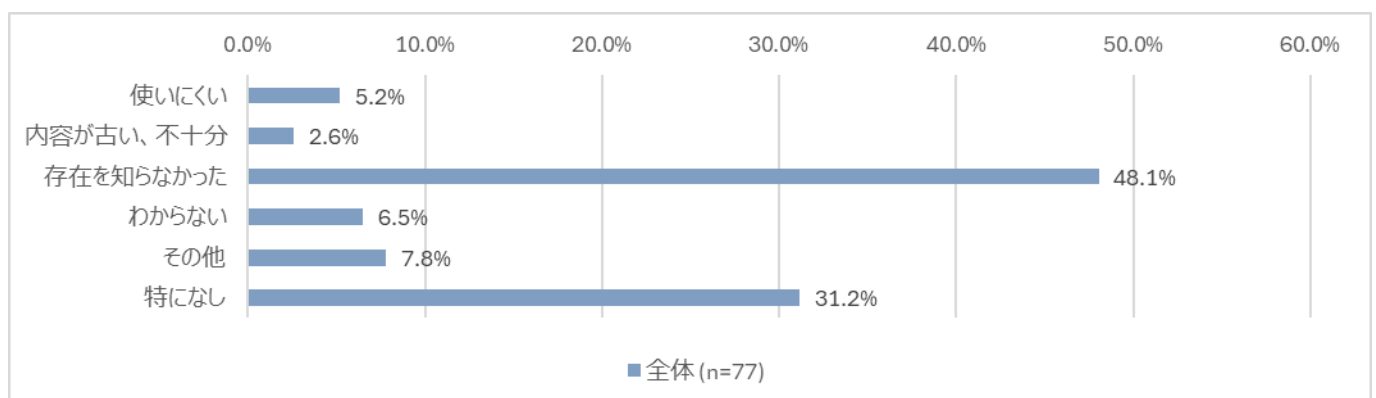
Q2-21 ソフトウェア開発を委託する際の重視事項



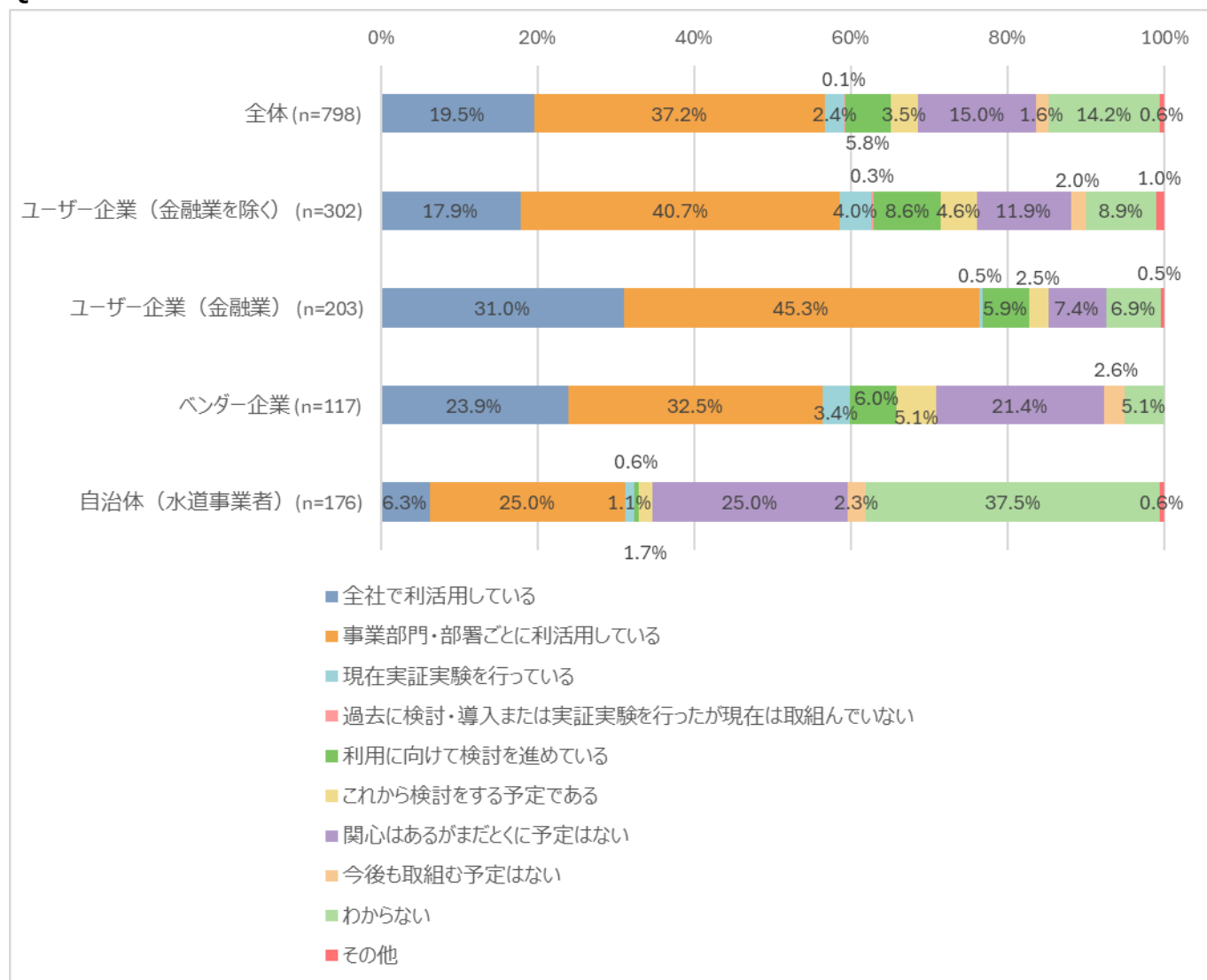
Q2-22 契約関連でひな型が必要なもの



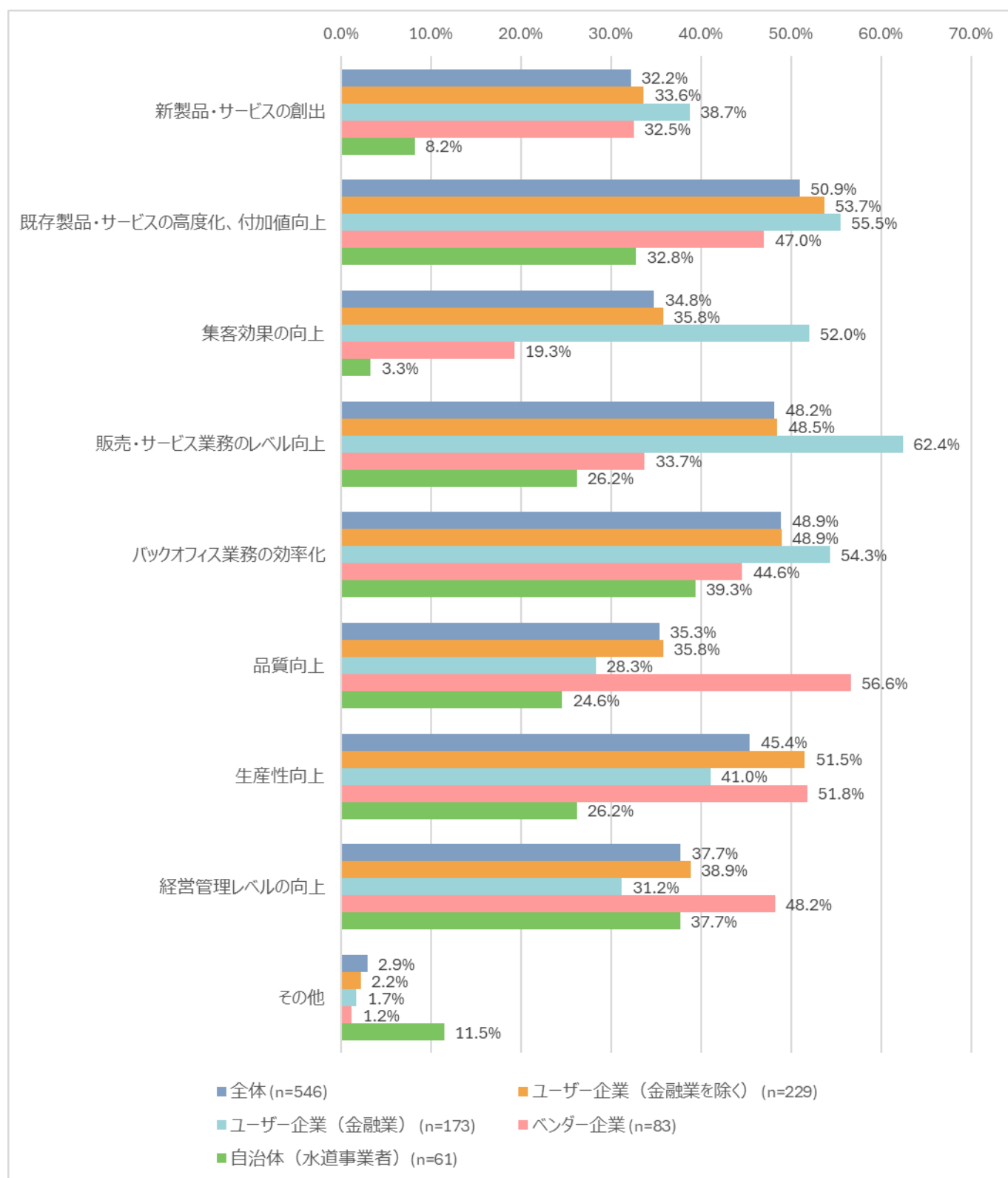
Q2-23 IPA のモデル契約を利用しない理由



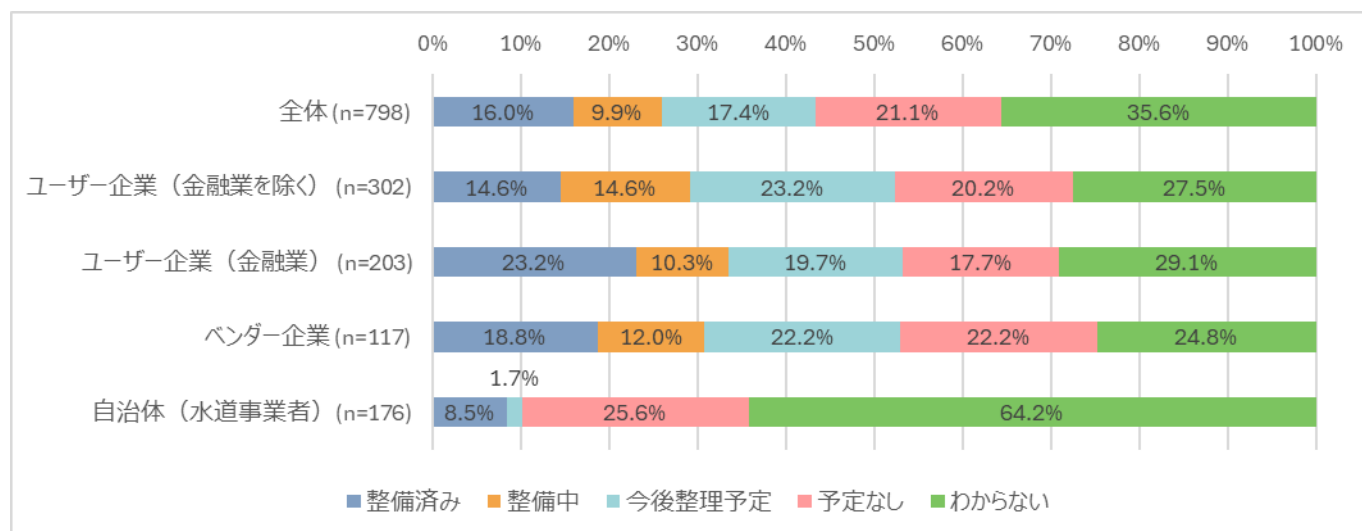
Q2-24 データ利活用の状況



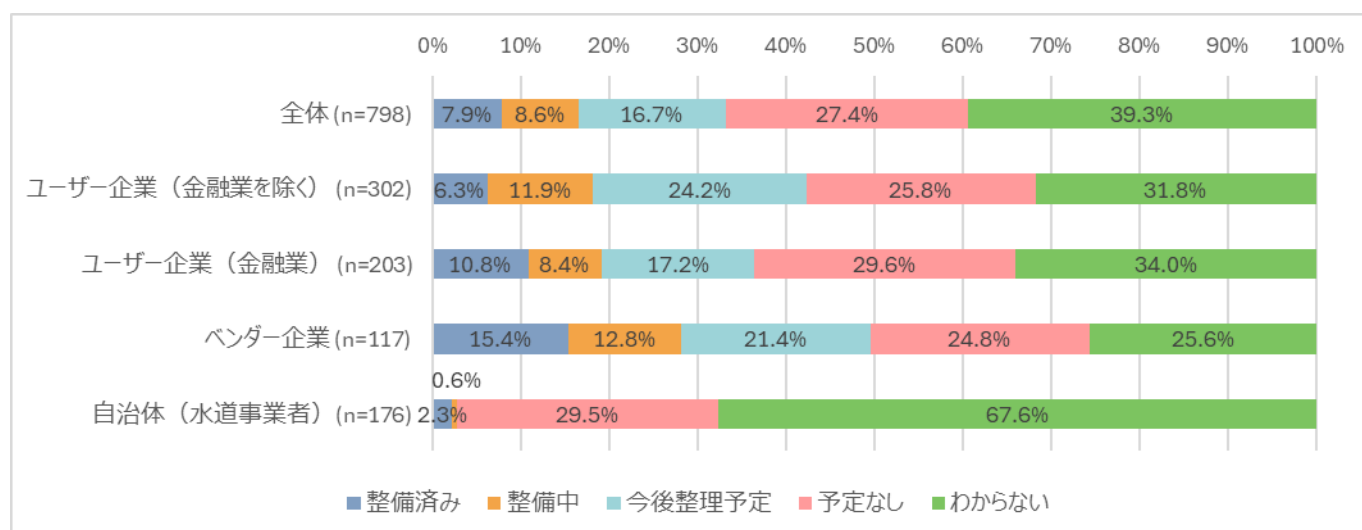
Q2-25 データ利活用の目的



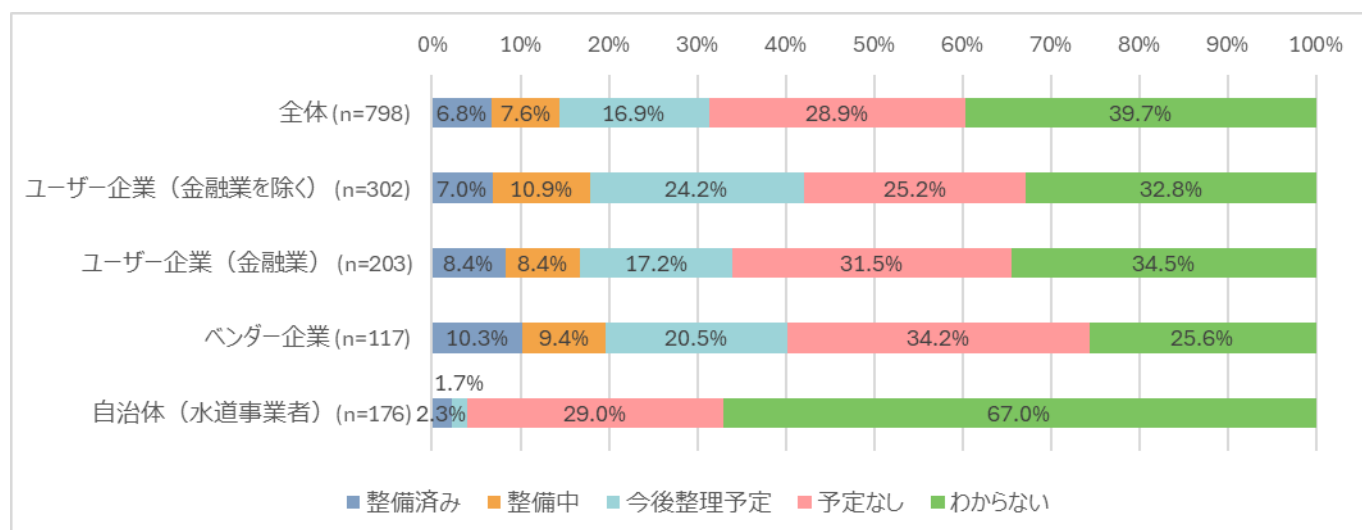
Q2-26 【データマネジメントの状況】データガバナンス



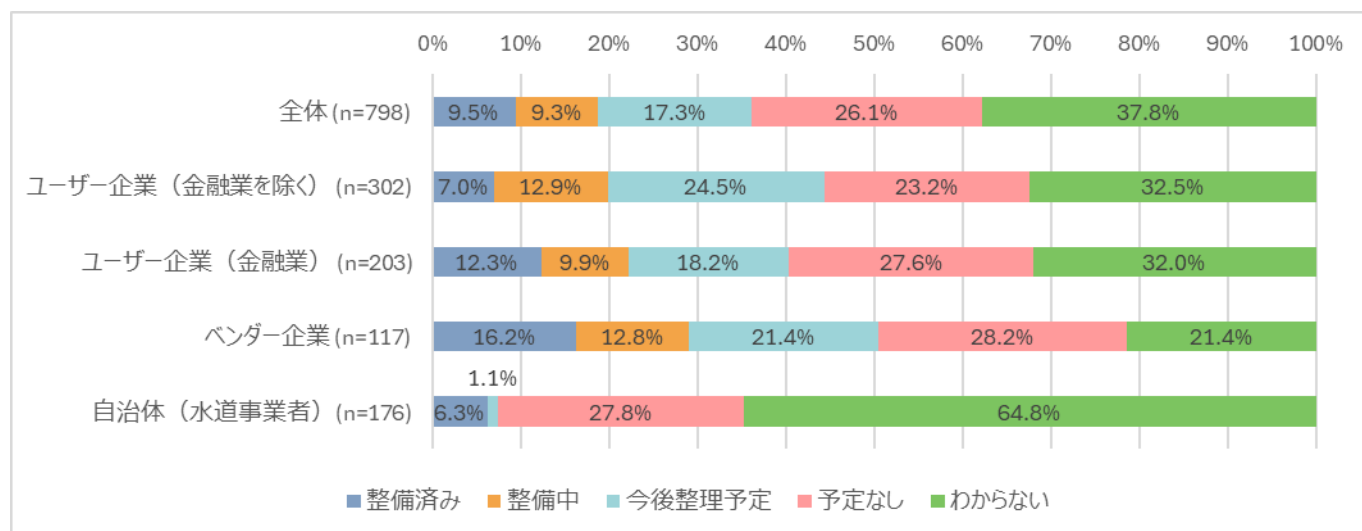
Q2-26 【データマネジメントの状況】データモデル、データアーキテクチャ



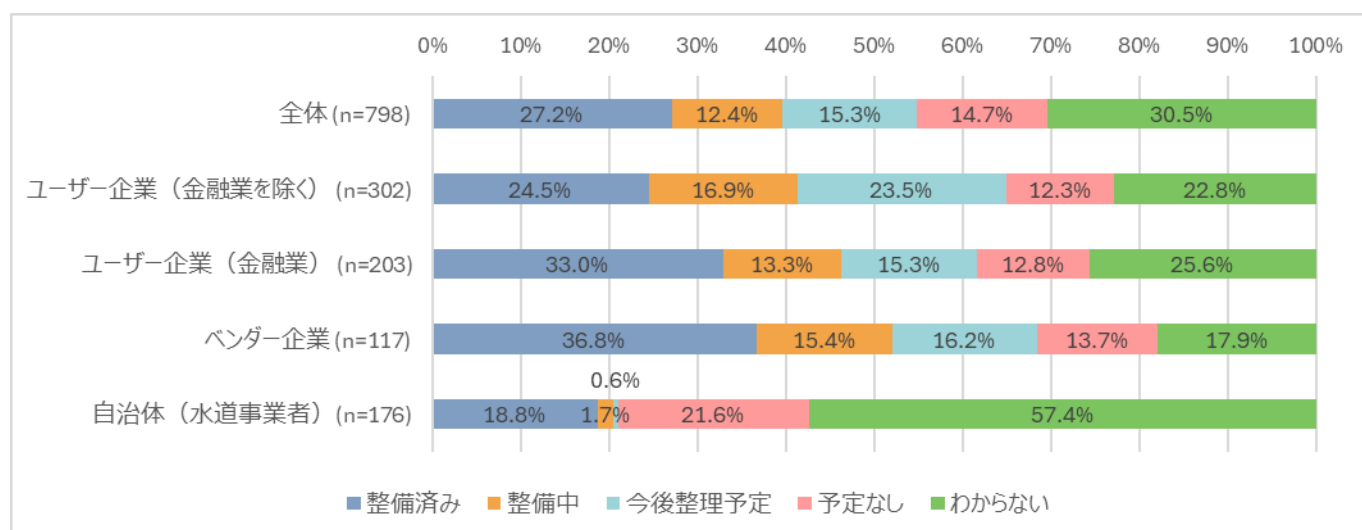
Q2-26 【データマネジメントの状況】データカタログ、メタデータ管理



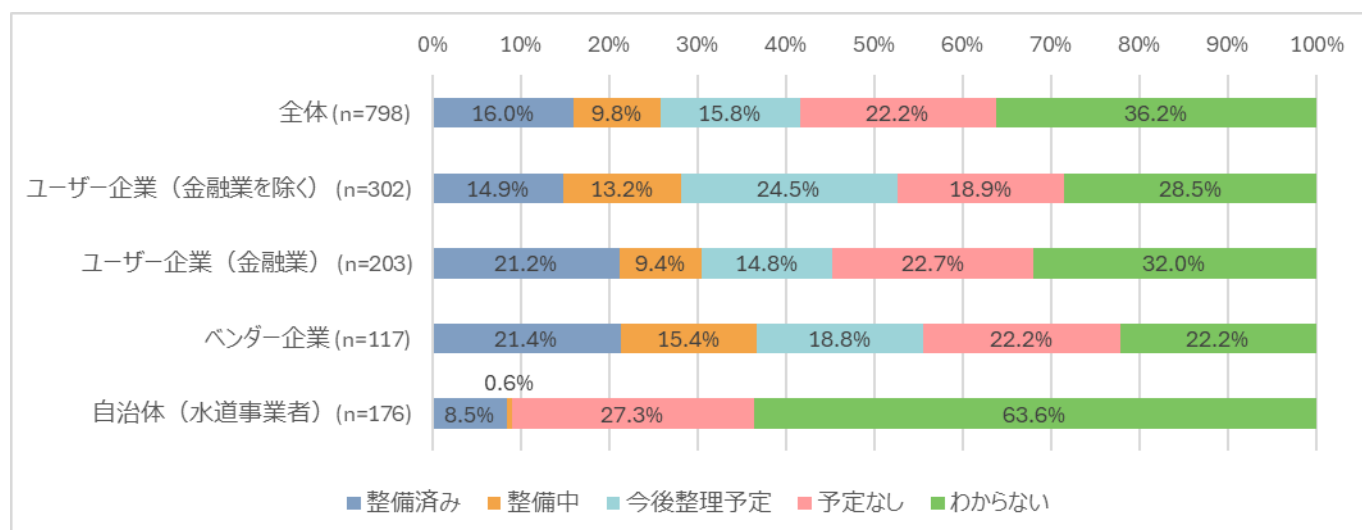
Q2-26 【データマネジメントの状況】データ品質管理



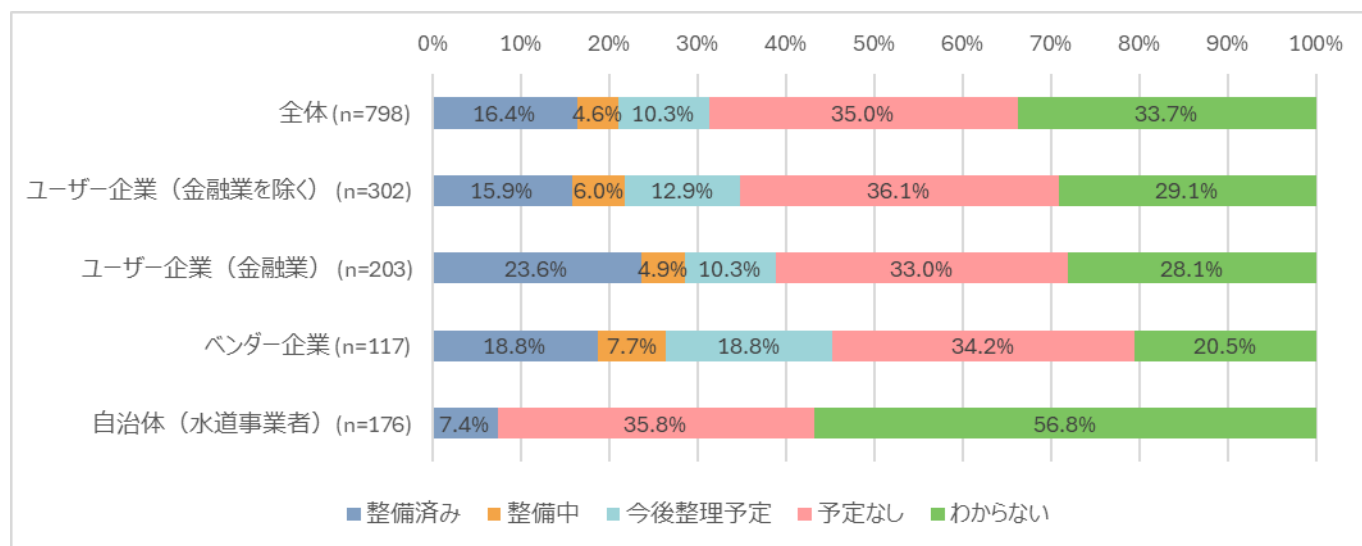
Q2-26 【データマネジメントの状況】データセキュリティ管理



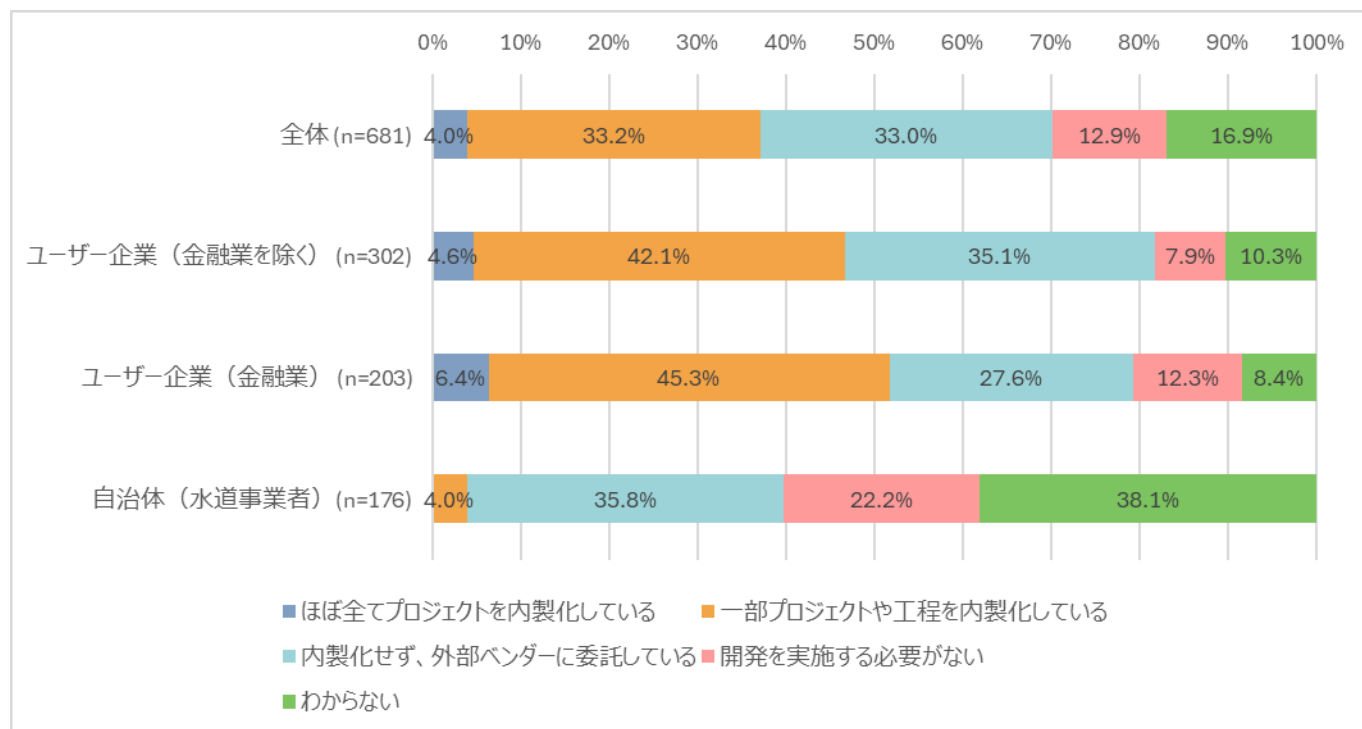
Q2-26 【データマネジメントの状況】マスターデータ管理（MDM）



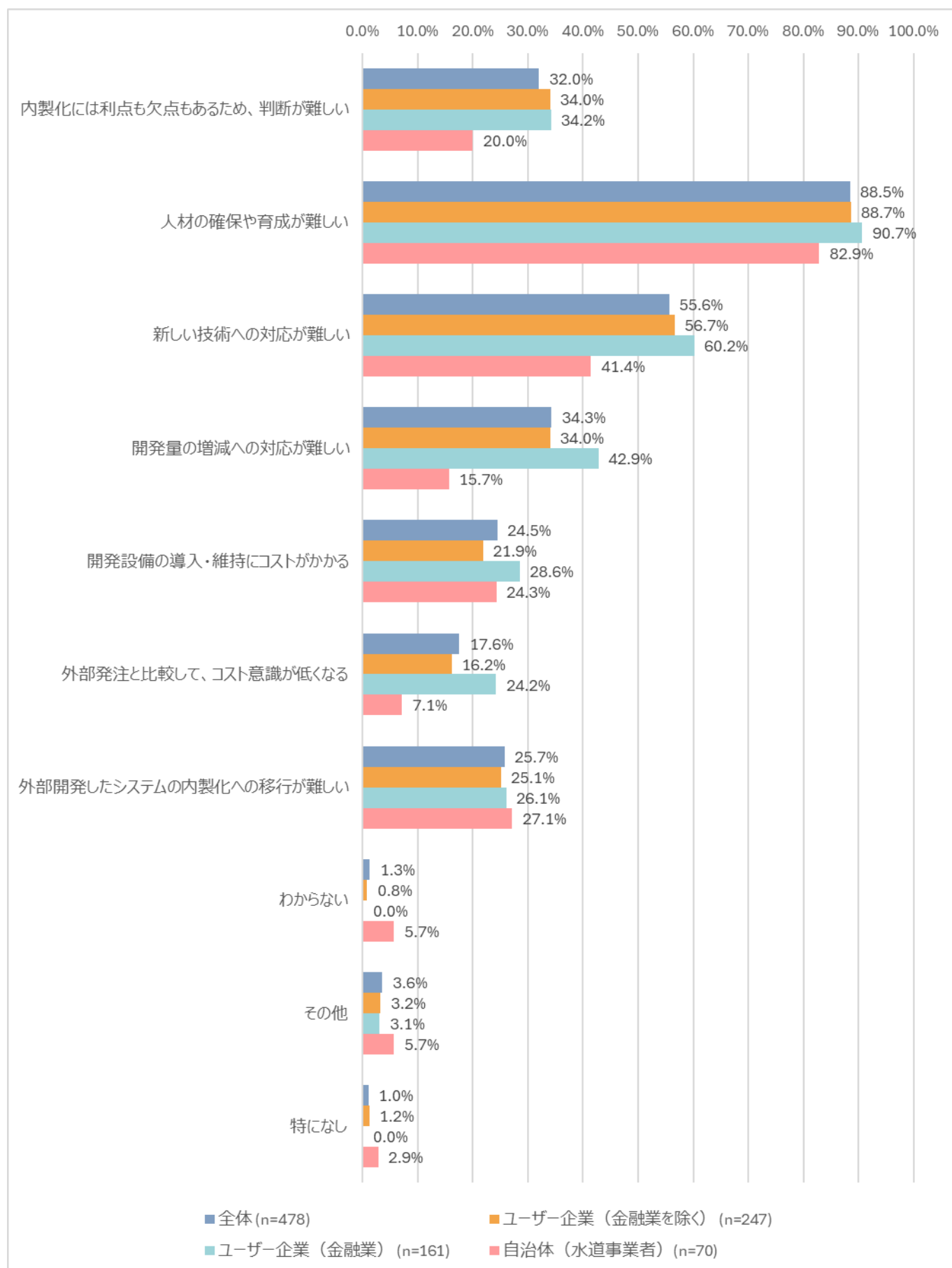
Q2-26 【データマネジメントの状況】専門部署の設置



Q2-27 開発内製化の状況

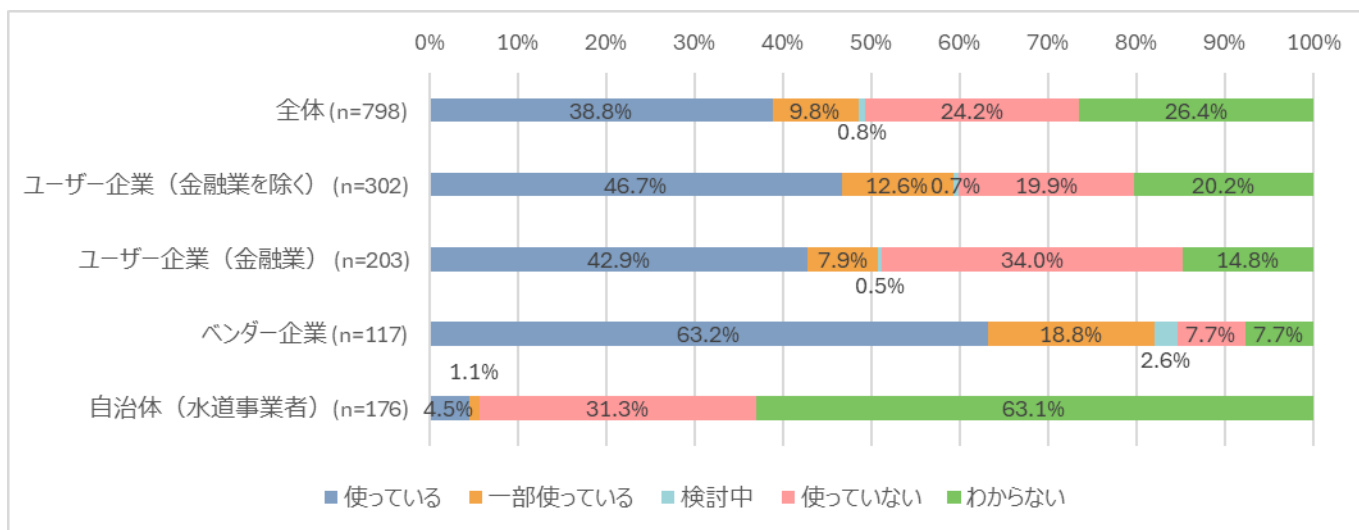


Q2-28 開発内製化の課題

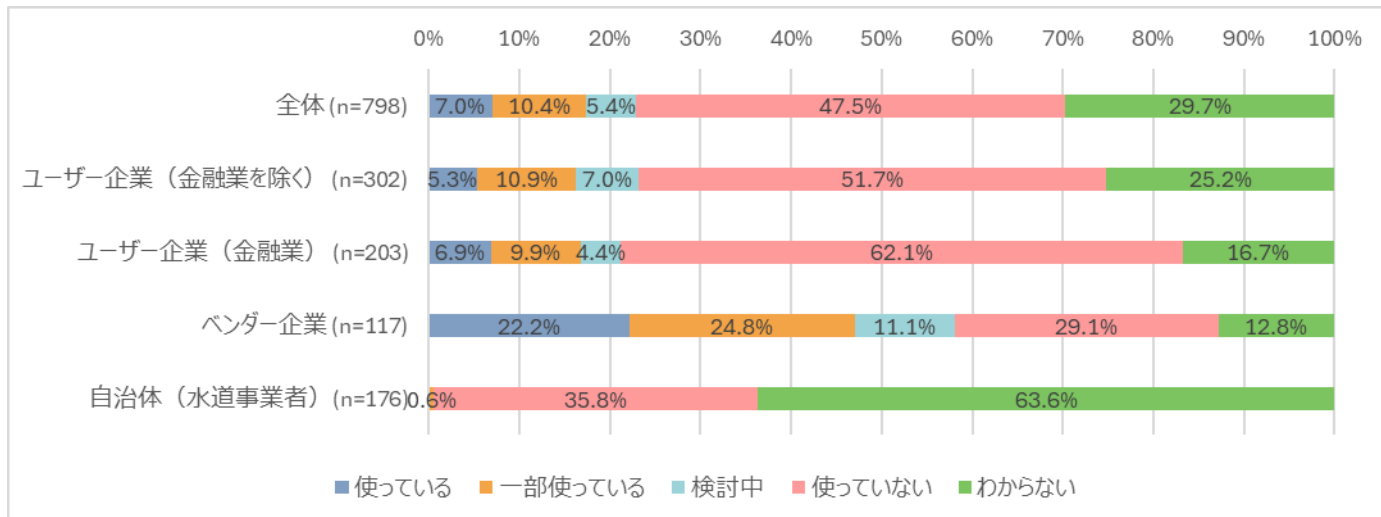


<技術>

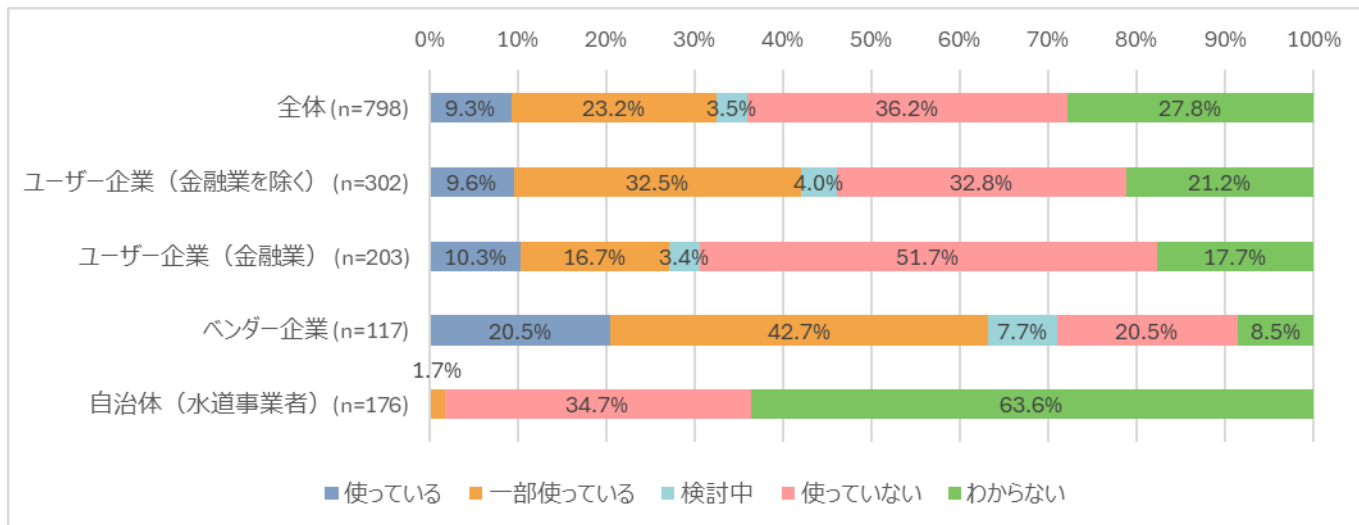
Q3-1-1 【開発手法の導入状況】ウォーターフォール



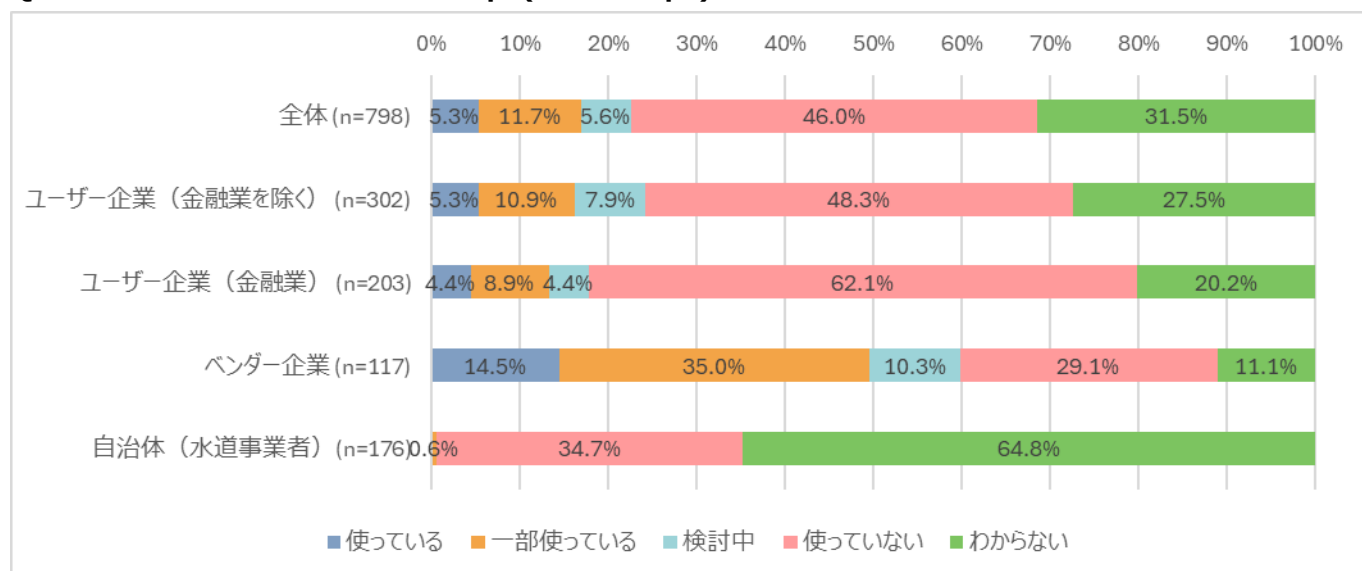
Q3-1-2 【開発手法の導入状況】アジャイル(スクラム等の厳密なルールがある)



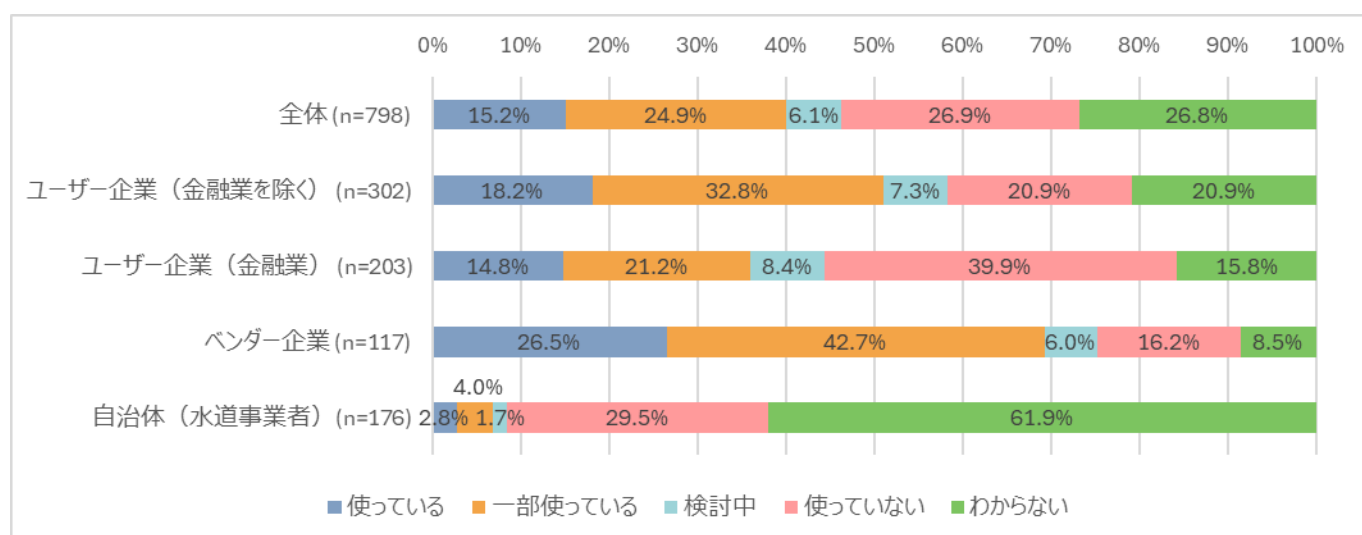
Q3-1-3 【開発手法の導入状況】アジャイル(厳密なルールがない)



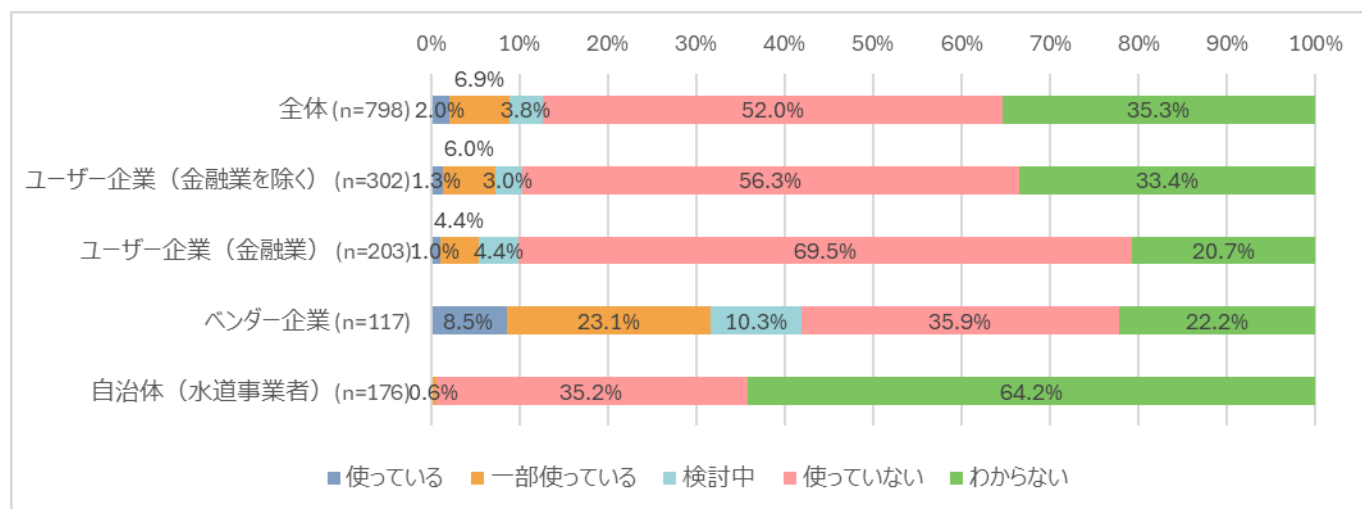
Q3-1-4 【開発手法の導入状況】DevOps(DevSecOps)



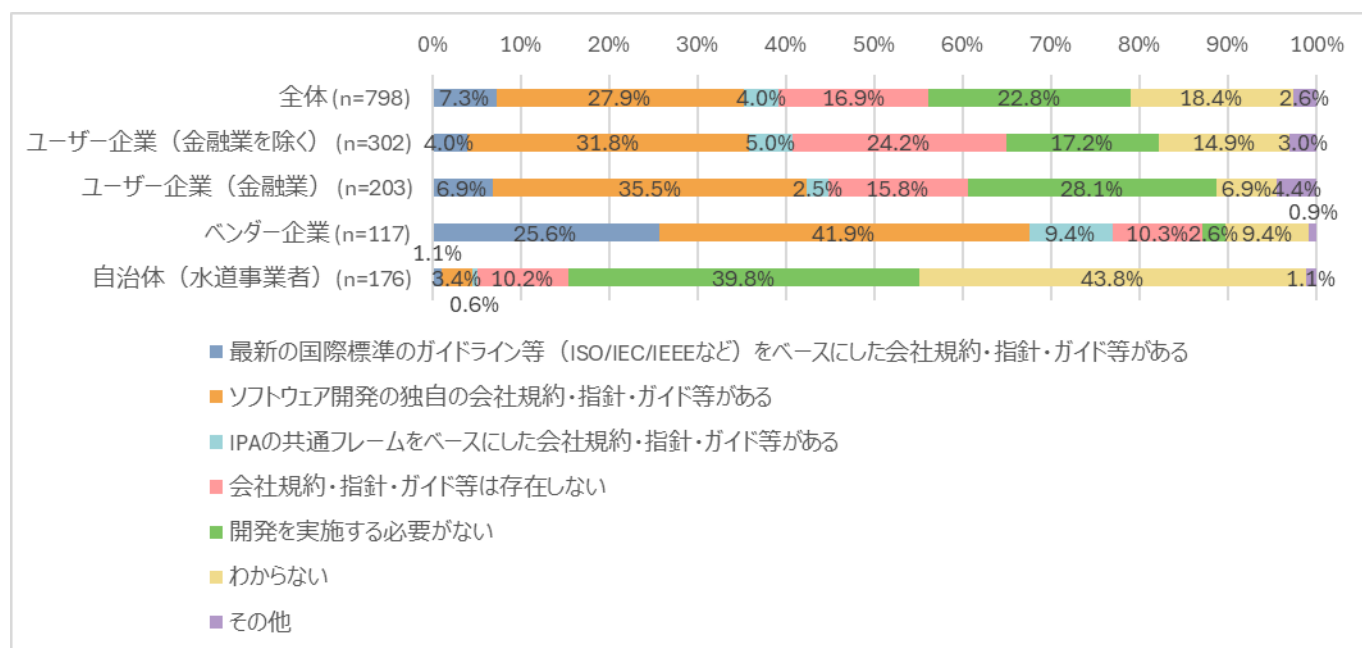
Q3-1-5 【開発手法の導入状況】ノーコード/ローコード



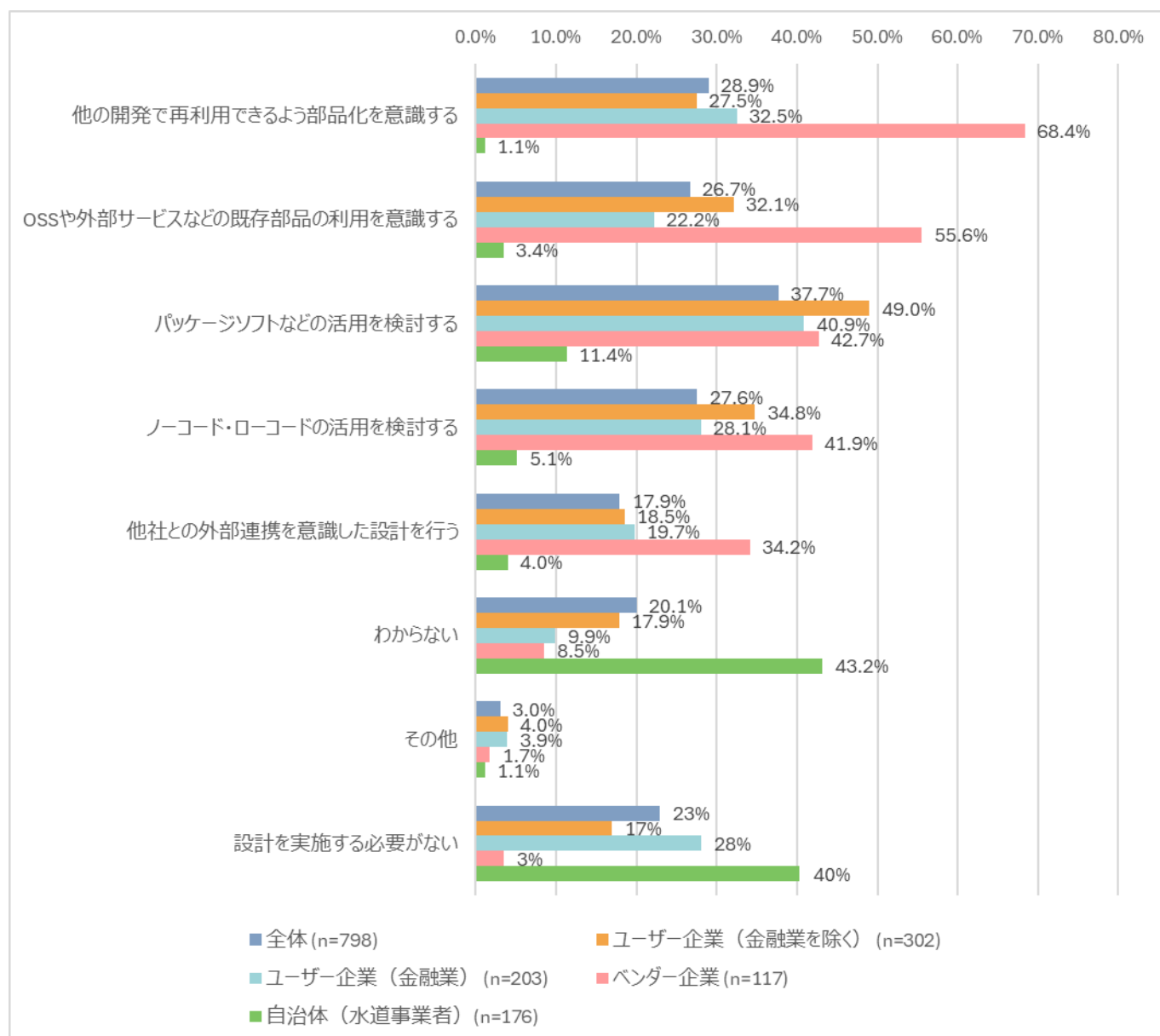
Q3-1-6 【開発手法の導入状況】モデルベース開発



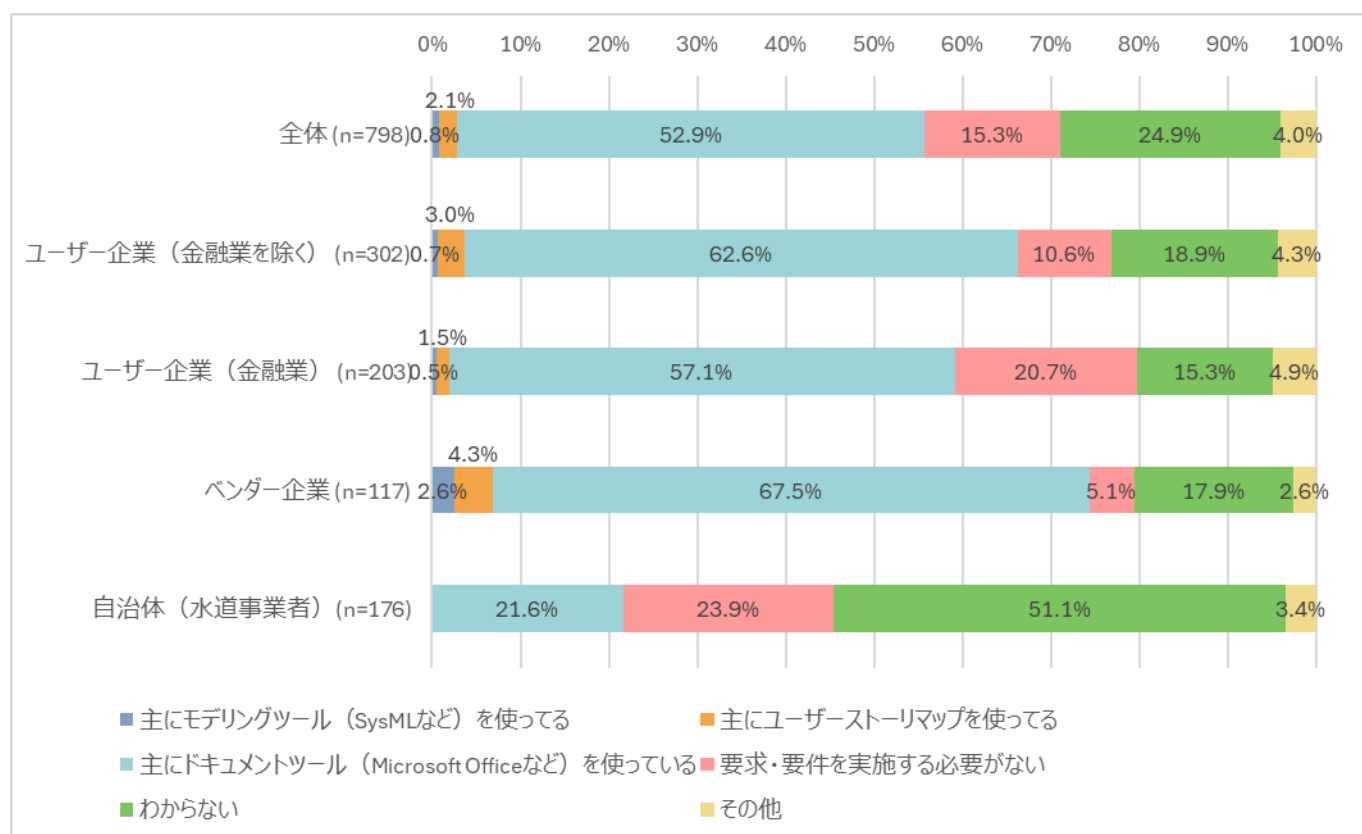
Q3-2 ソフトウェア開発ガイドライン制定状況



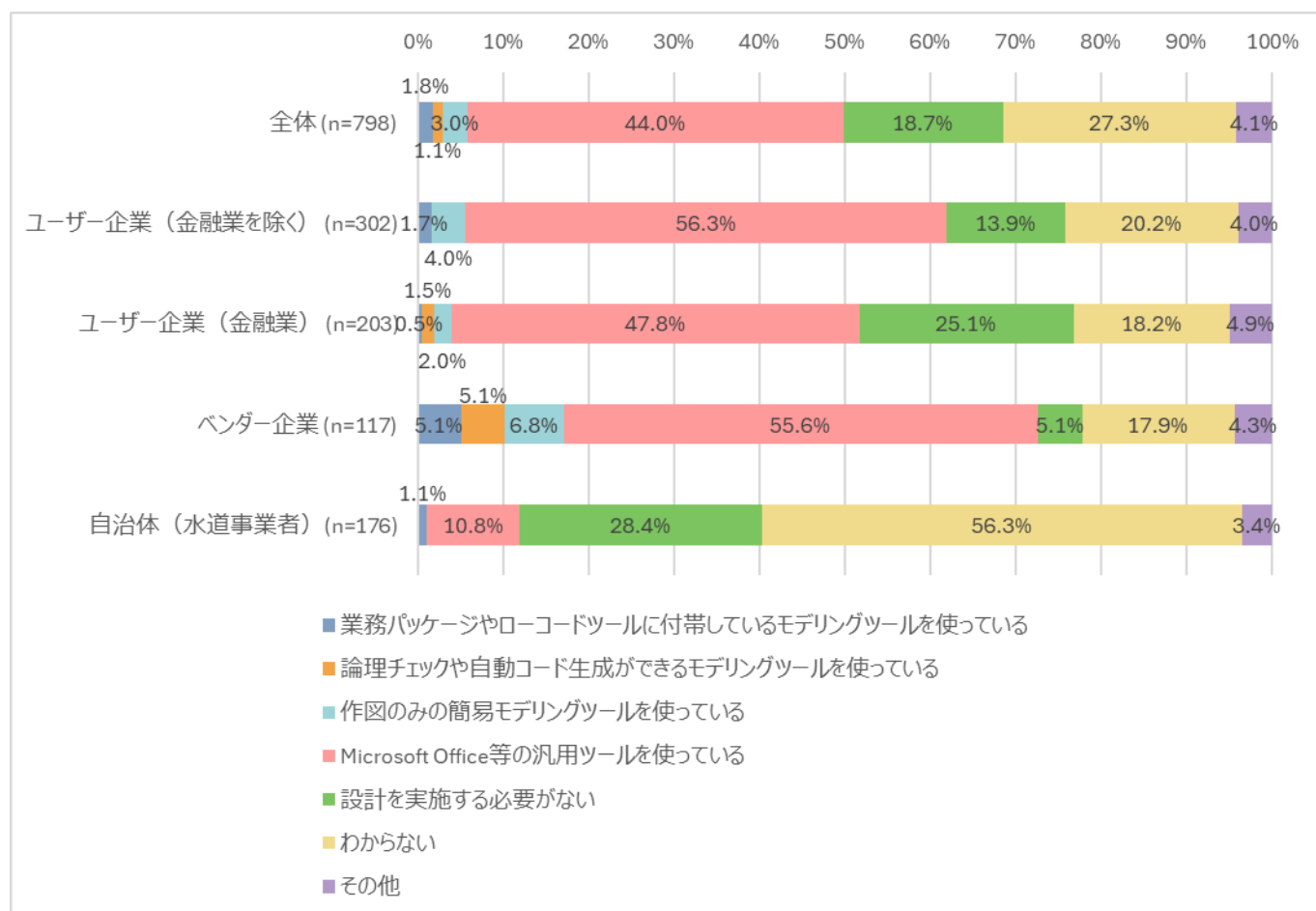
Q3-3 設計時の方針



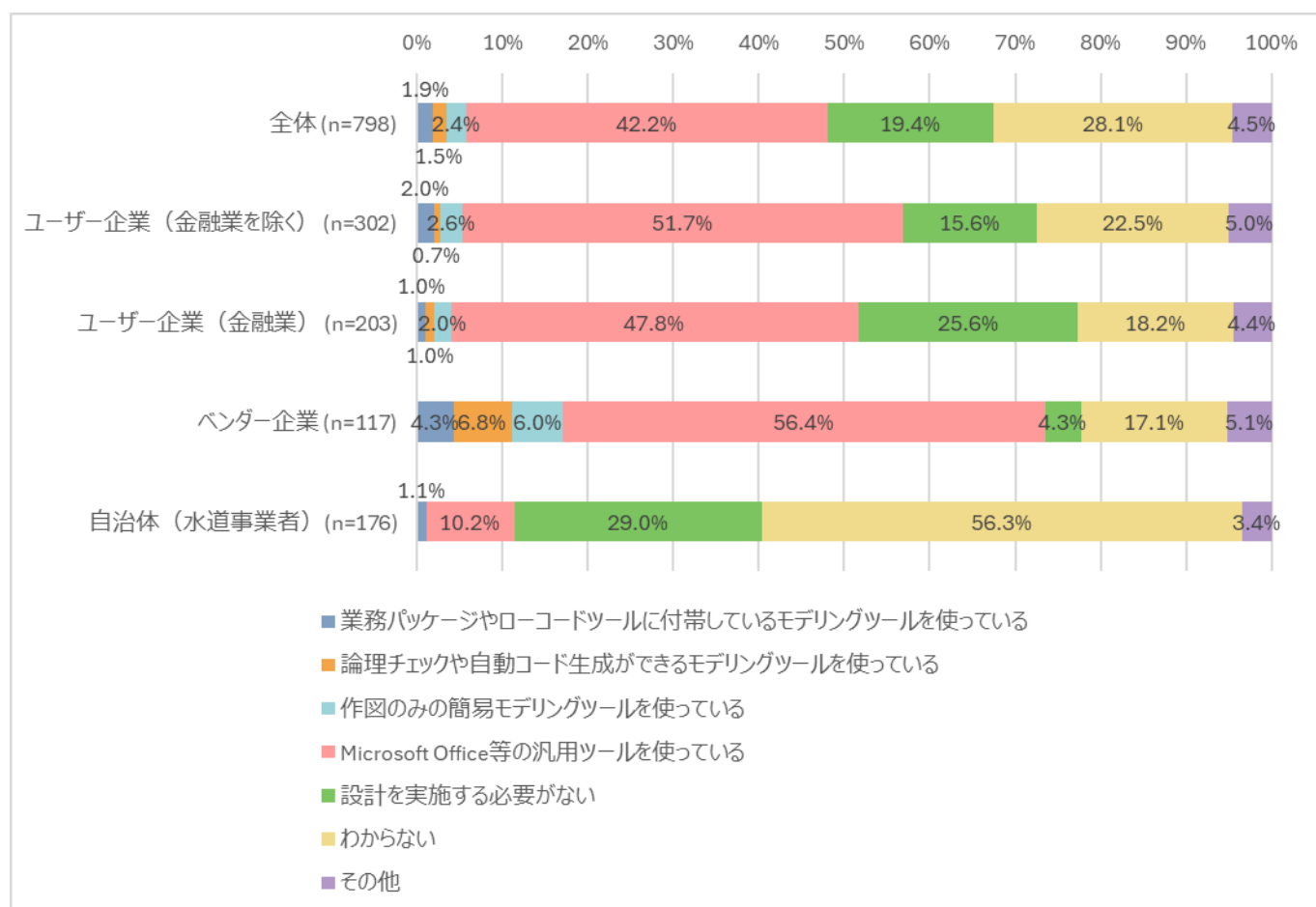
Q3-4 要求・要件の可視化状況



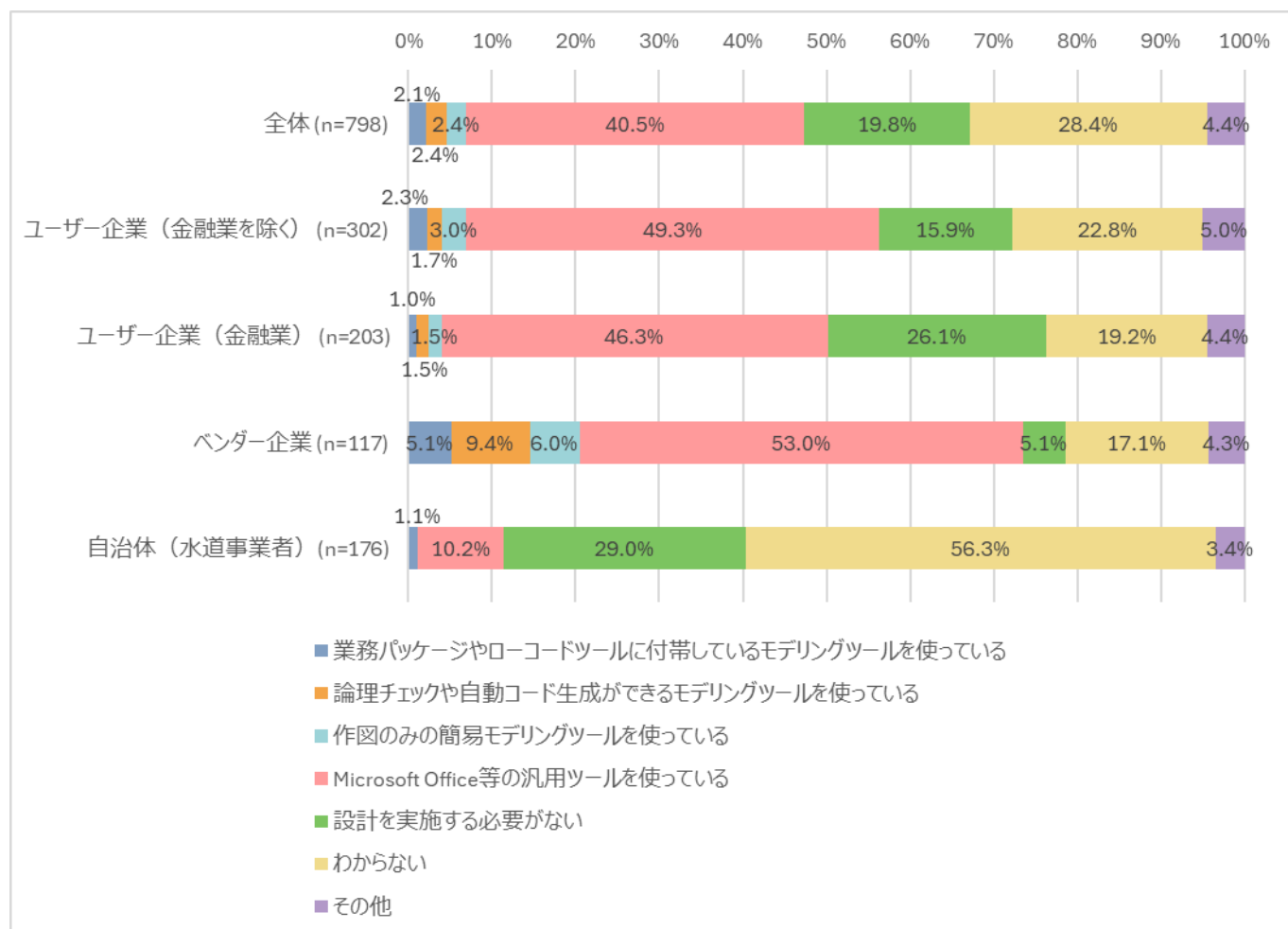
Q3-5 【設計の可視化状況】業務プロセス設計



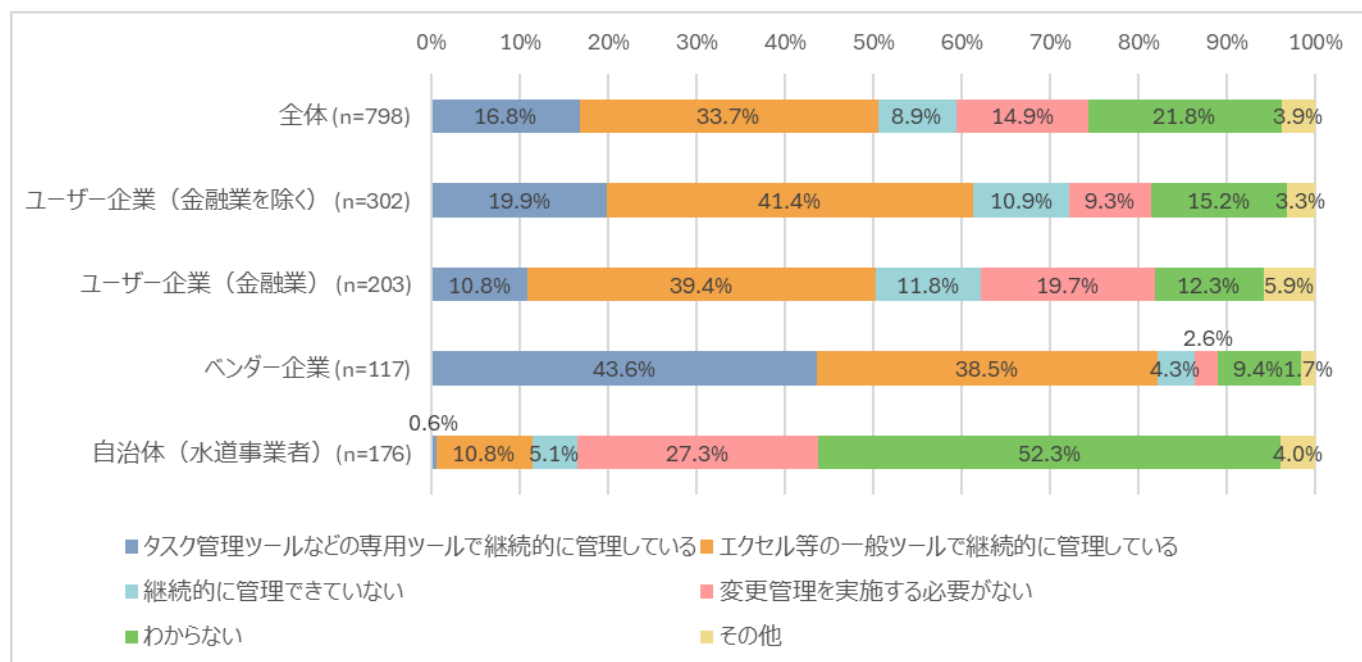
Q3-5 【設計の可視化状況】機能設計



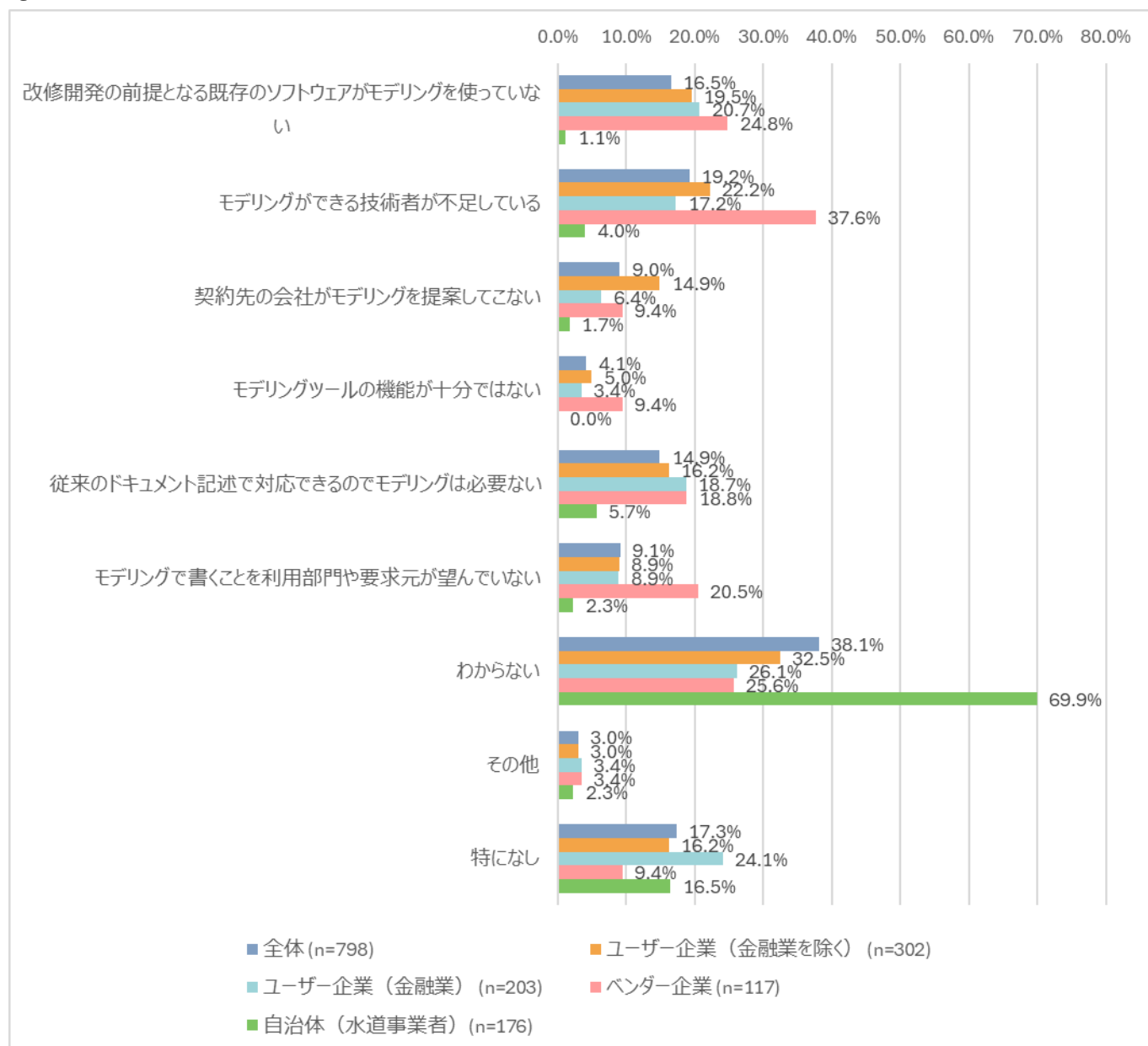
Q3-5 【設計の可視化状況】データ設計



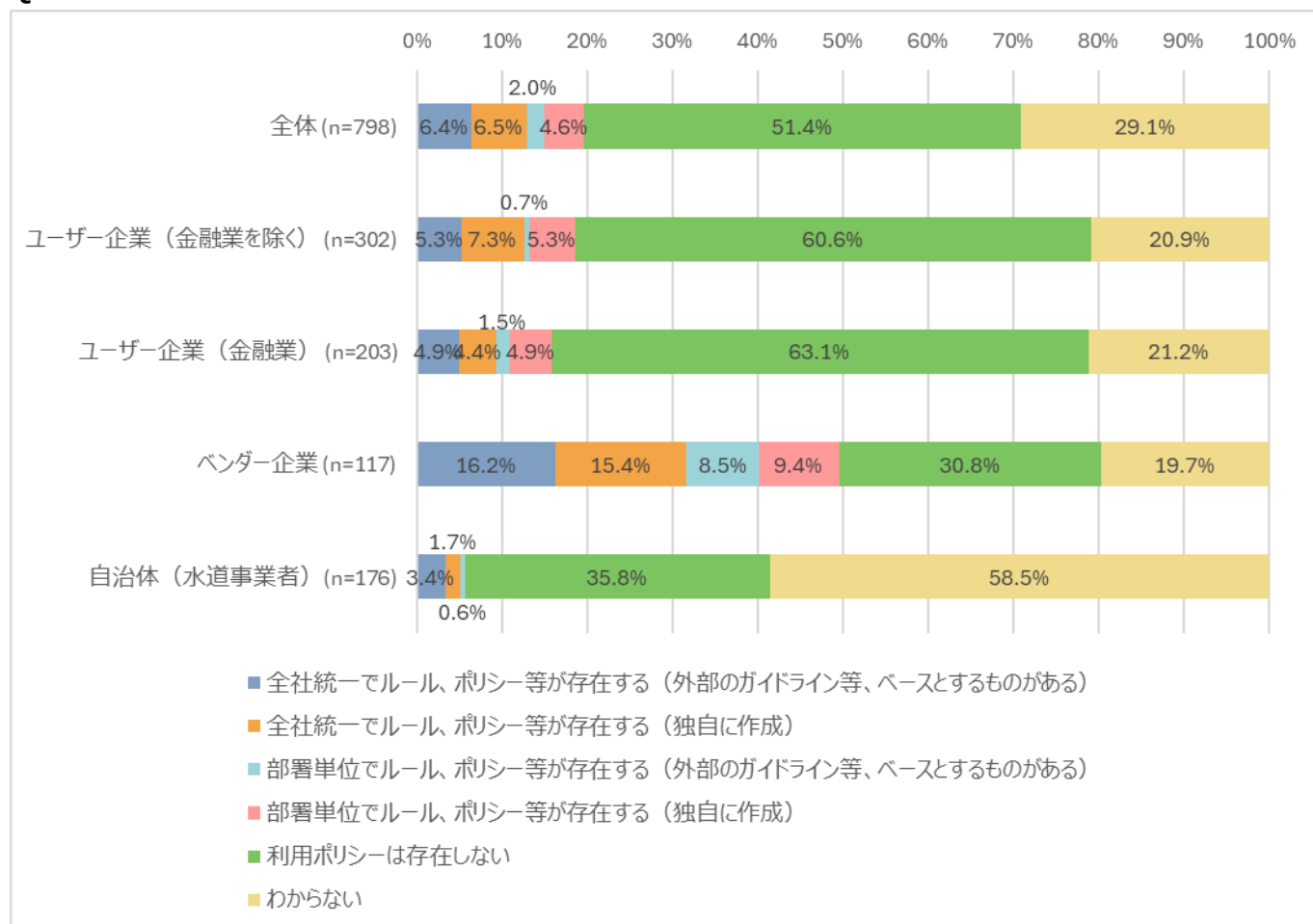
Q3-6 変更管理の実施状況



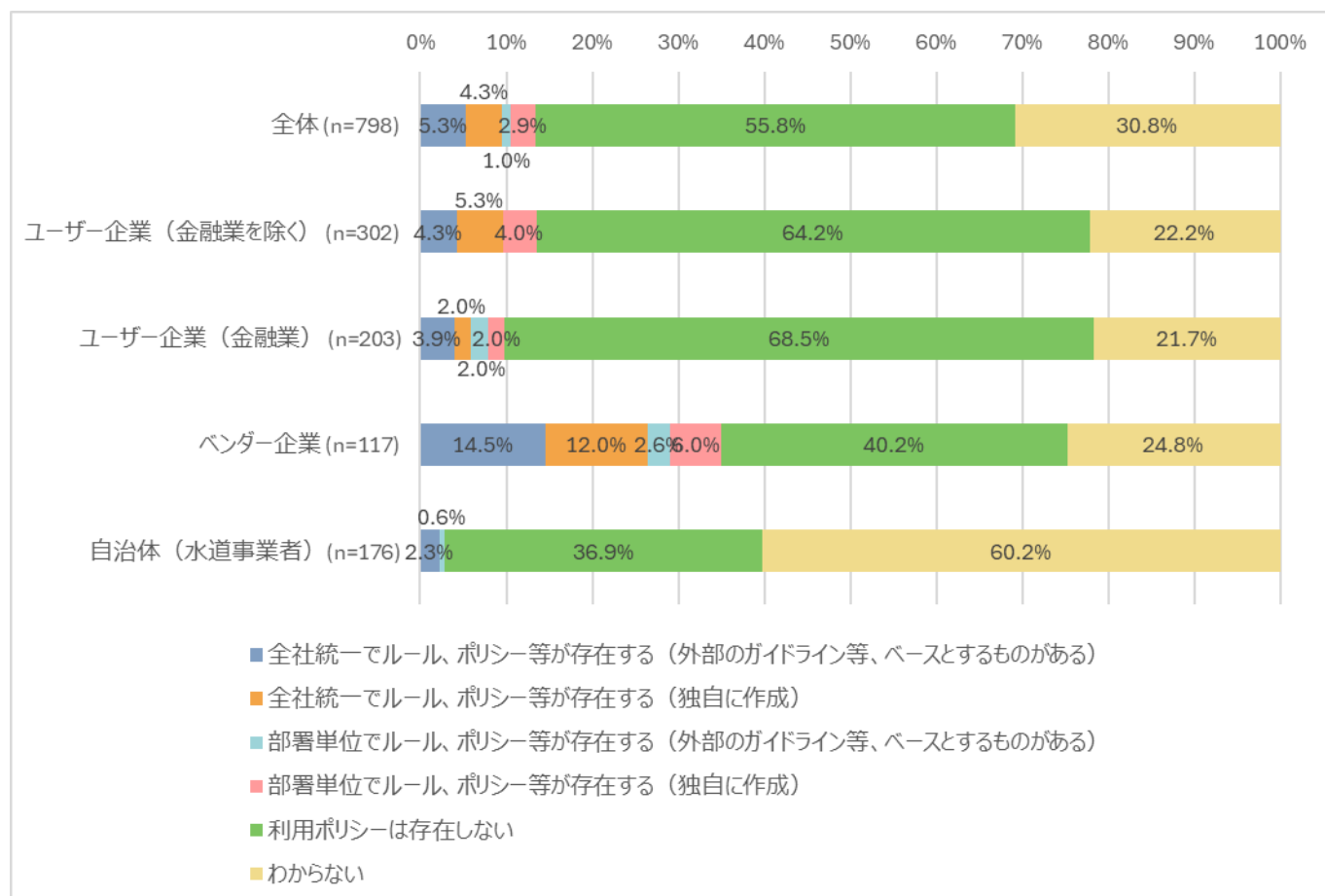
Q3-7 モデリングツールの課題



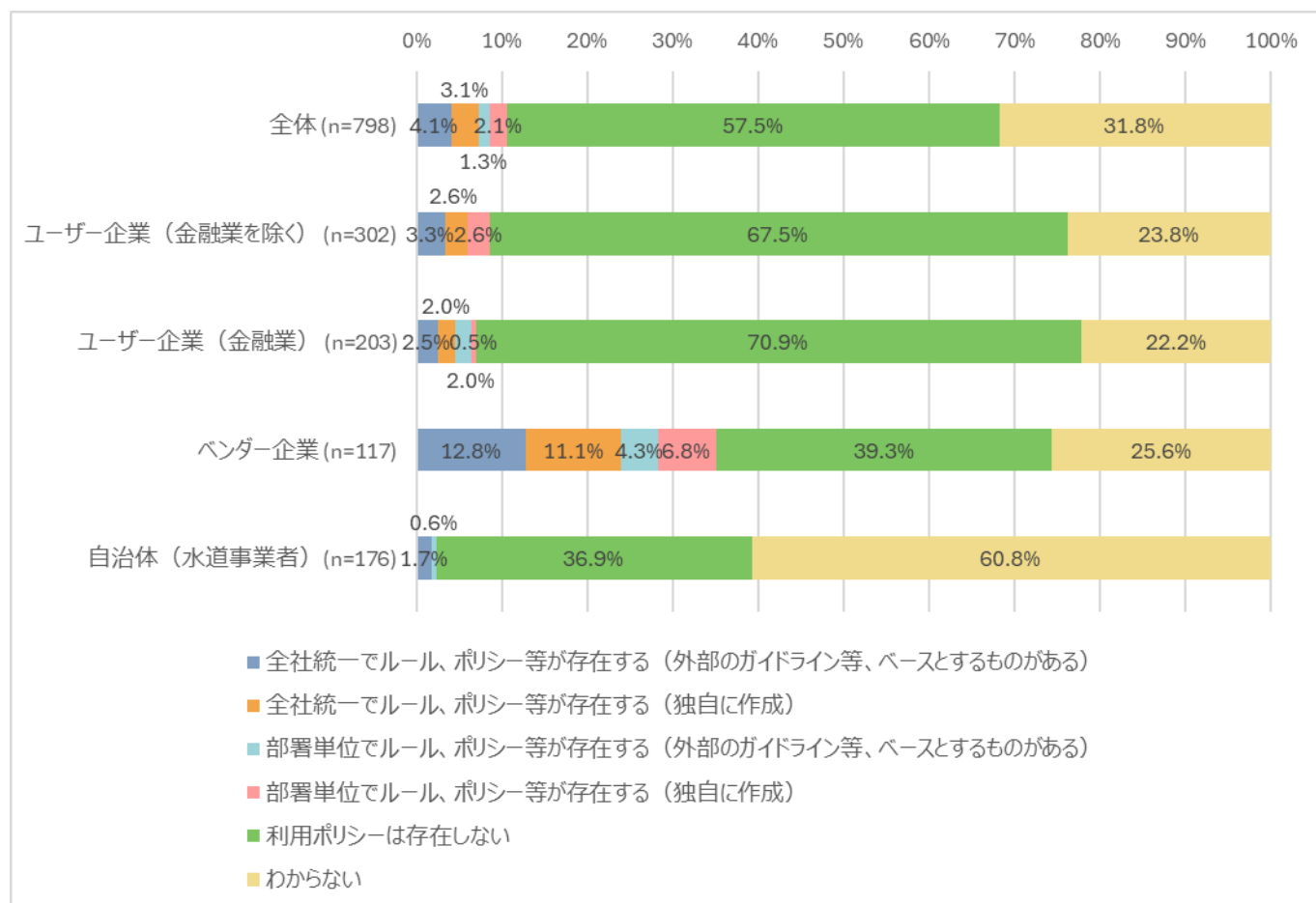
Q3-8 【OSS に関するポリシーの制定状況】OSS 利用



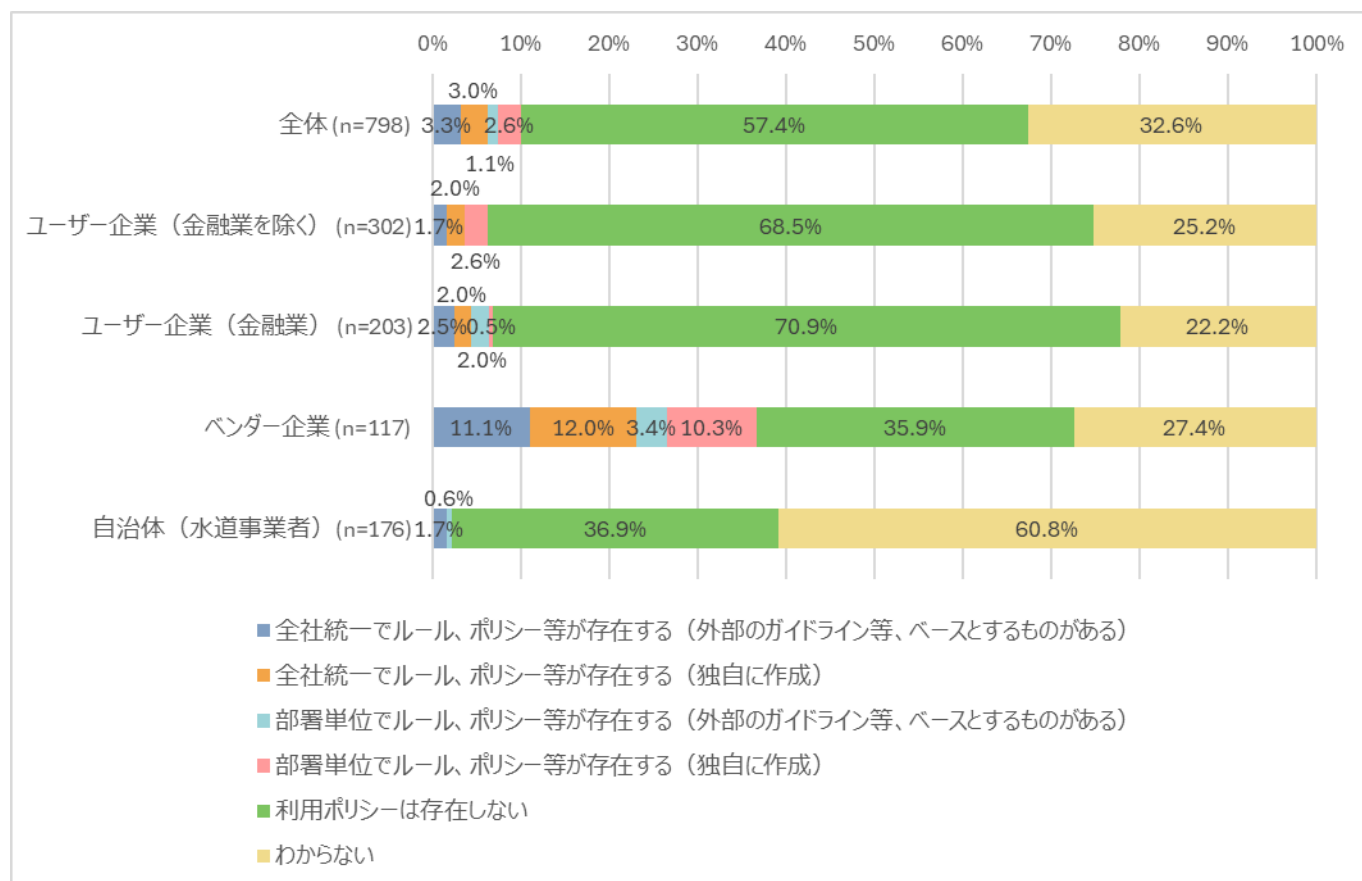
Q3-8 【OSS に関するポリシーの制定状況】コミュニティ等への情報提供



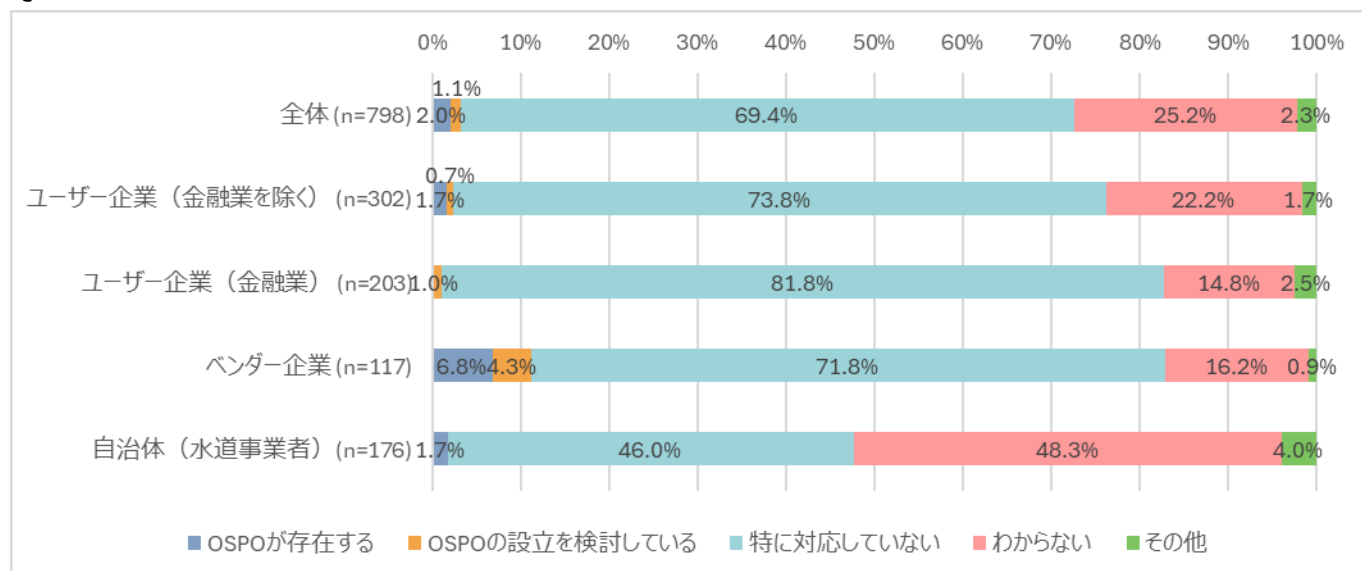
Q3-8 【OSS に関するポリシーの制定状況】開発コミュニティへのコード提供



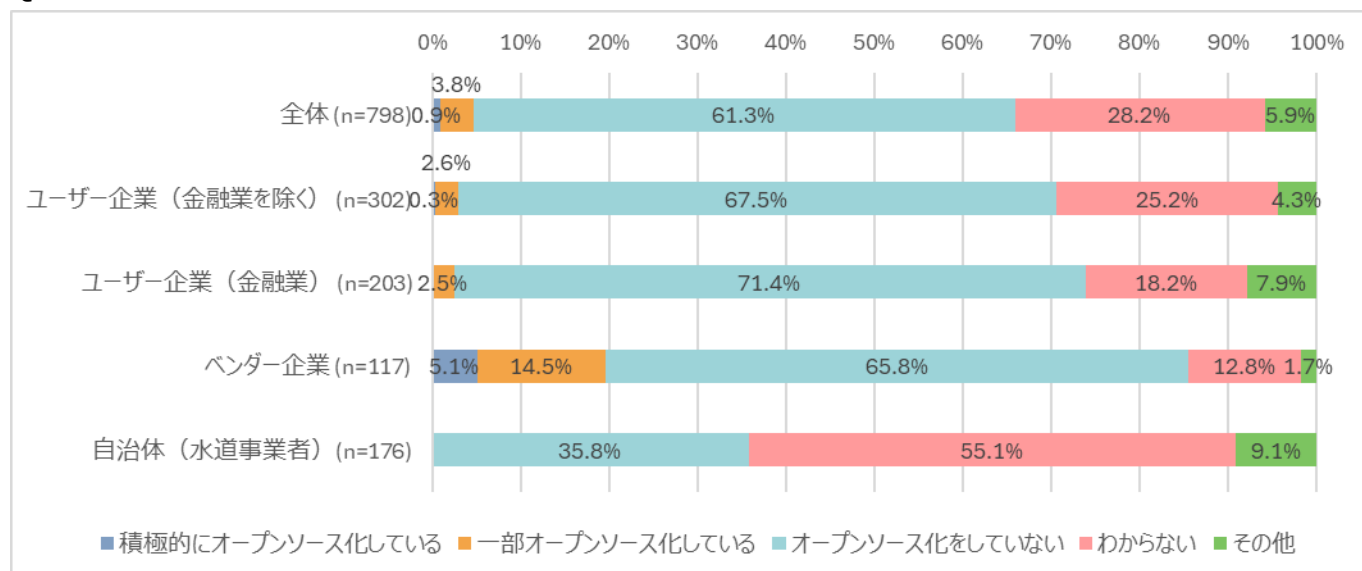
Q3-8 【OSS に関するポリシーの制定状況】自社ソフトウェアの OSS 公開



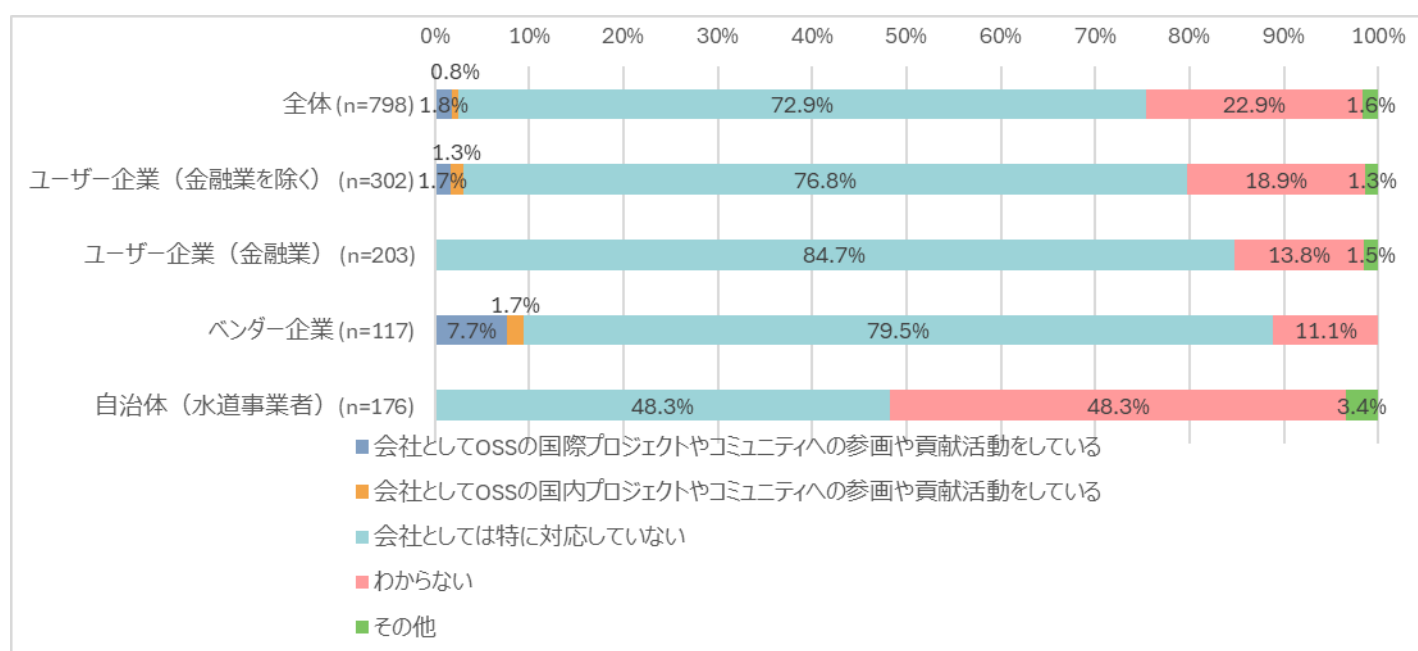
Q3-9 OSPO の設置状況



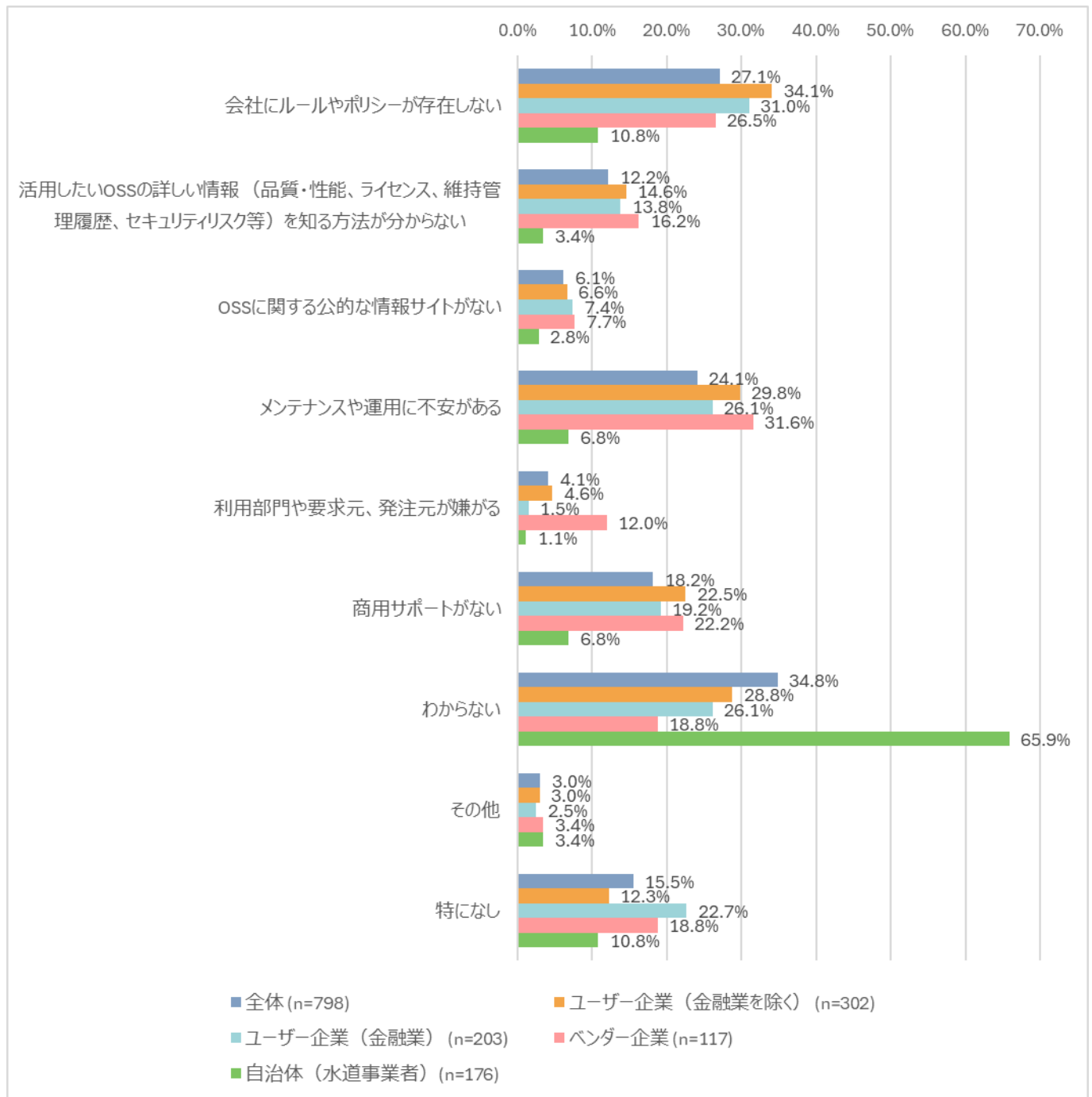
Q3-10 オープンソース化状況



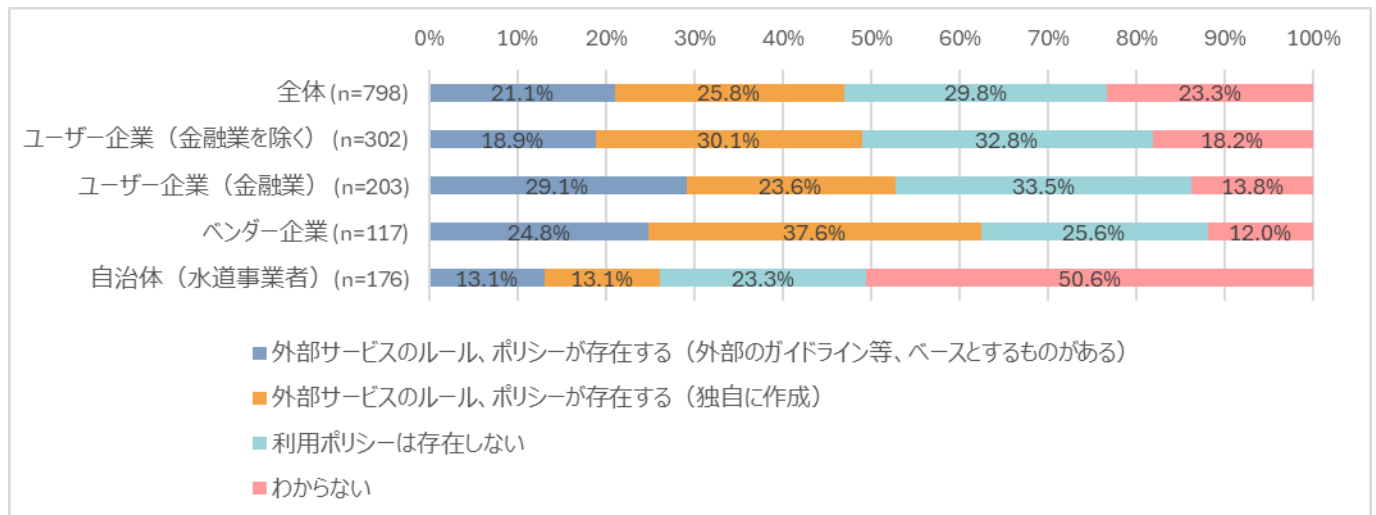
Q3-11 OSS コミュニティ参画状況



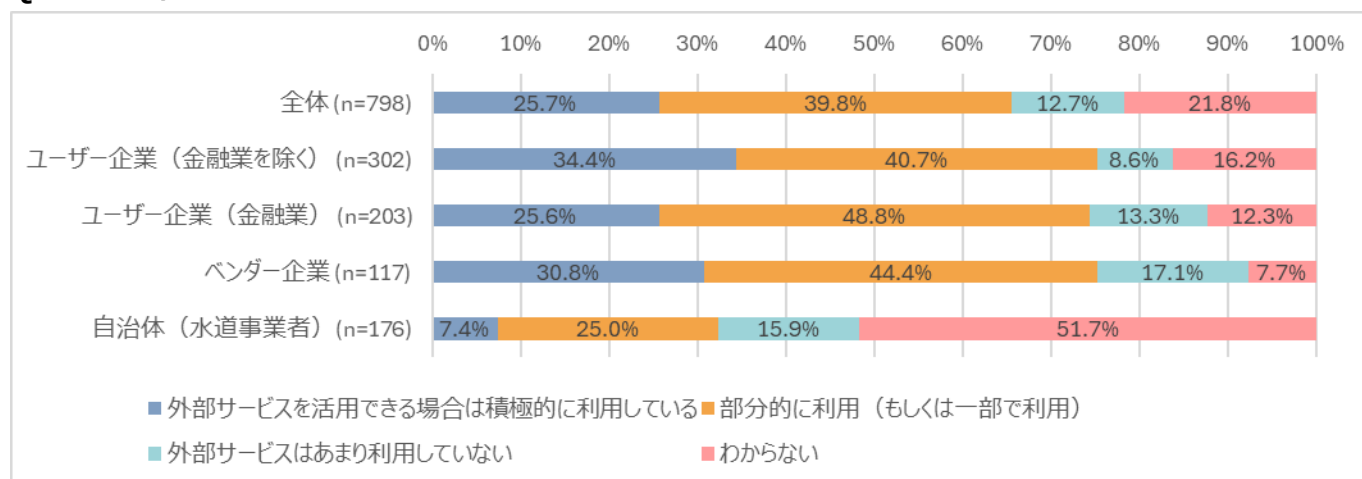
Q3-12 OSS 利用時に関する課題



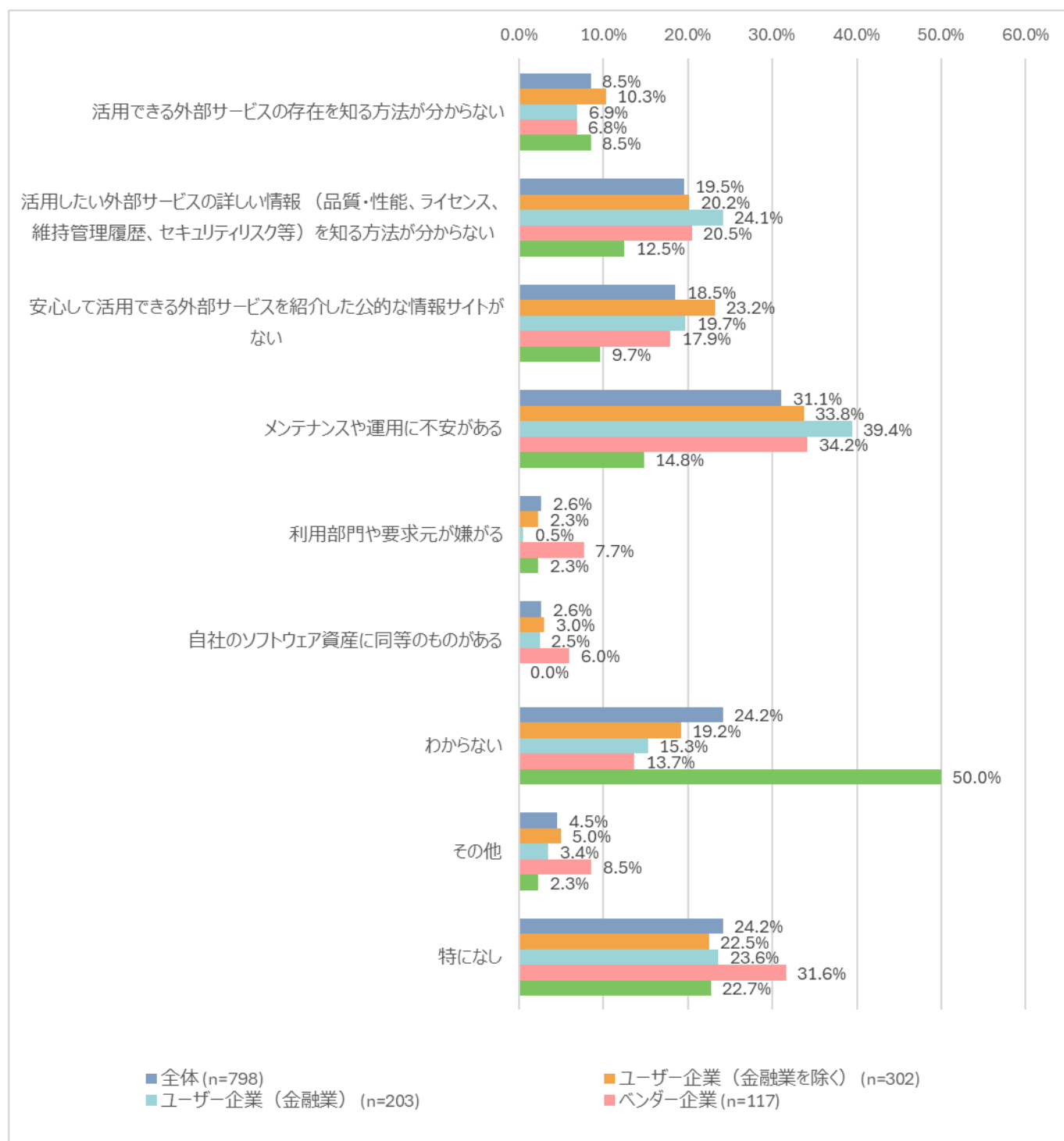
Q3-13 外部サービスの利用ポリシー



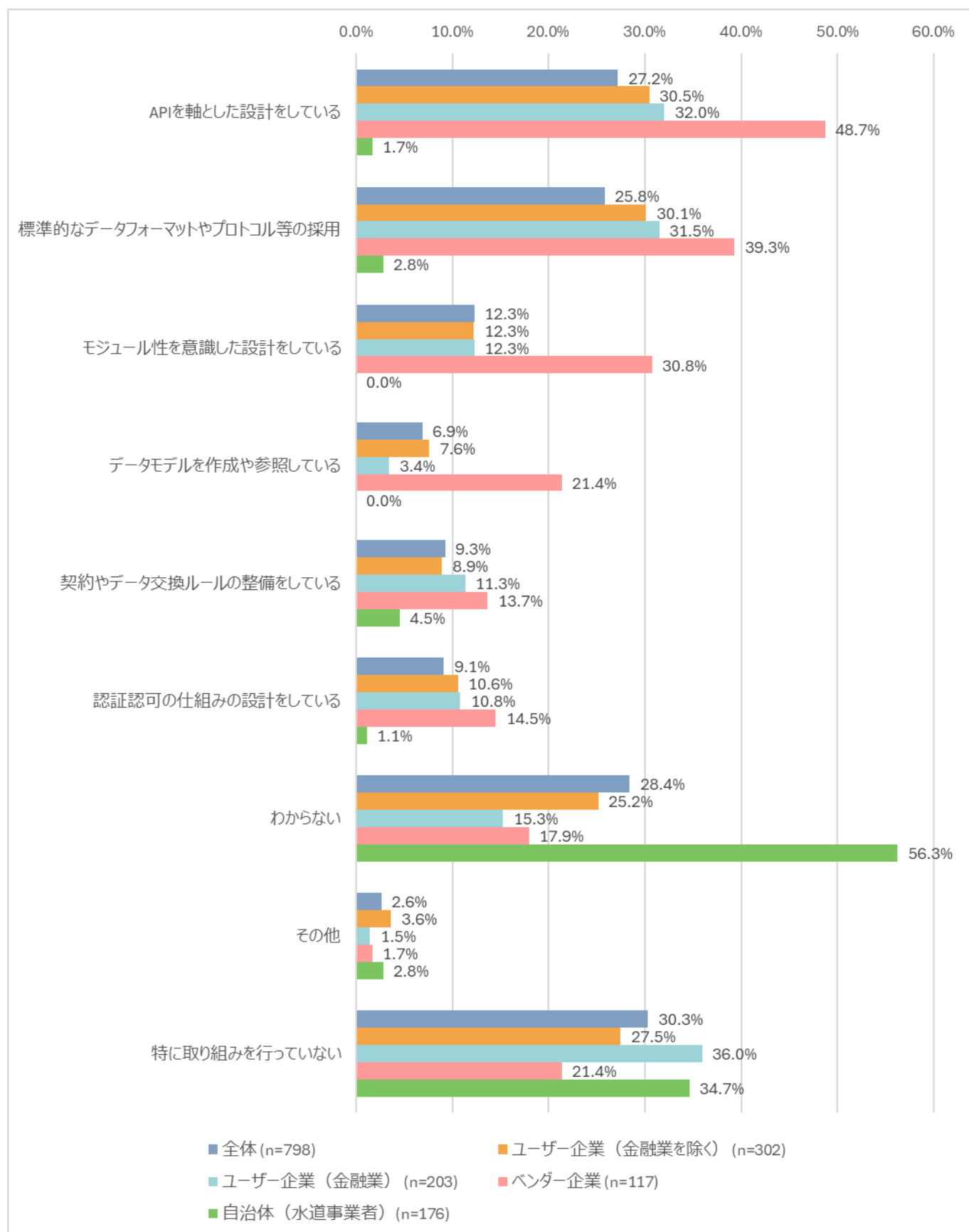
Q3-14 外部サービスの利用度



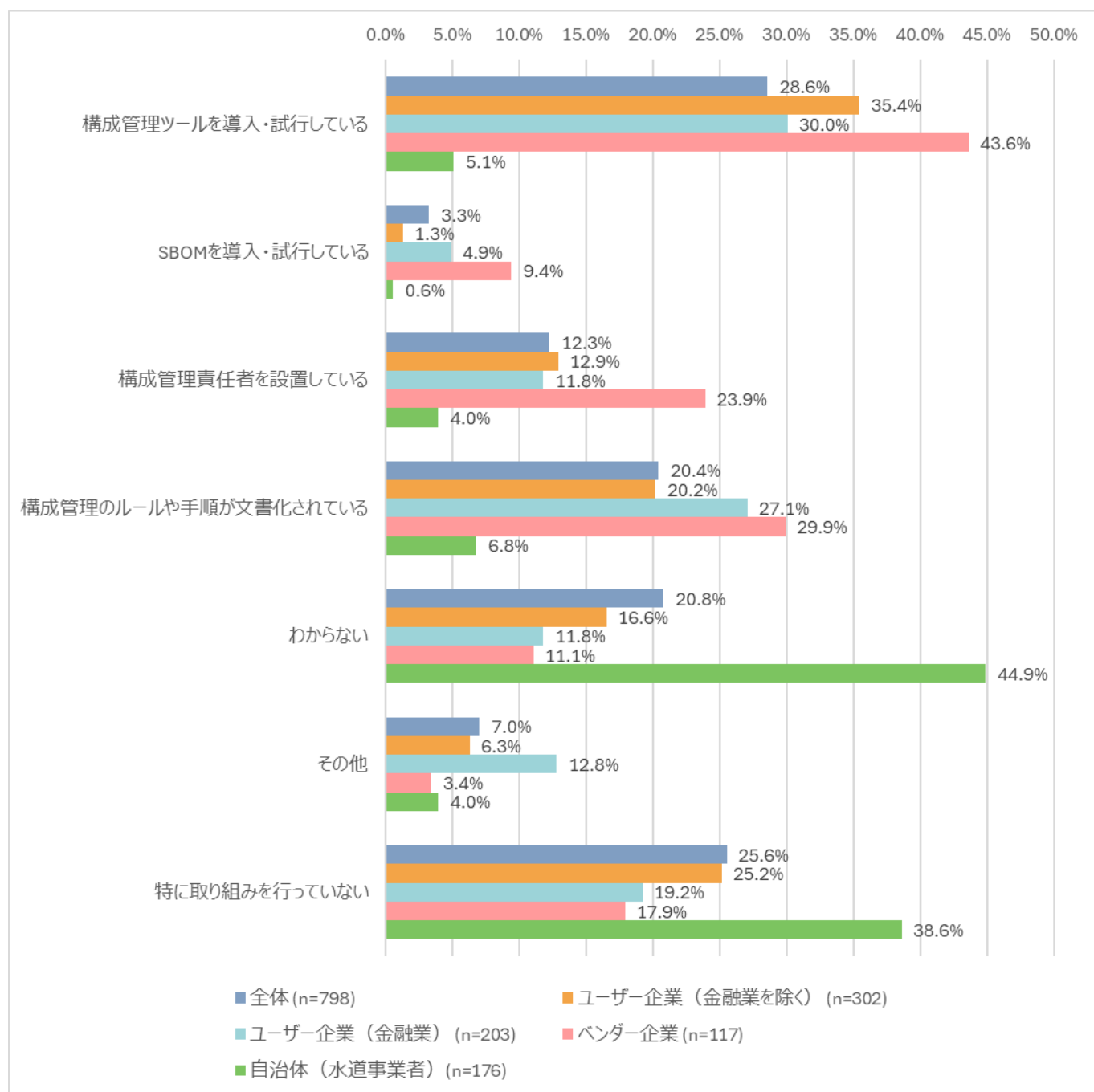
Q3-15 外部サービス利用の課題



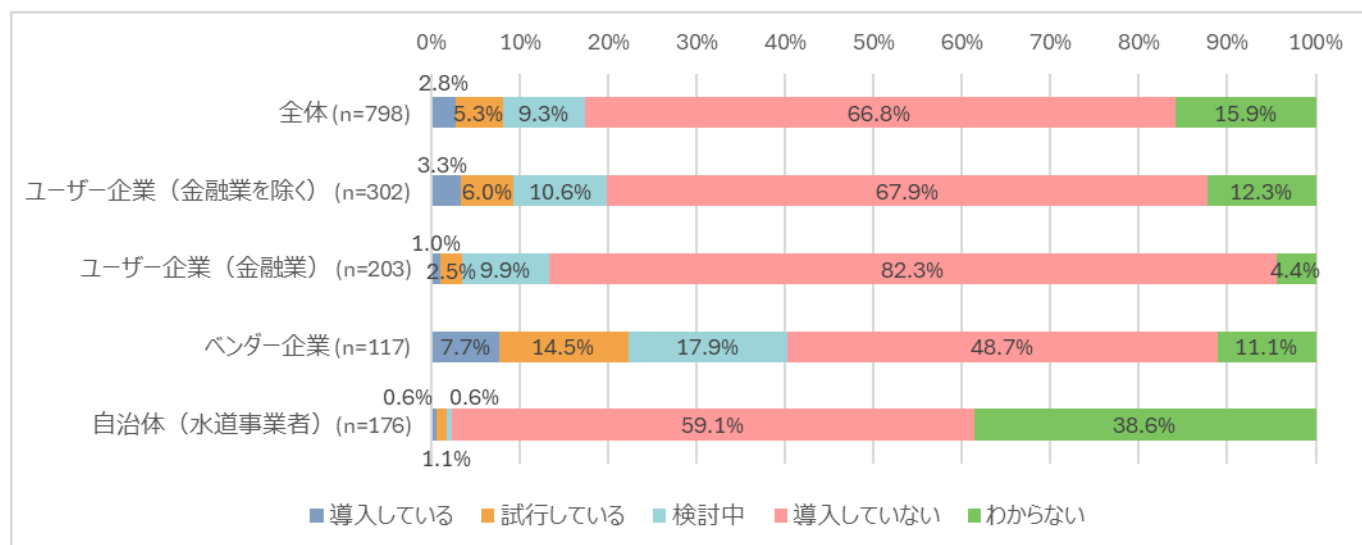
Q3-16 システムの外部連携の取り組み状況



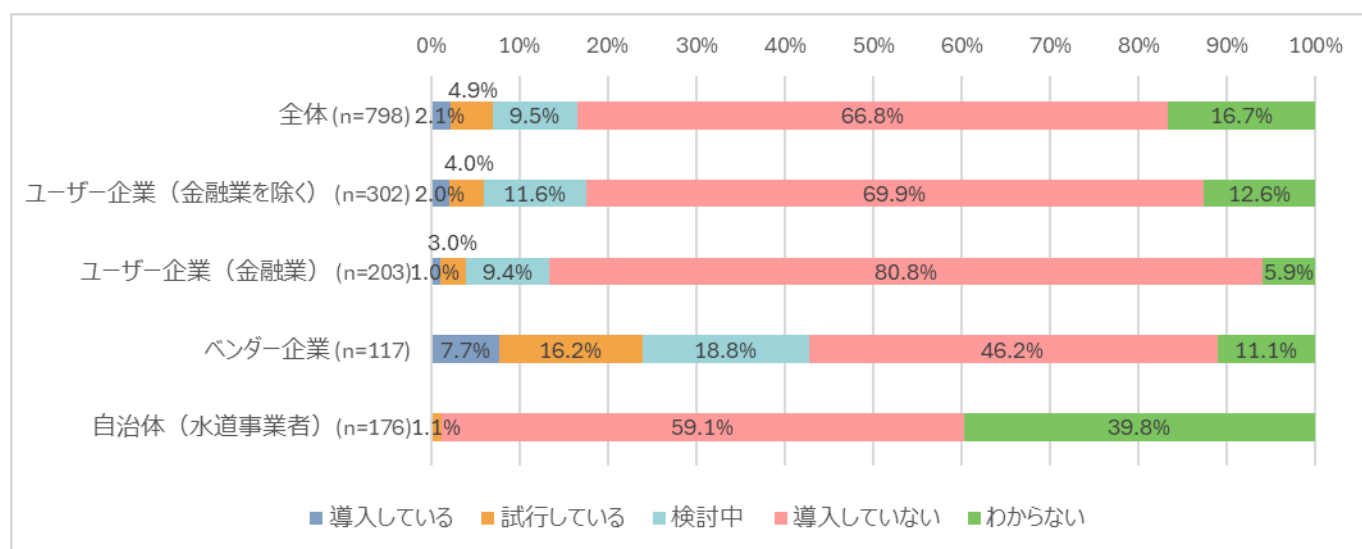
Q3-17 構成管理の状況



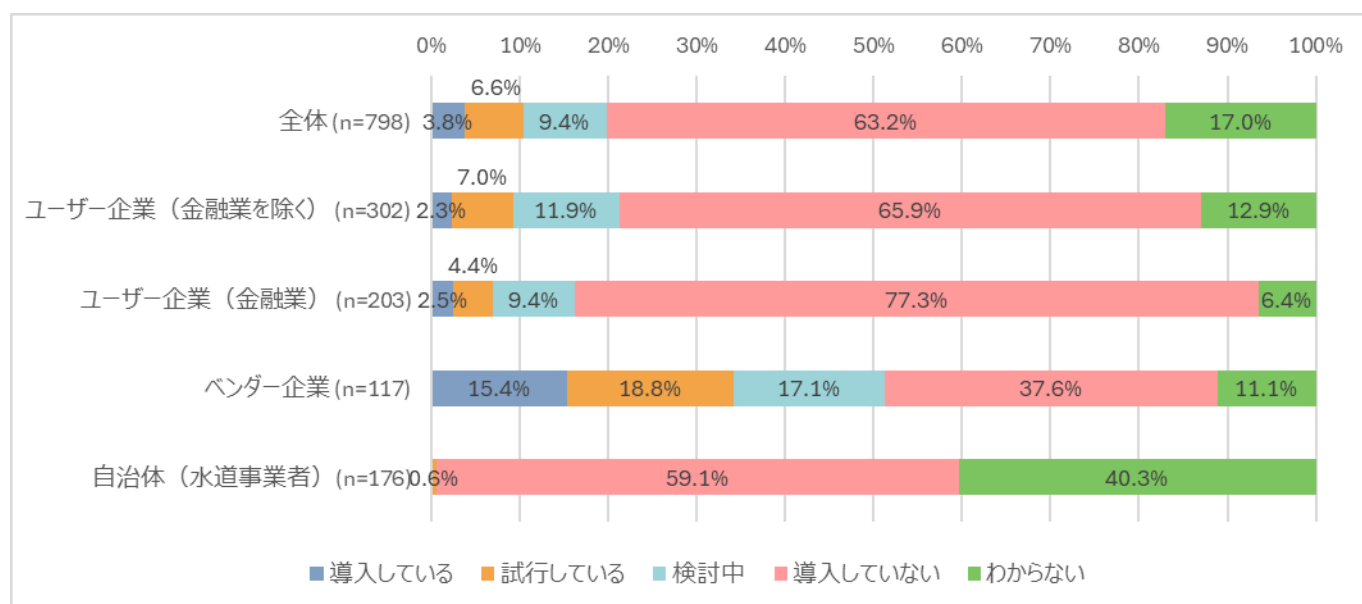
Q3-18 【AI 導入状況】要求・要件定義



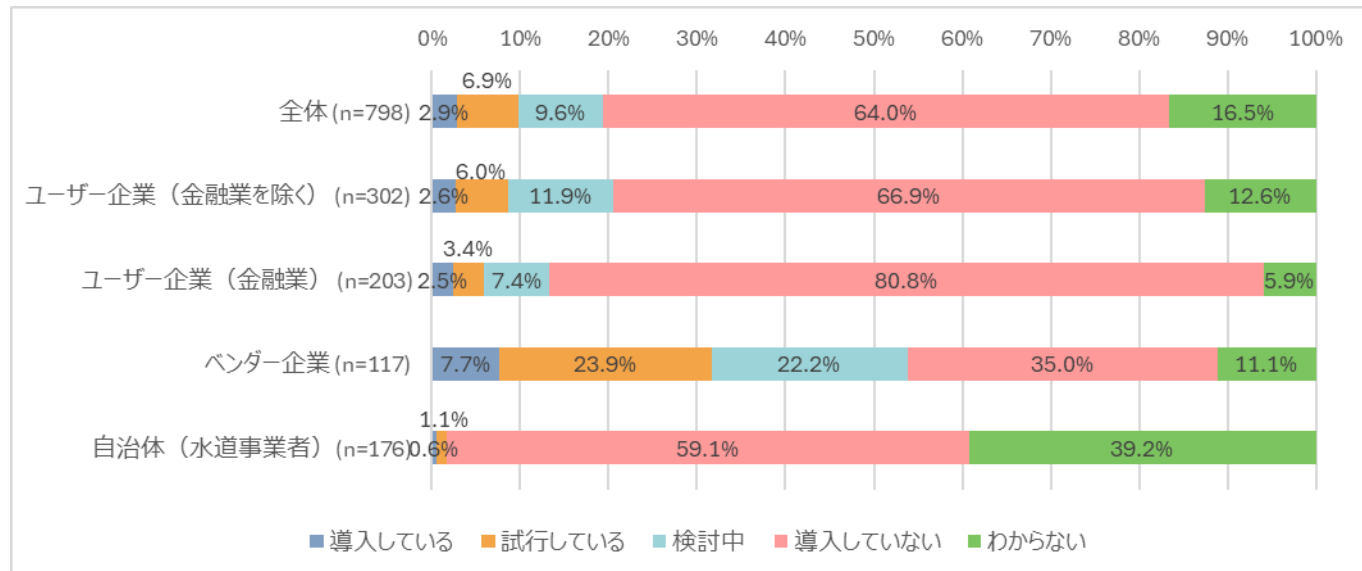
Q3-18 【AI 導入状況】システム設計



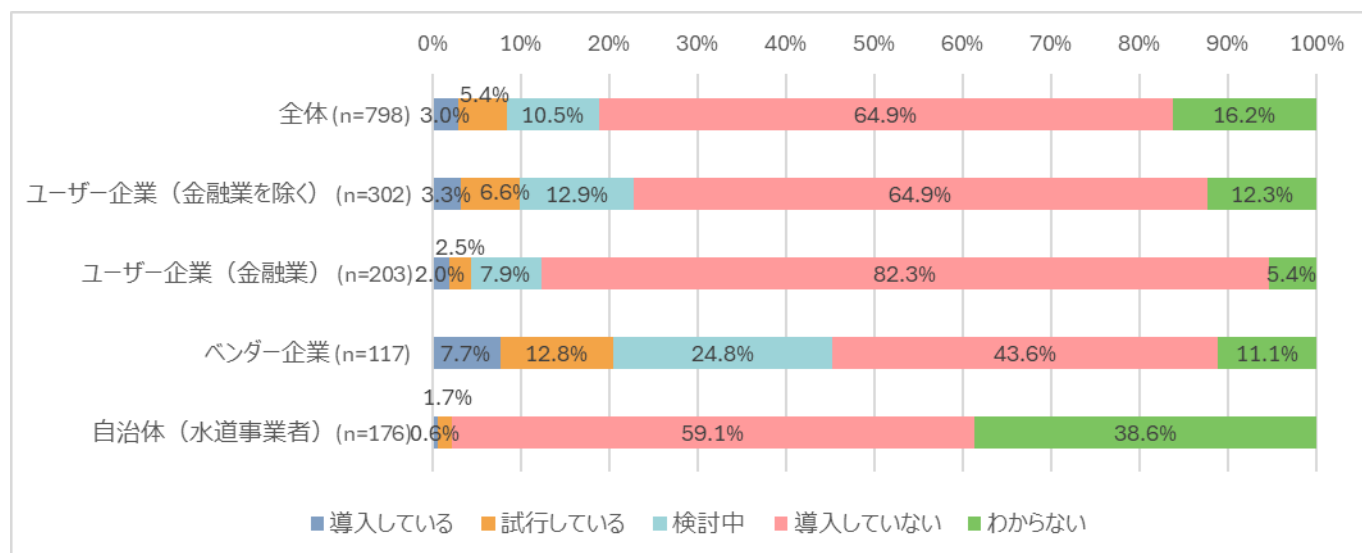
Q3-18 【AI 導入状況】製造



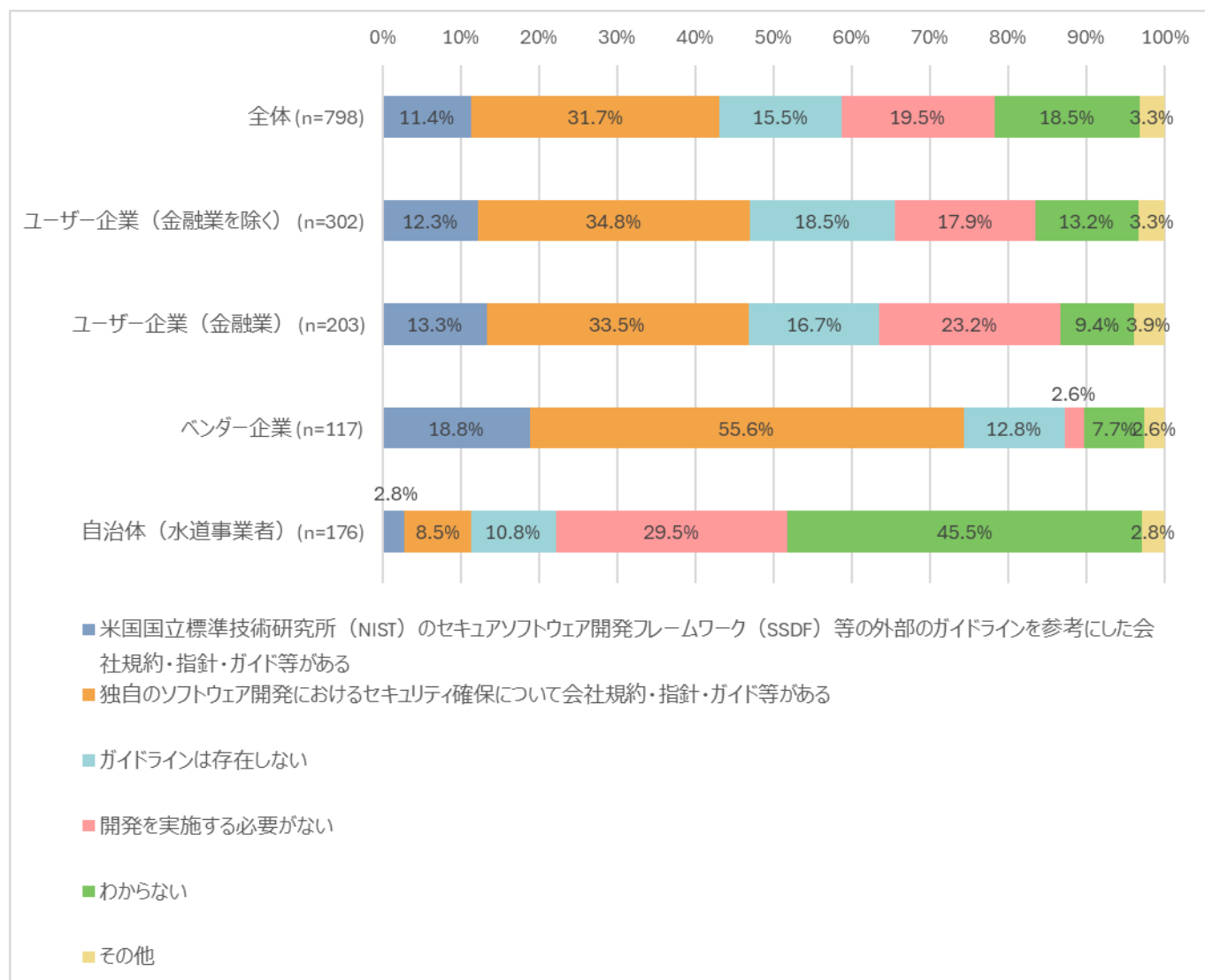
Q3-18 【AI 導入状況】テスト



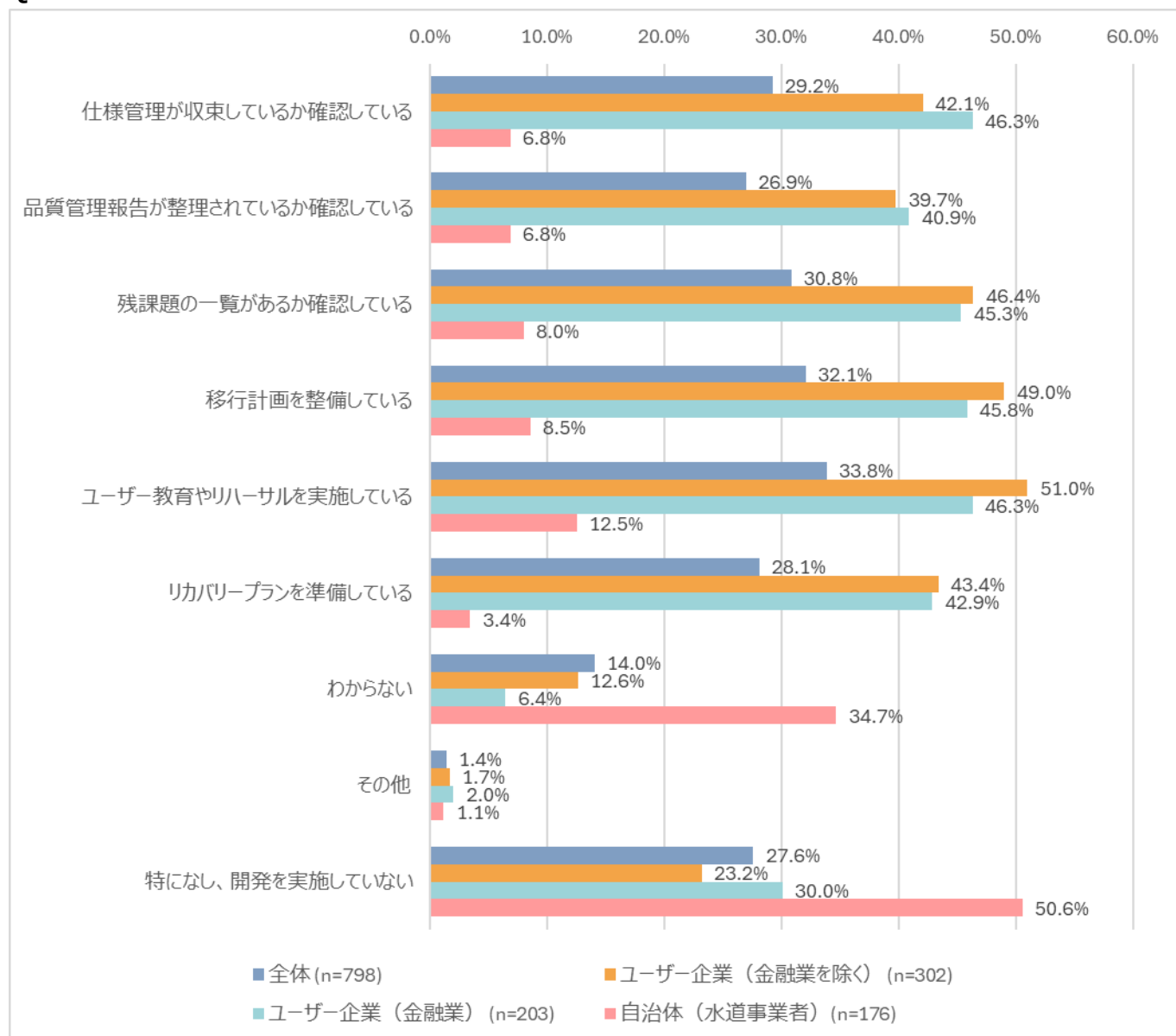
Q3-18 【AI 導入状況】運用



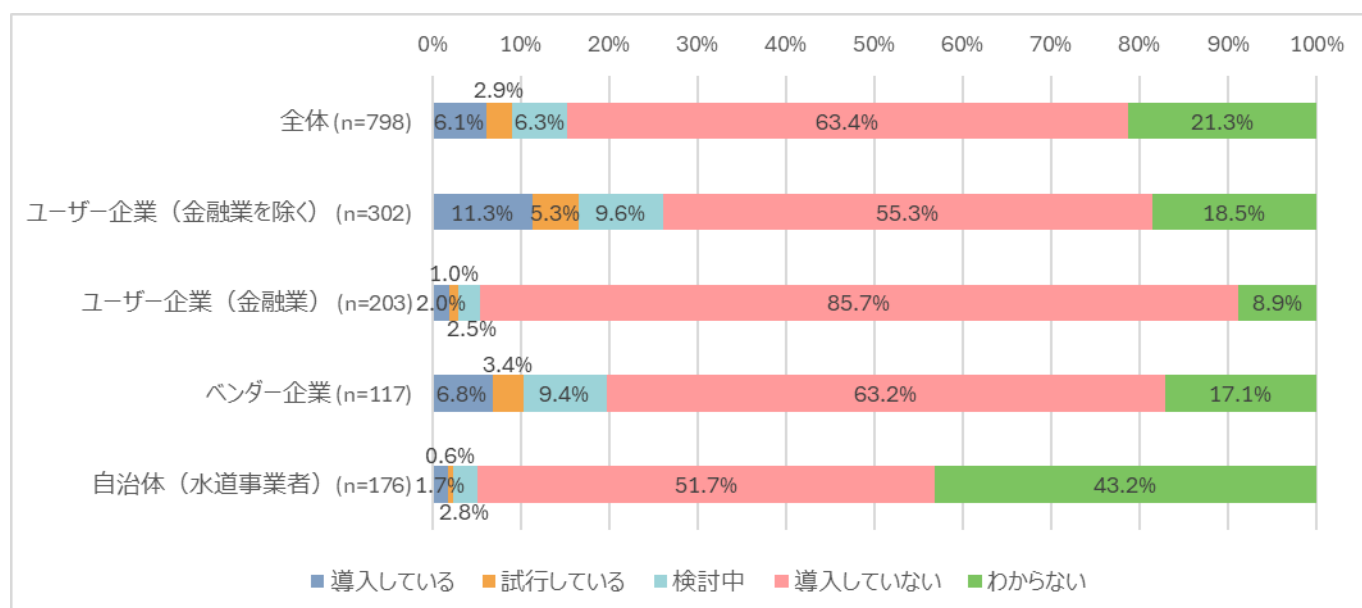
Q3-19 セキュリティガイドライン制定状況



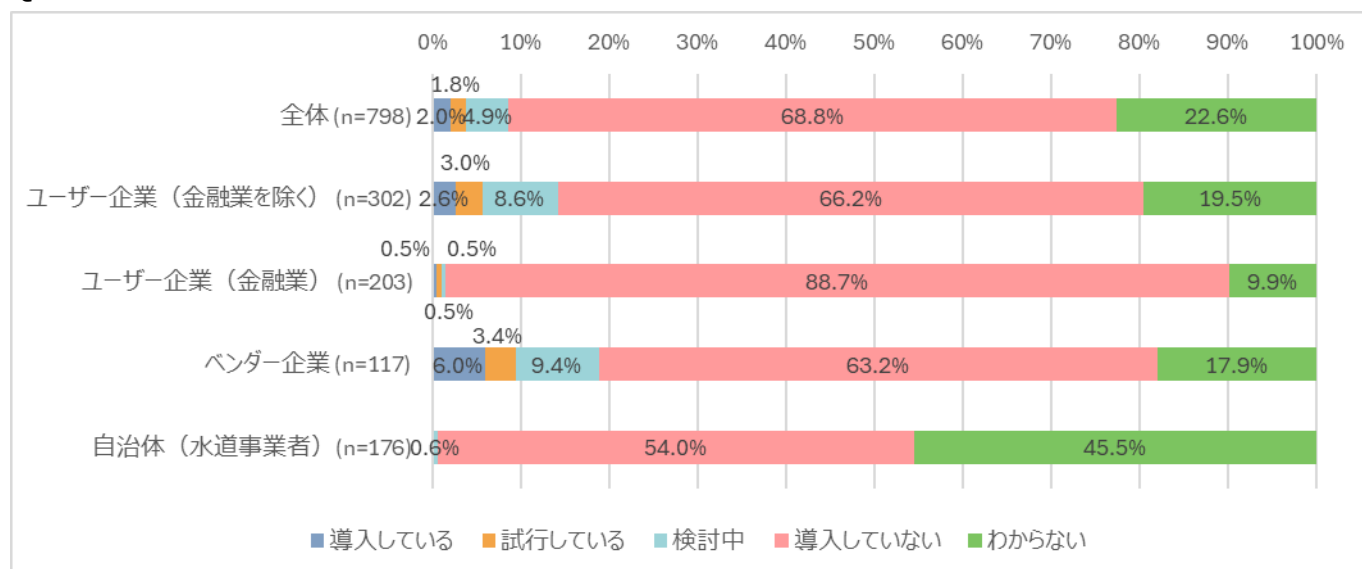
Q3-20 システムリリース時の実施事項



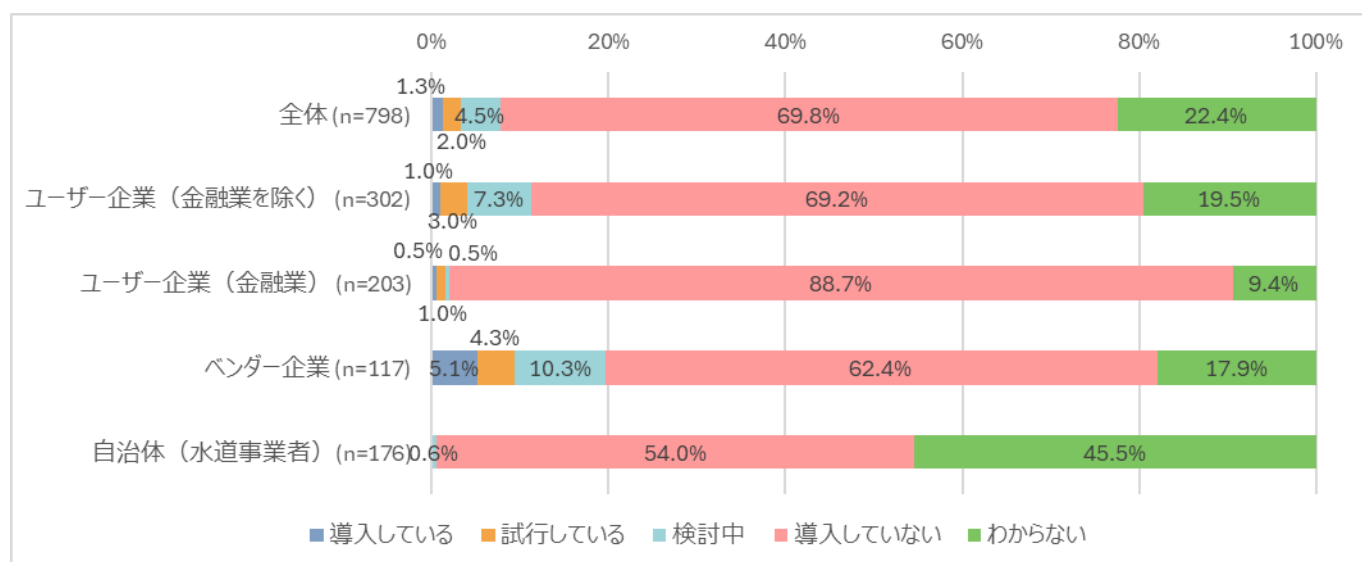
Q3-21 【デジタルツインの取り組み状況】これまで人が行っていた作業を、センサーなどを利用したシステムに代替し、データを蓄積・可視化する



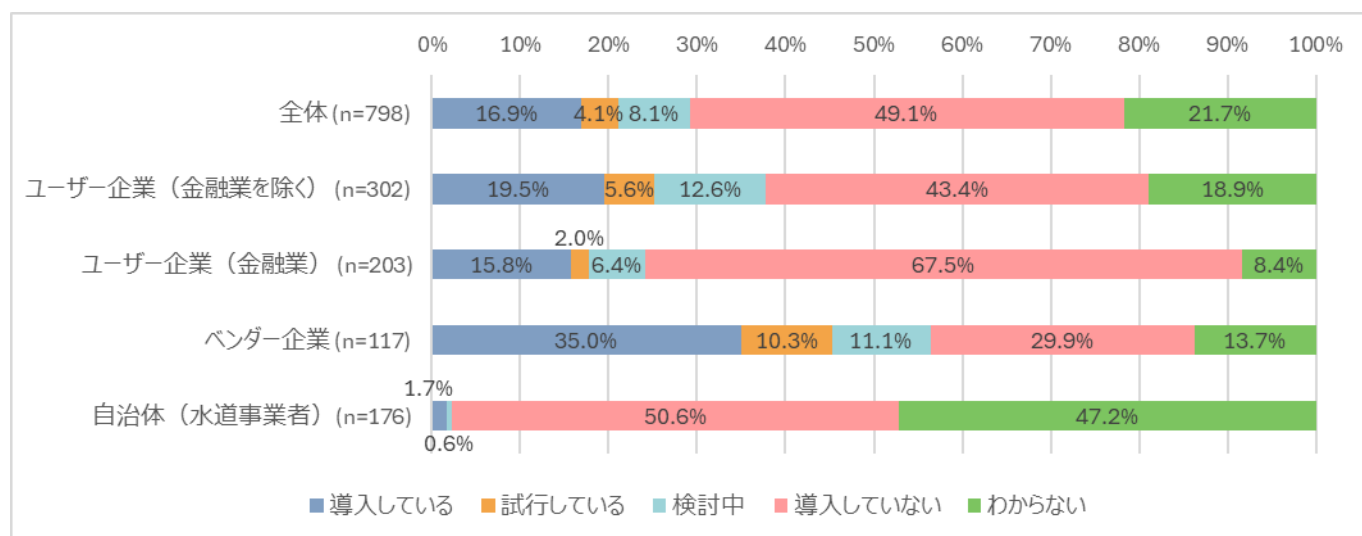
Q3-21 【デジタルツインの取り組み状況】デジタルツイン・CPSを導入し、仮想空間でのシミュレーション・分析を行う



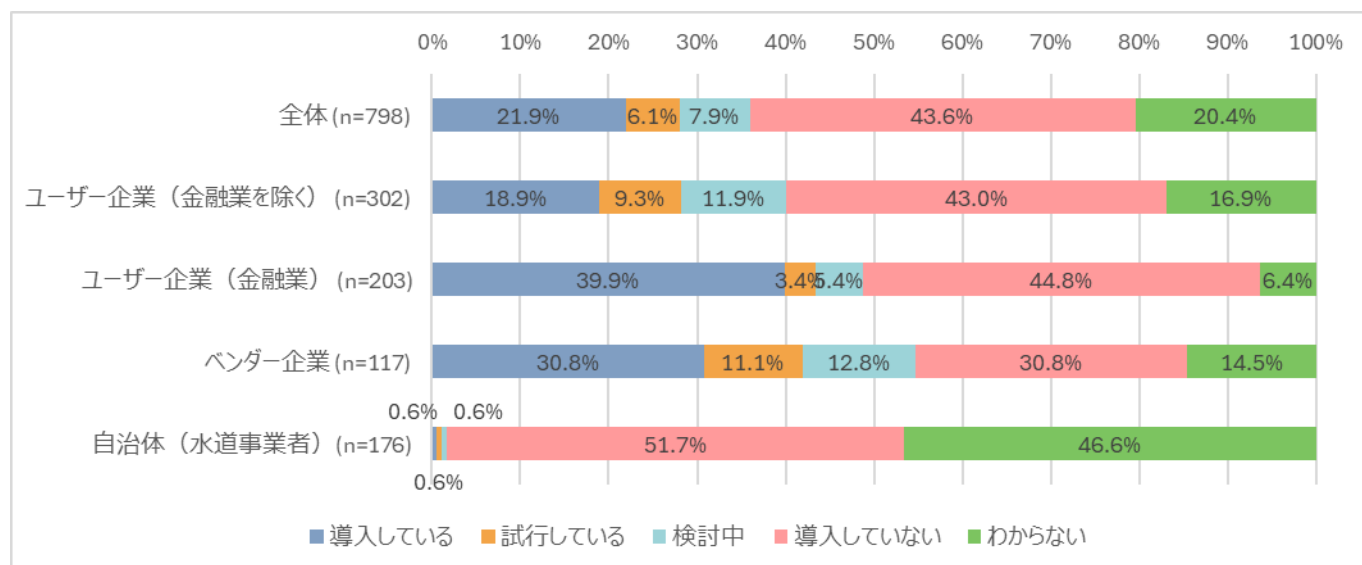
Q3-21 【デジタルツインの取り組み状況】上記に加えて、仮想空間でのシミュレーション・分析結果を現実空間の動作へフィードバックする



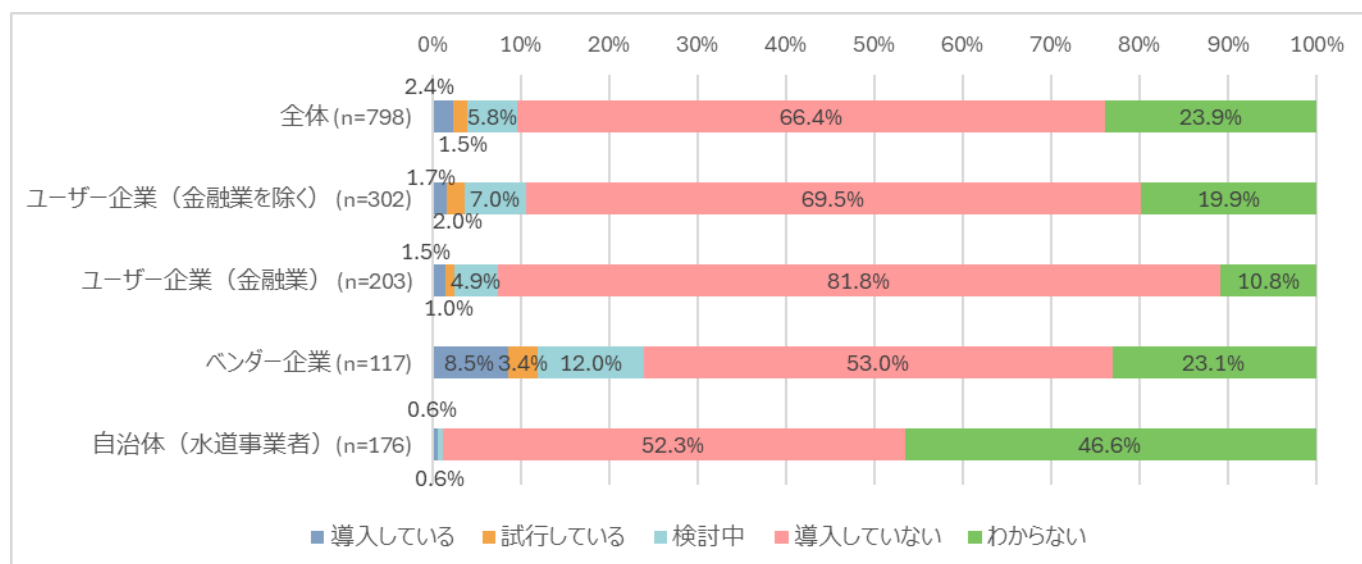
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】クラウドネイティブ



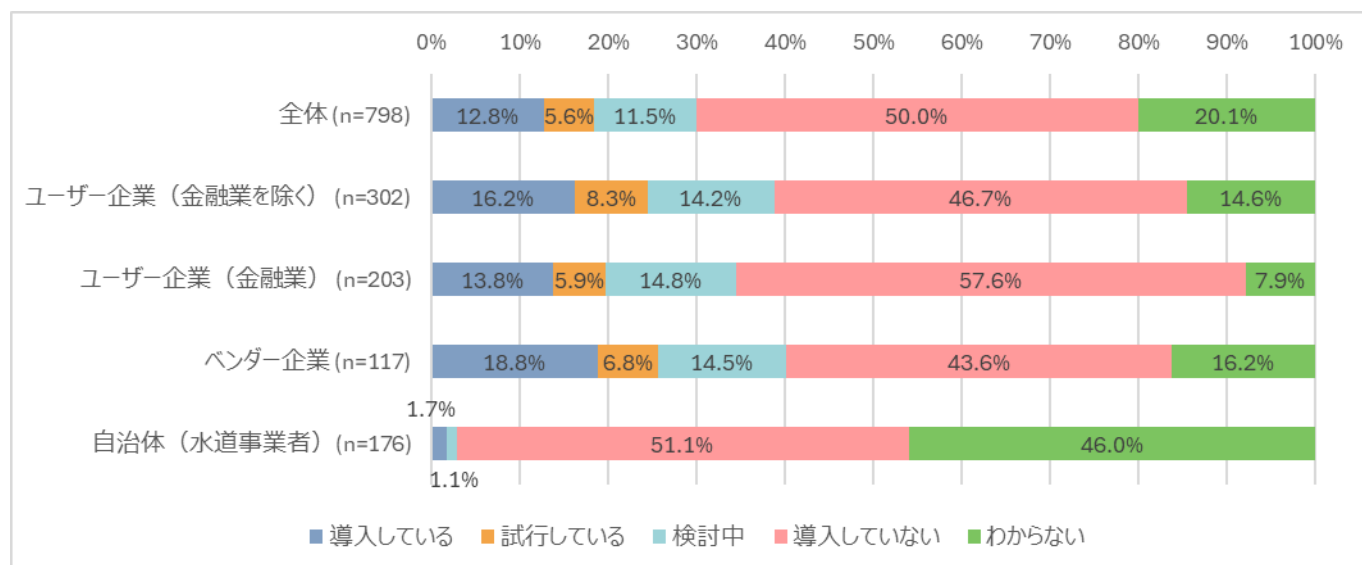
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】マイクロサービス・API 連携



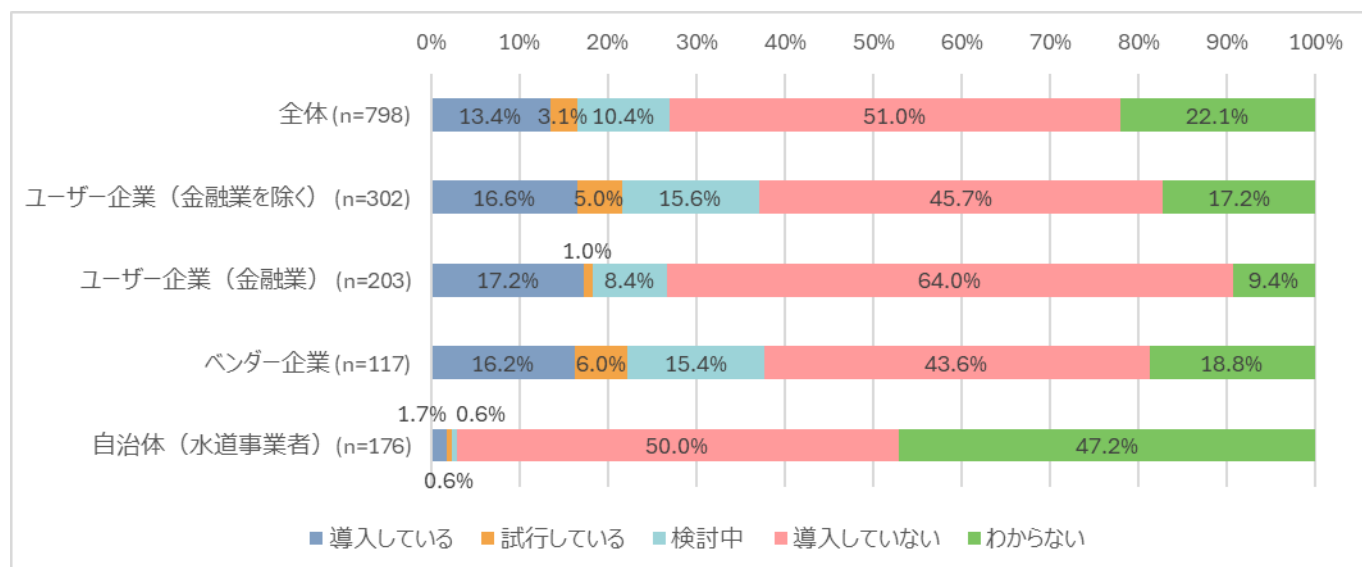
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】グラフデータベース（Neo4j 等）



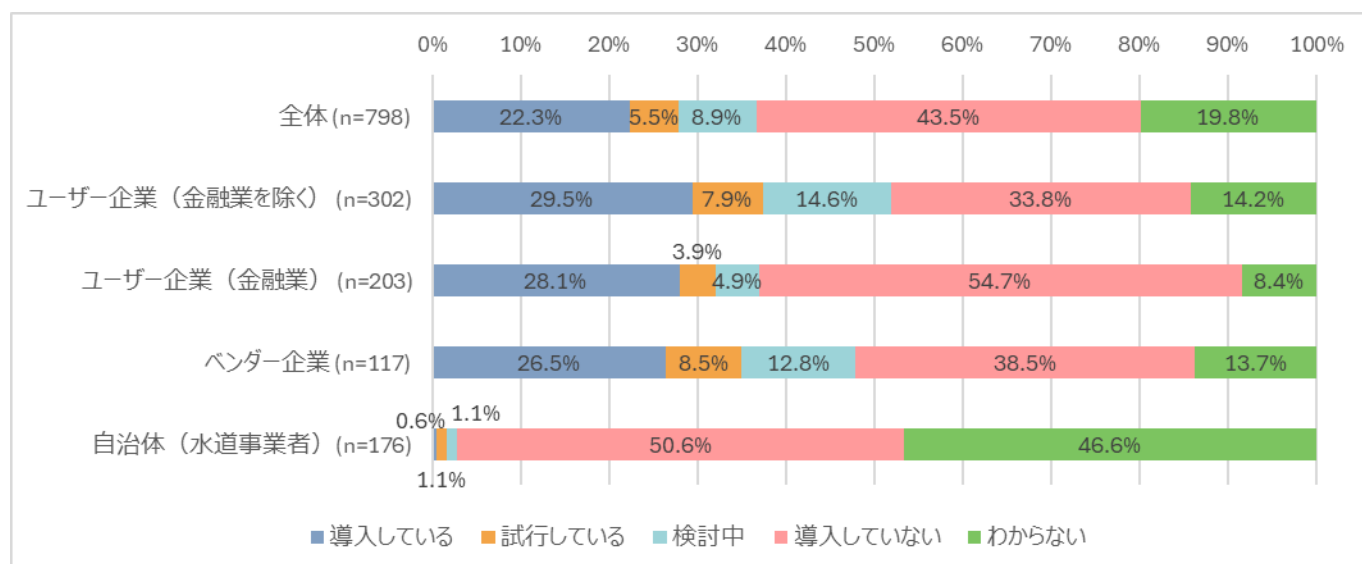
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】ビッグデータ活用



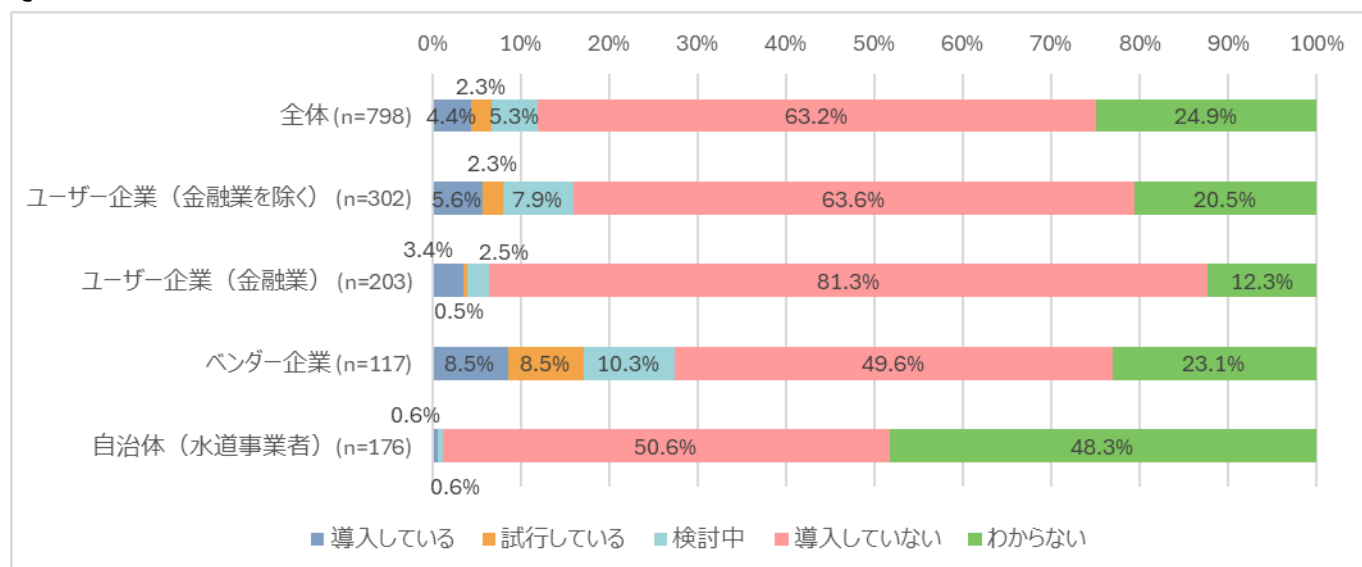
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】MDM（マスターデータ管理）



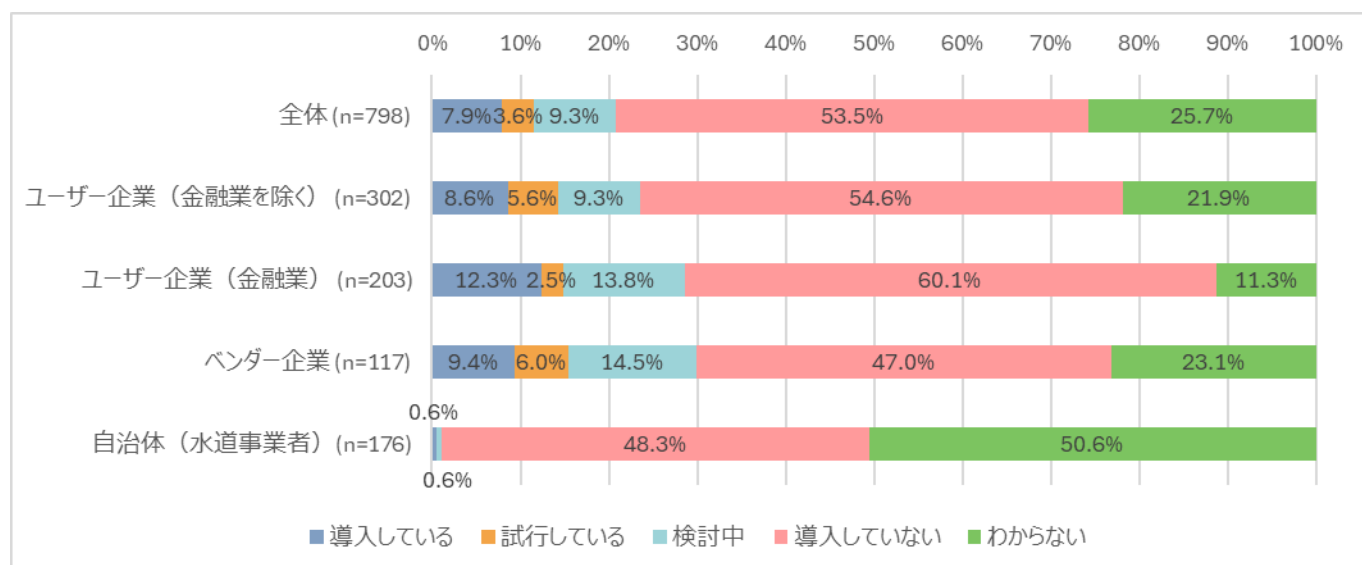
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】経営ダッシュボード（BI ツール）



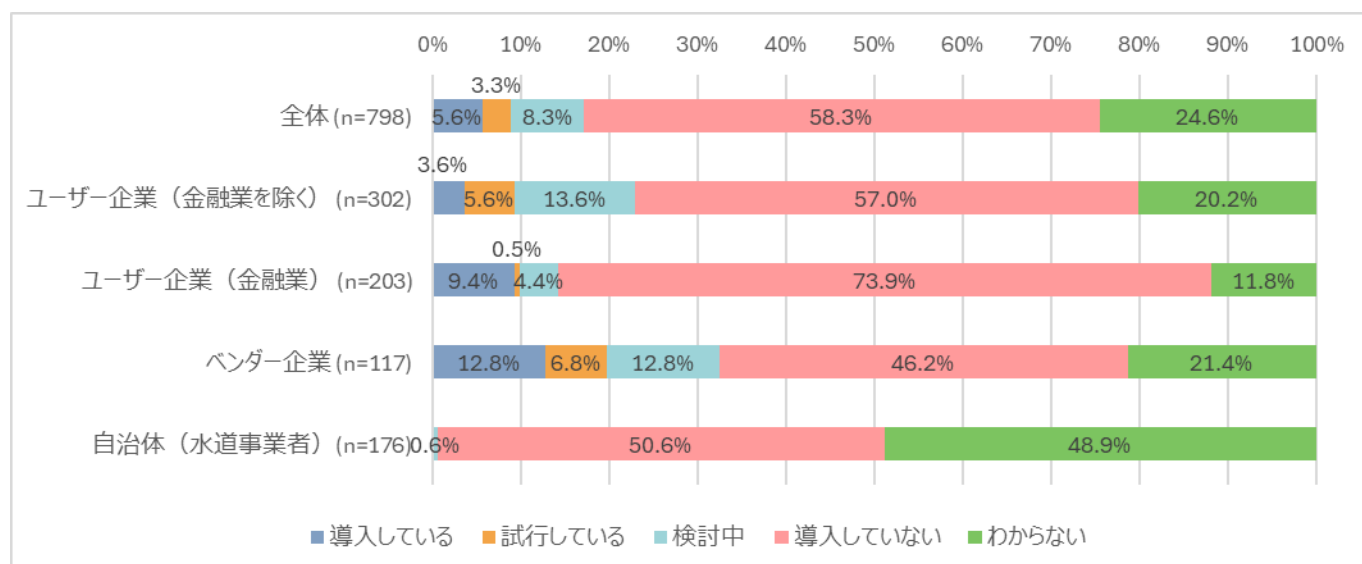
Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】エッジコンピューティング



Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】セキュリティ・バイ・デザイン）

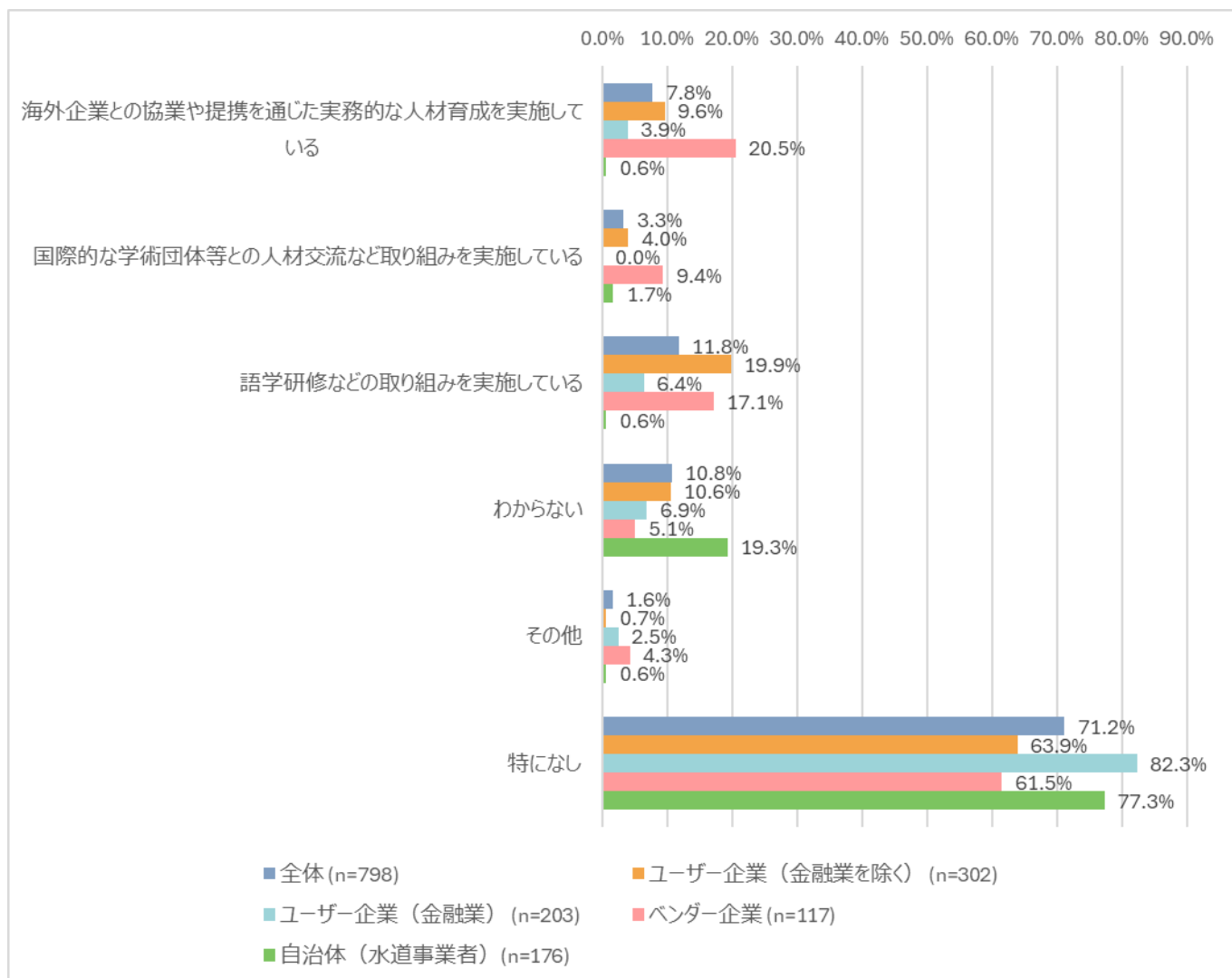


Q3-22 【その他テクノロジーの導入状況】エンタープライズアーキテクチャー（EA）

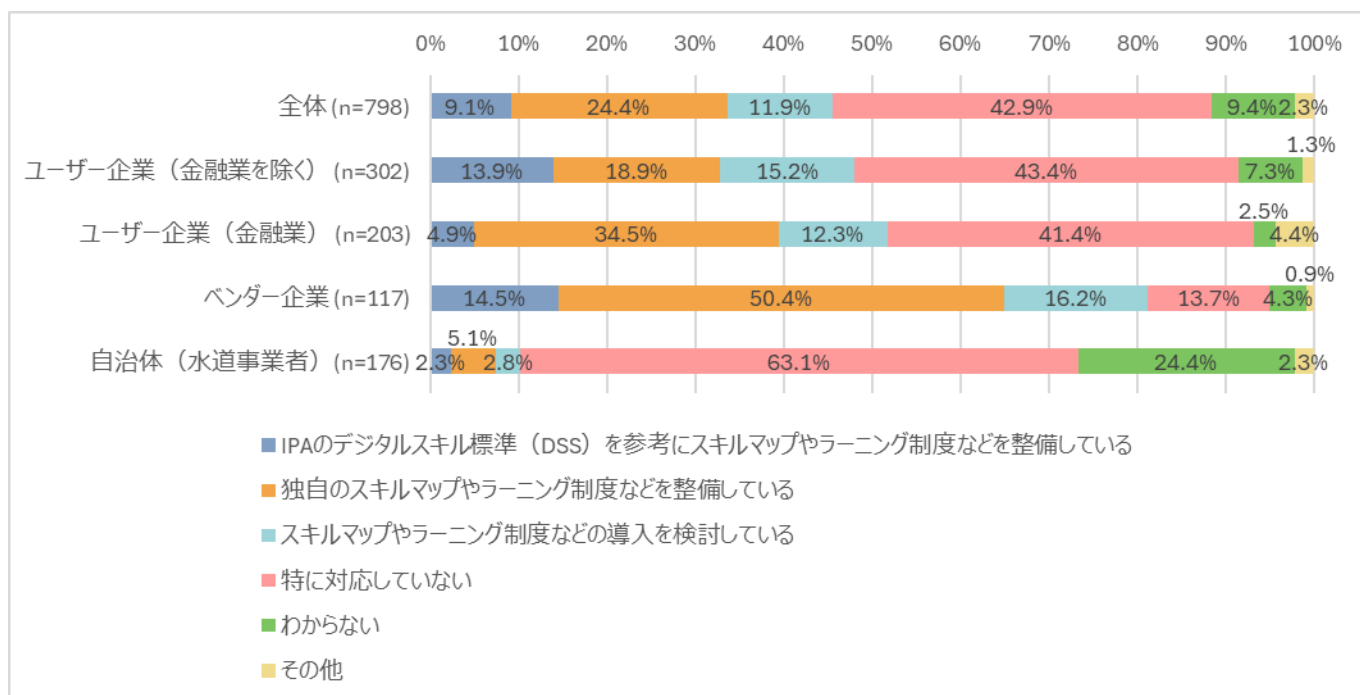


<人材>

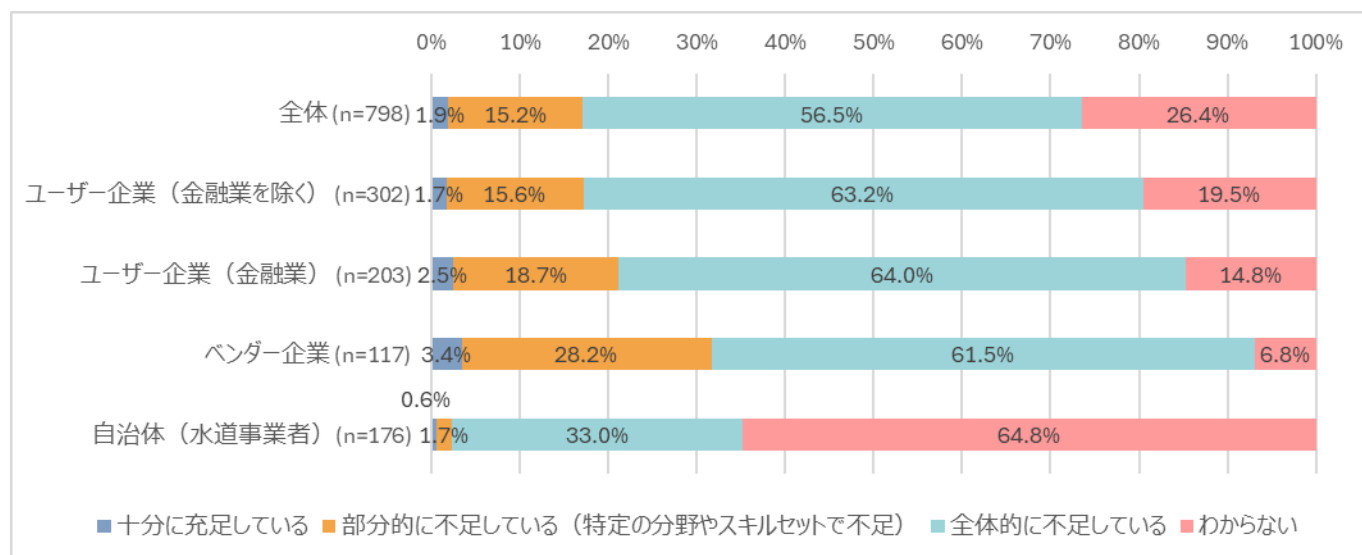
Q4-1 グローバル人材の育成



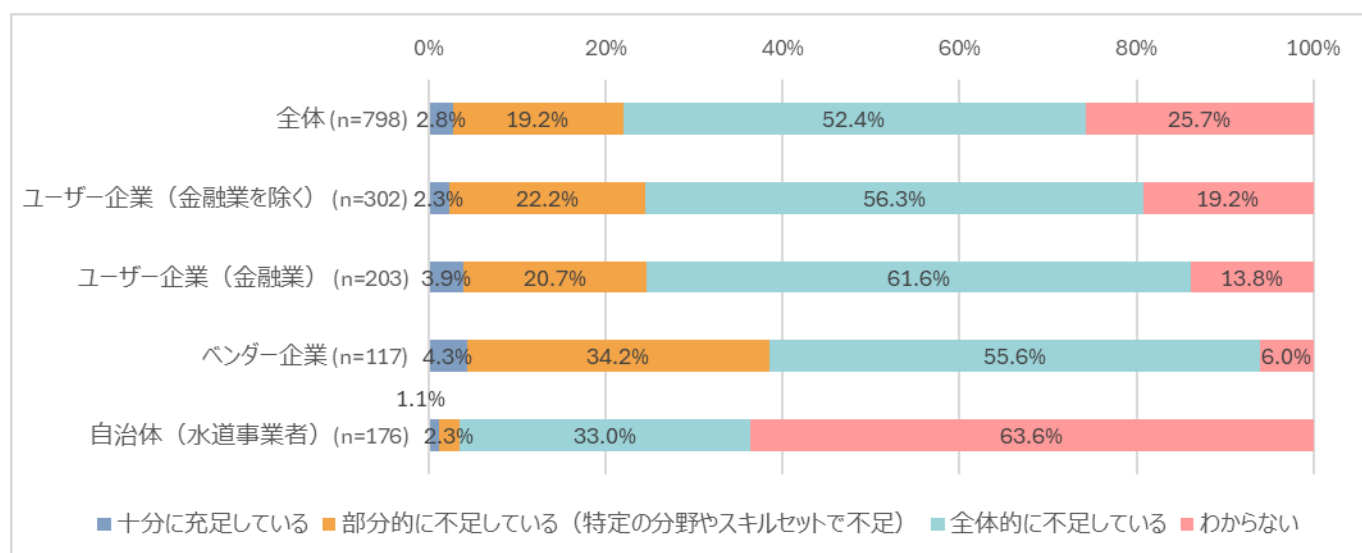
Q4-2 人材育成制度



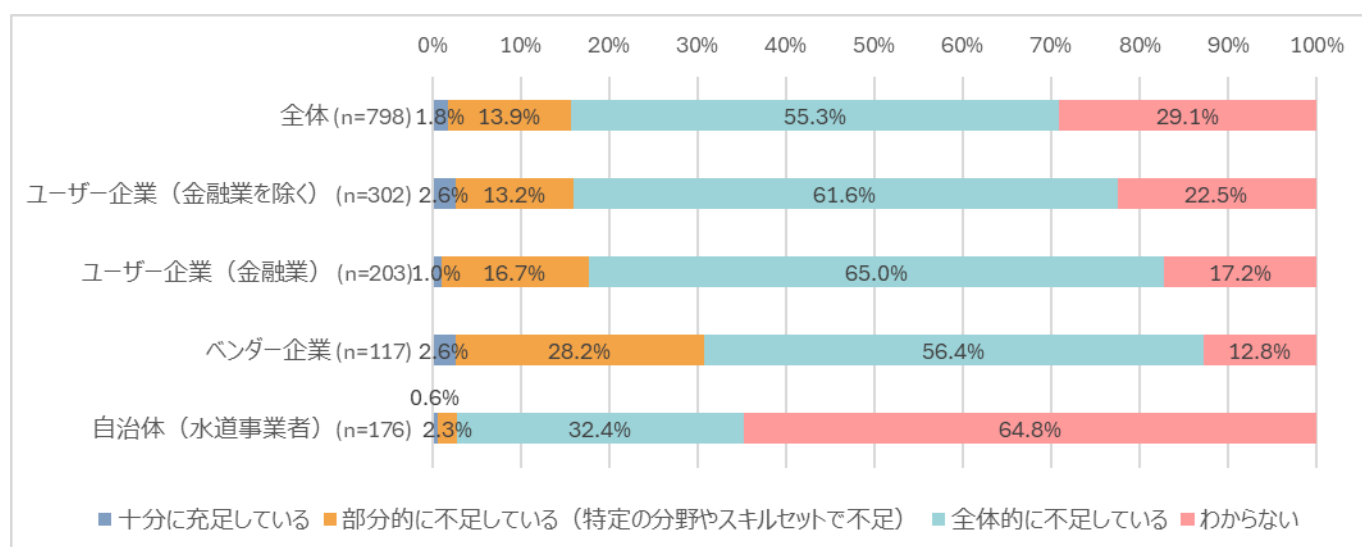
Q4-3 【IT スキル人材充足度】ビジネスアーキテクト、IT アーキテクト



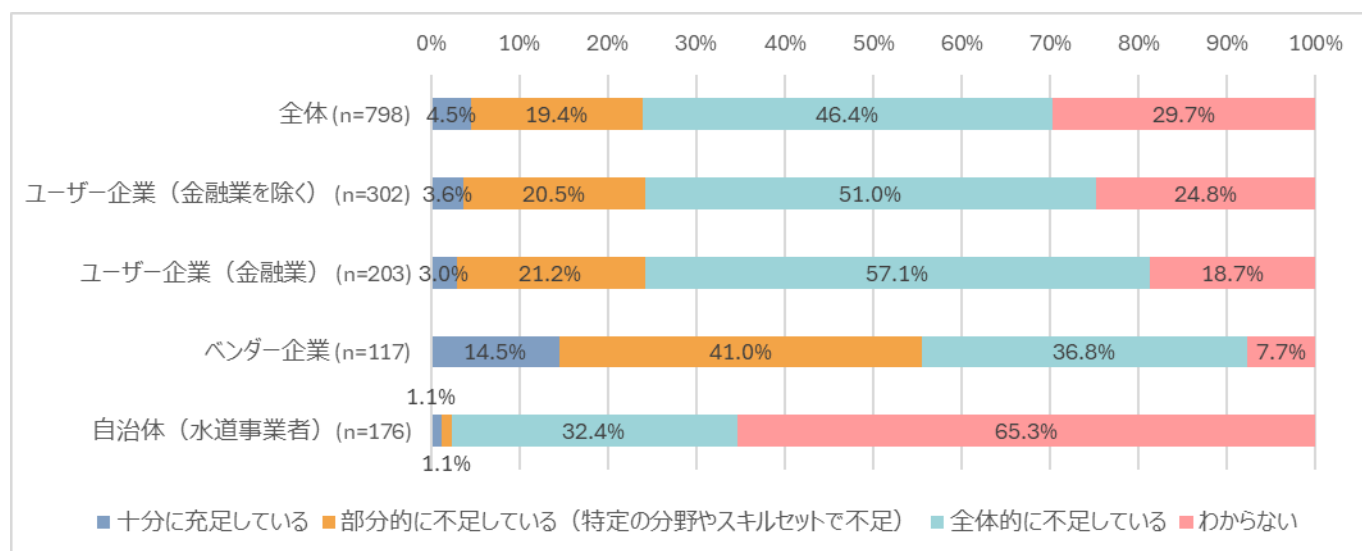
Q4-3 【IT スキル人材充足度】プロジェクト管理



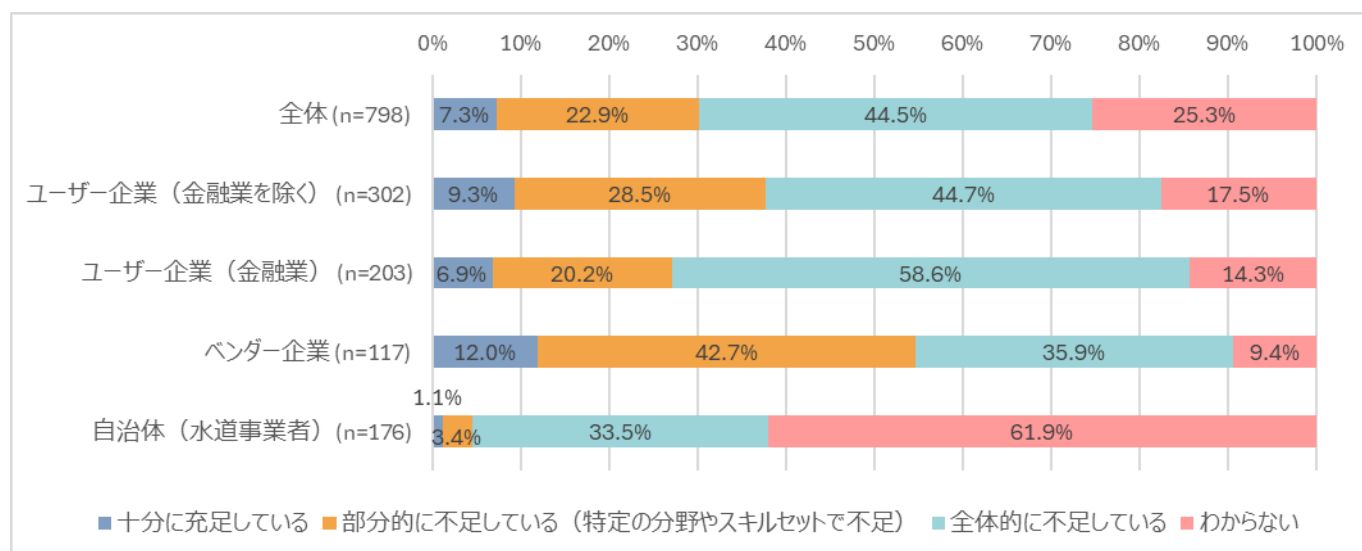
Q4-3 【IT スキル人材充足度】データサイエンティスト



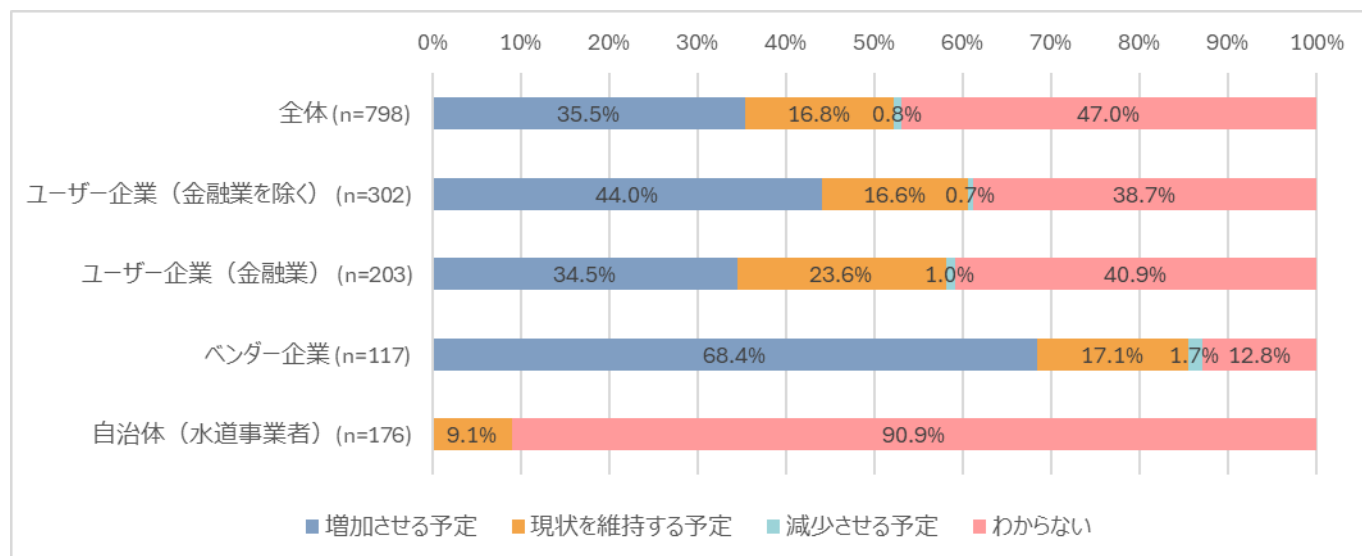
Q4-3 【IT スキル人材充足度】製造



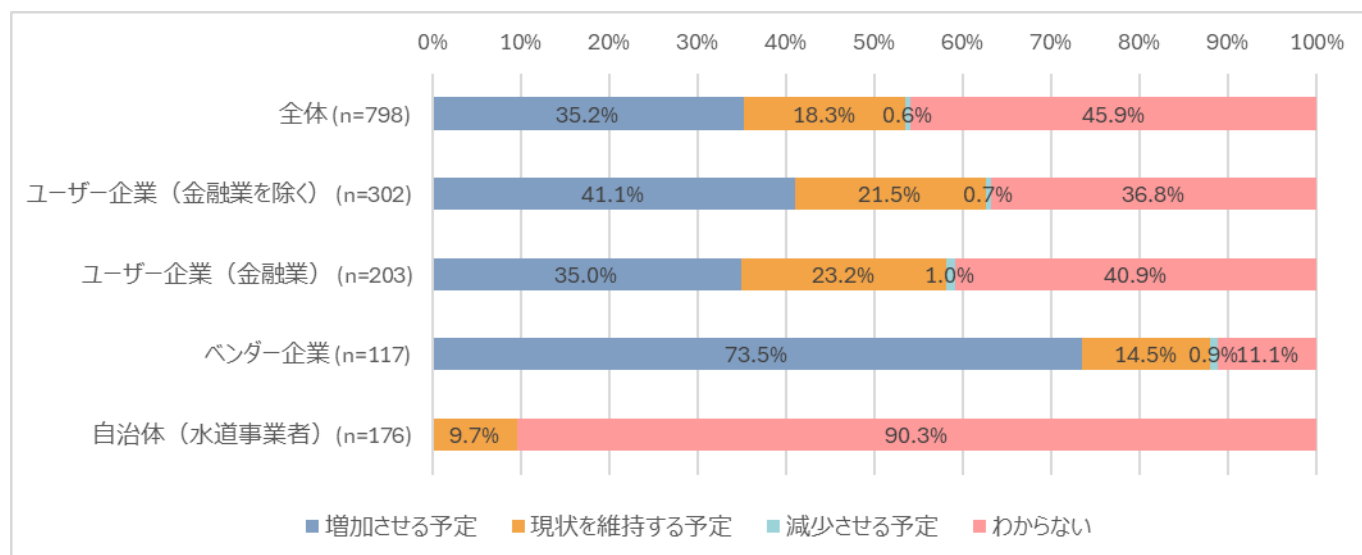
Q4-3 【IT スキル人材充足度】運用



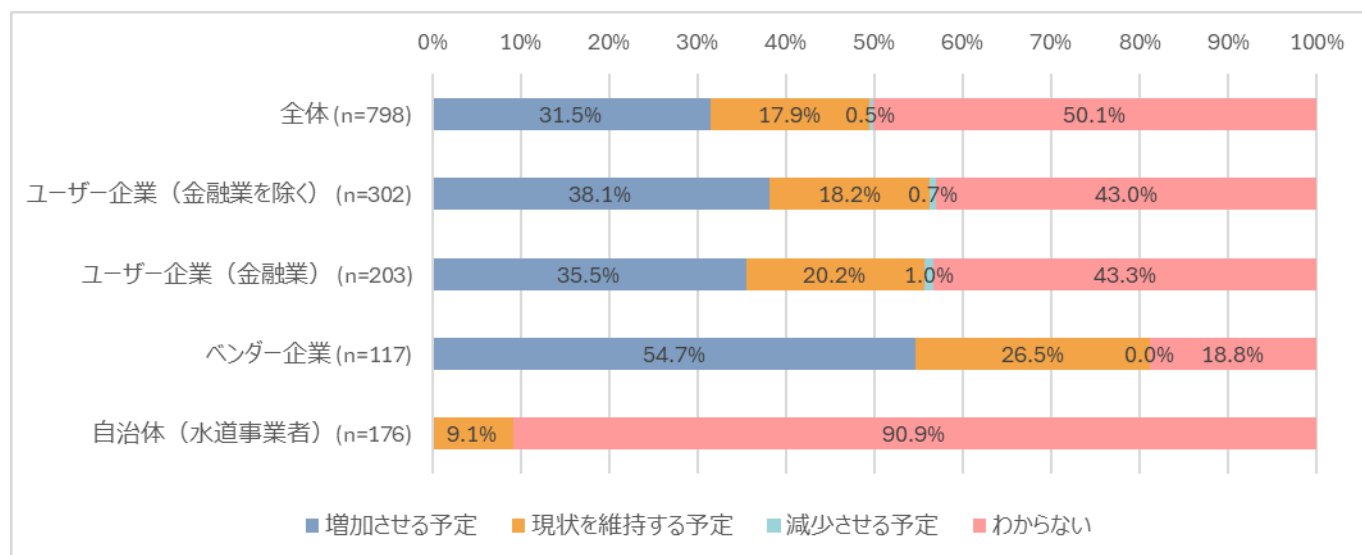
Q4-4 【IT 人材の増減】ビジネスアーキテクト、IT アーキテクト



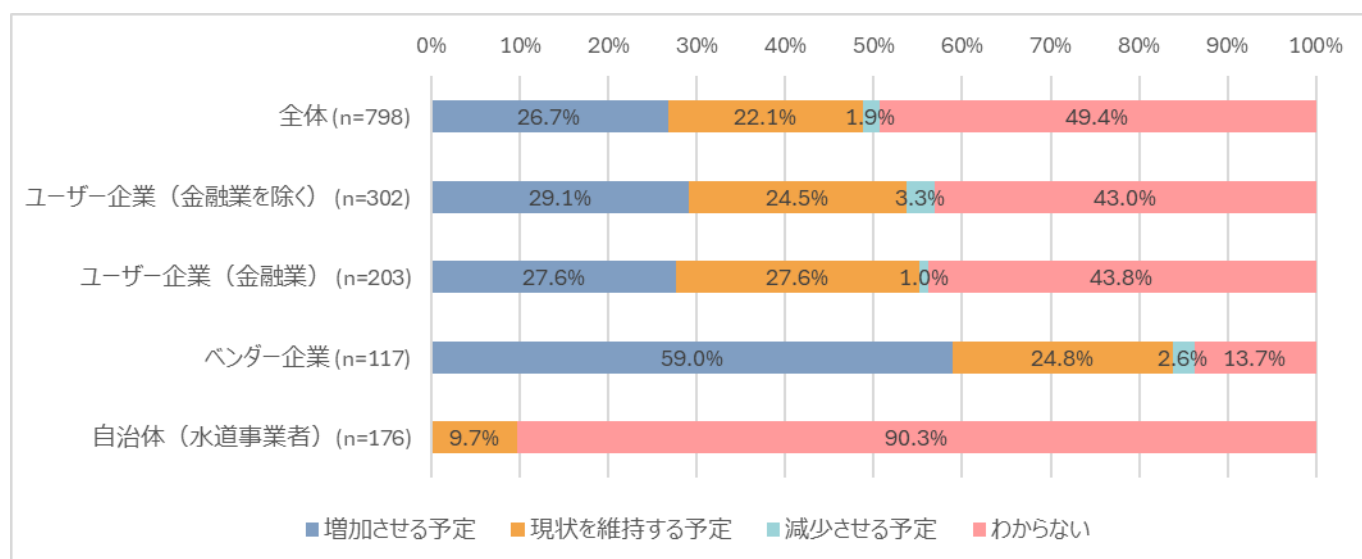
Q4-4 【IT 人材の増減】プロジェクト管理



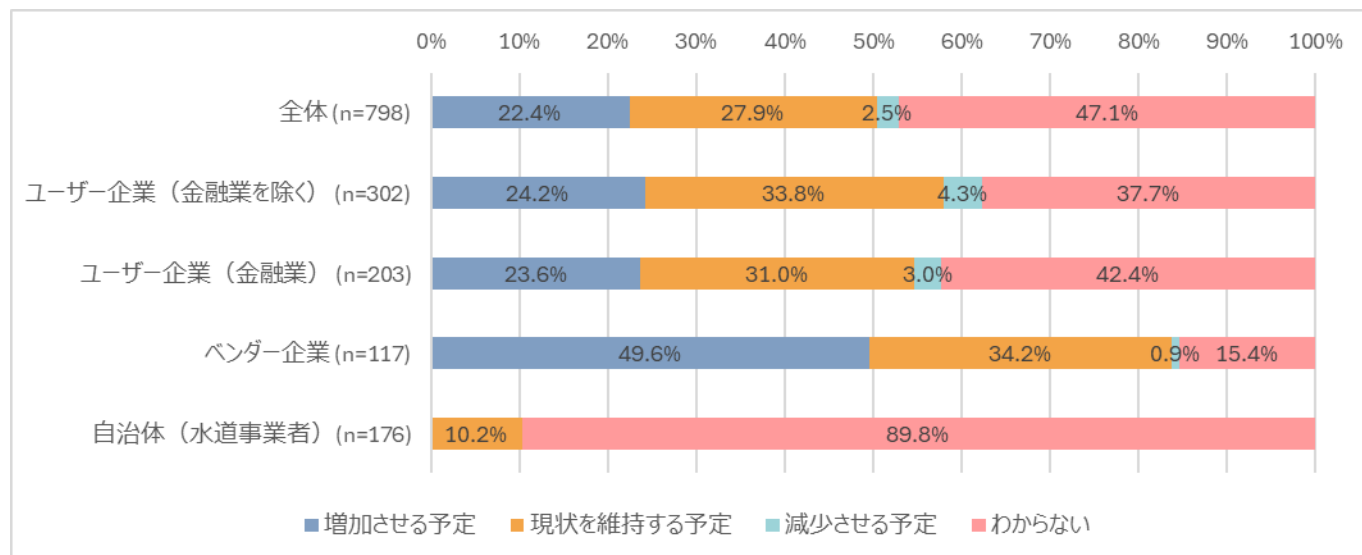
Q4-4 【IT 人材の増減】データサイエンティスト



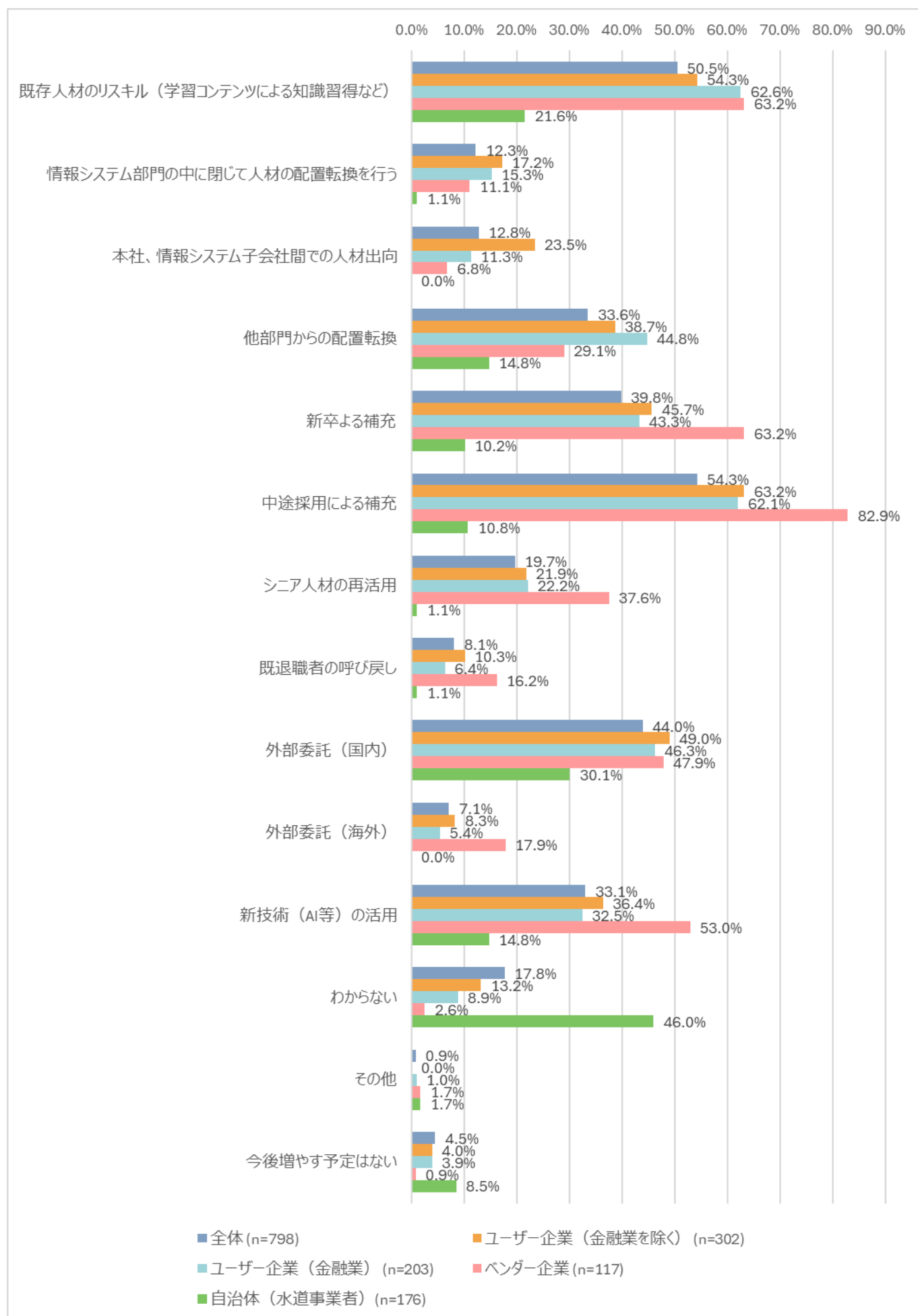
Q4-4 【IT 人材の増減】製造



Q4-4 【IT 人材の増減】運用

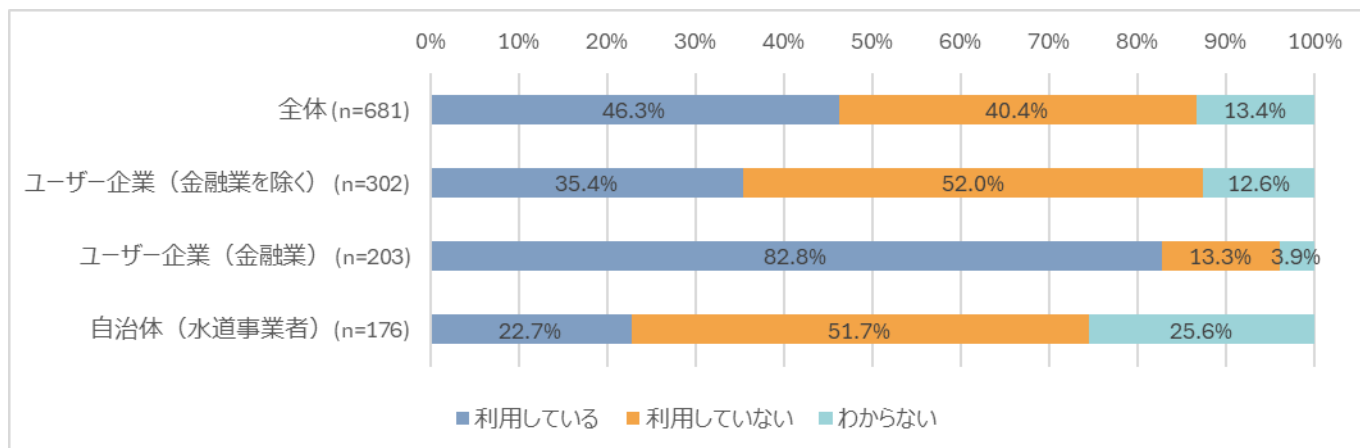


Q4-5 IT 人材不足対応方針

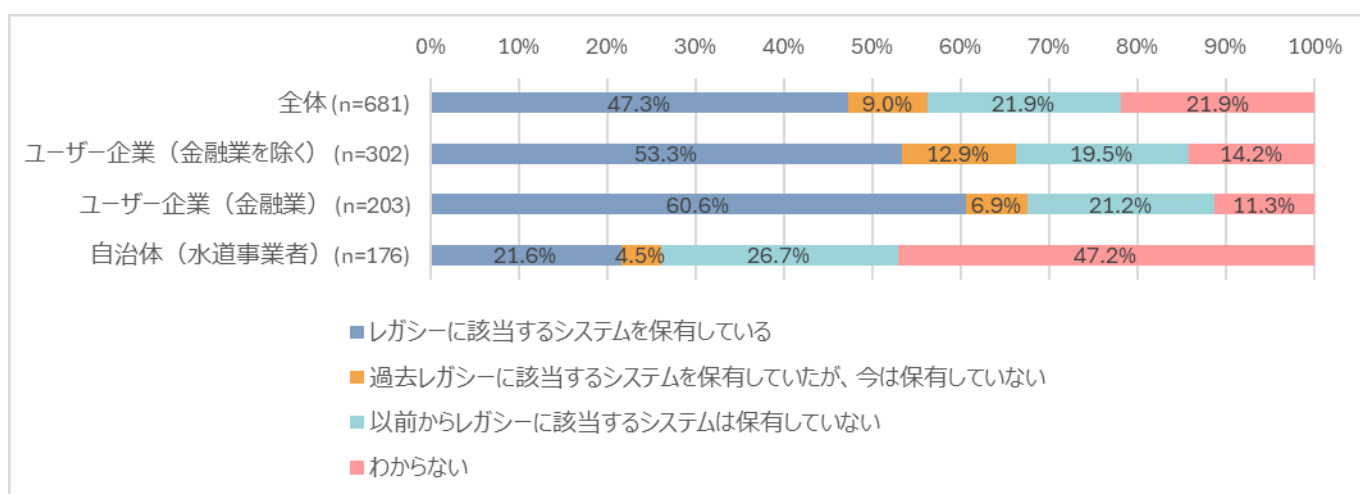


<レガシー>

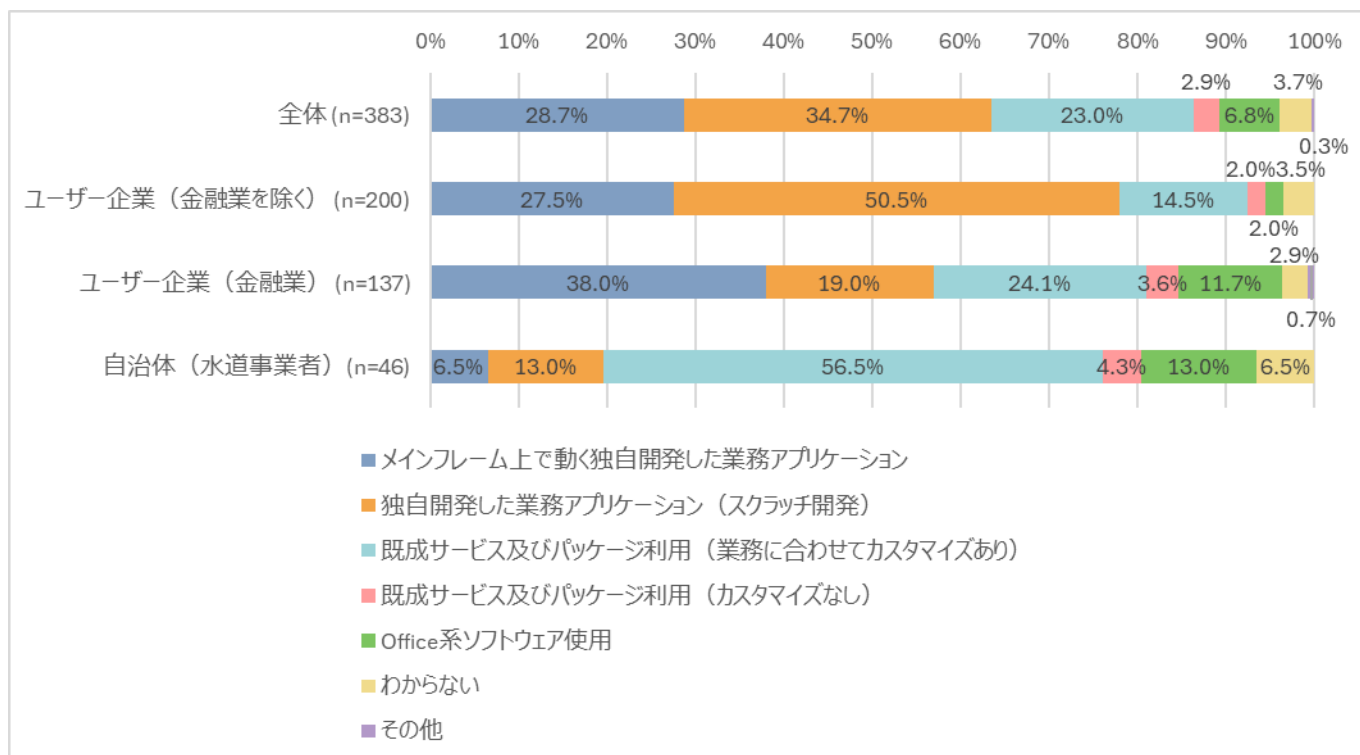
Q5-1 共同利用型システムの利用状況



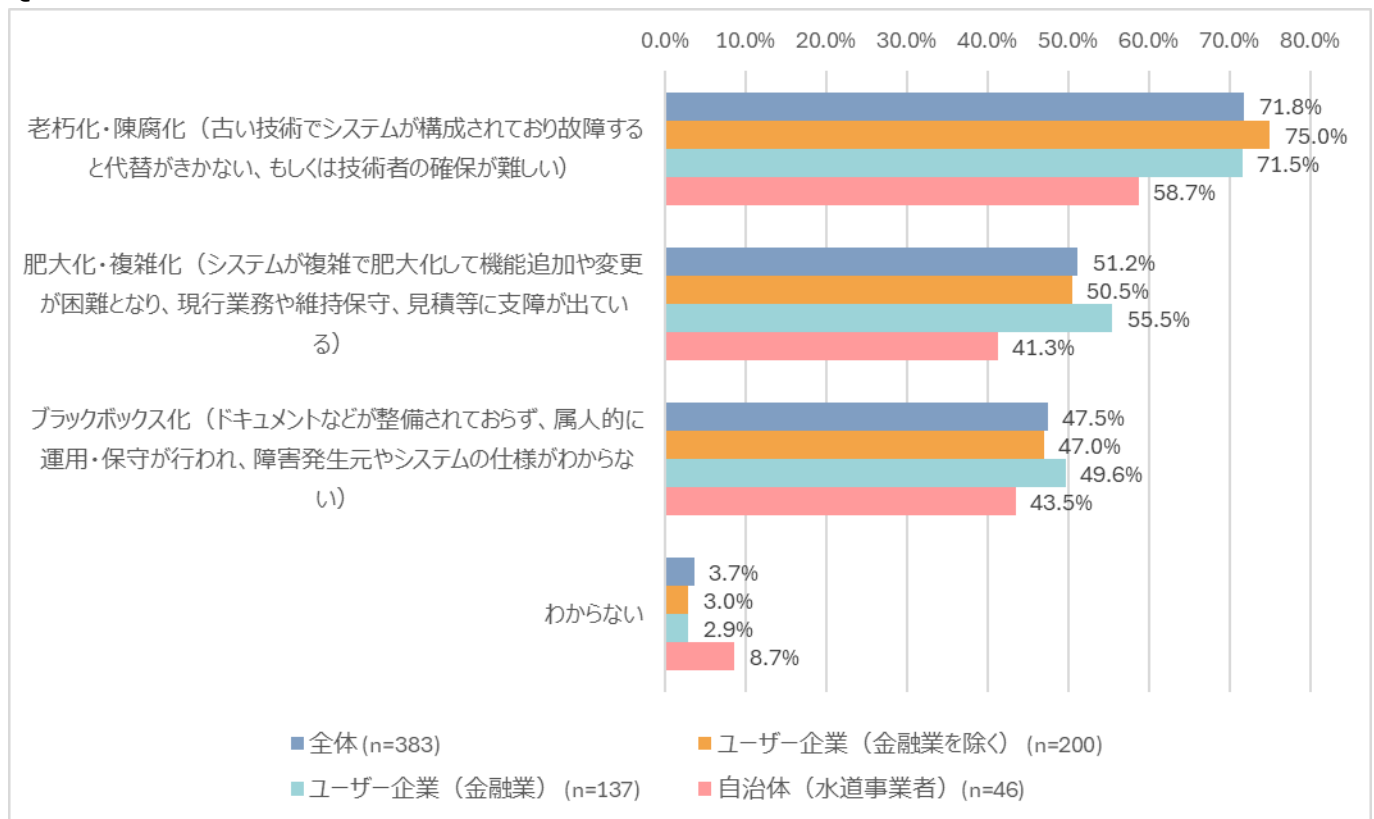
Q5-2 レガシーシステムの有無



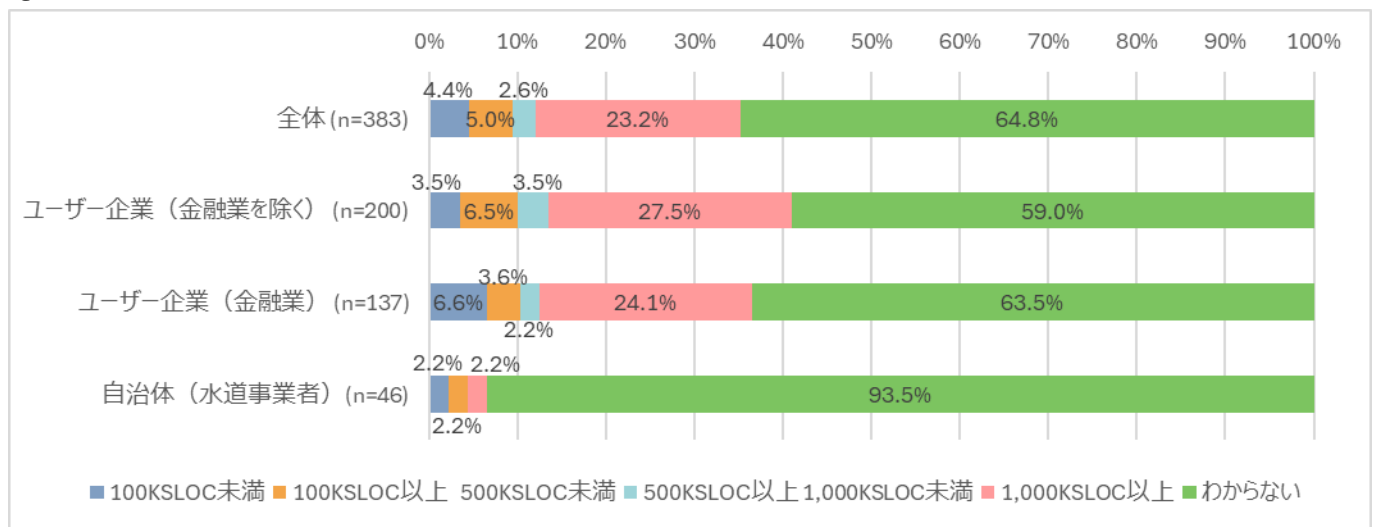
Q5-3 レガシーシステムタイプ



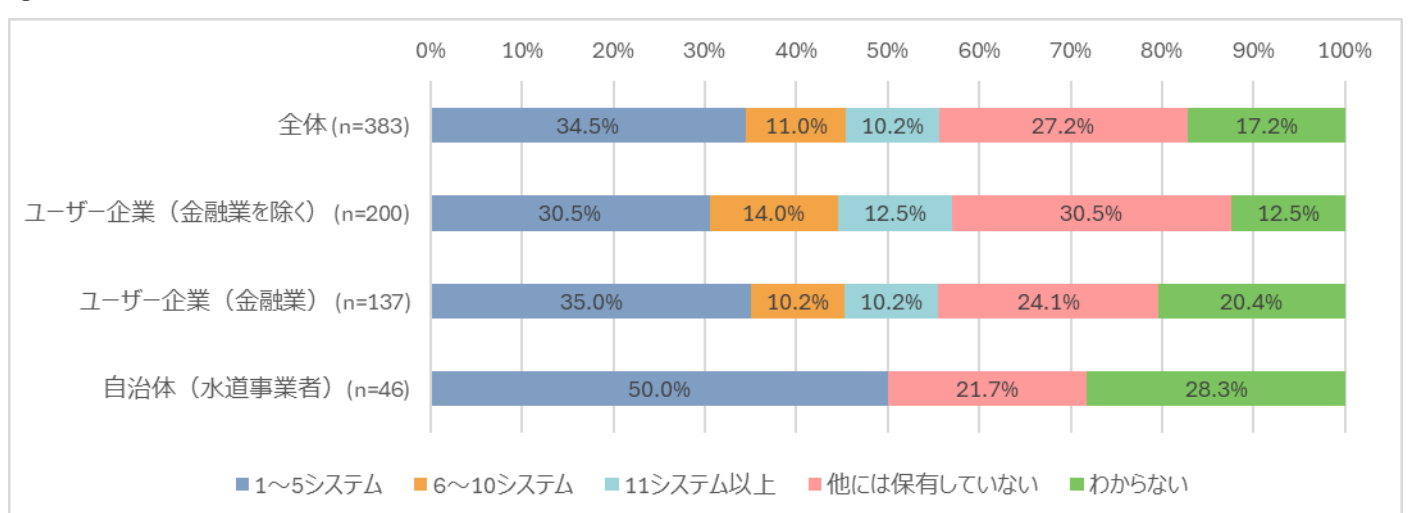
Q5-4 レガシーと判断した要因



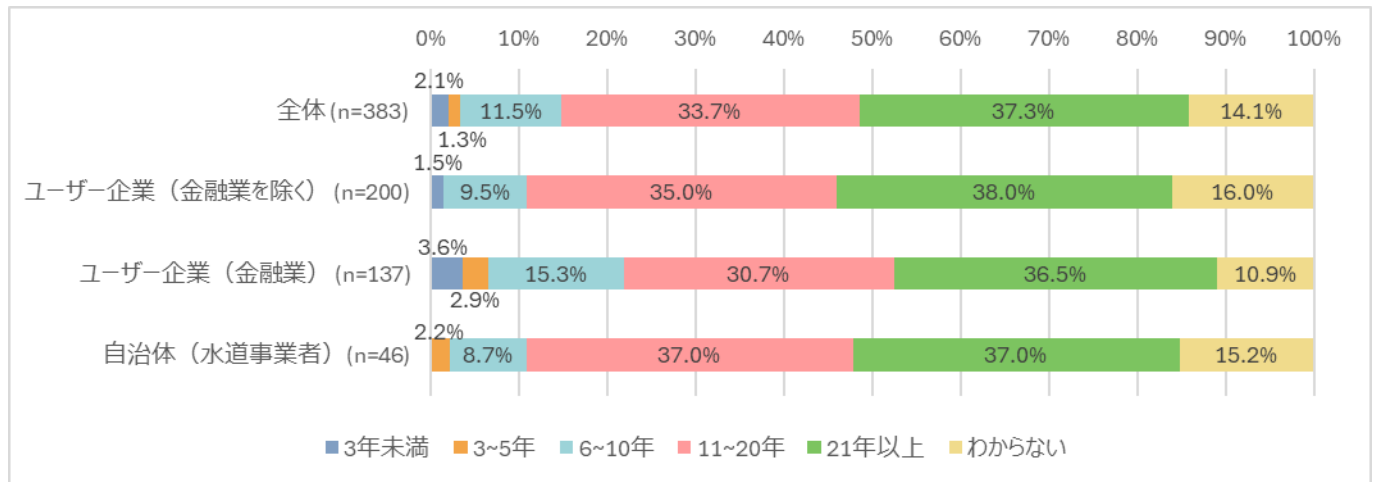
Q5-5 システム規模



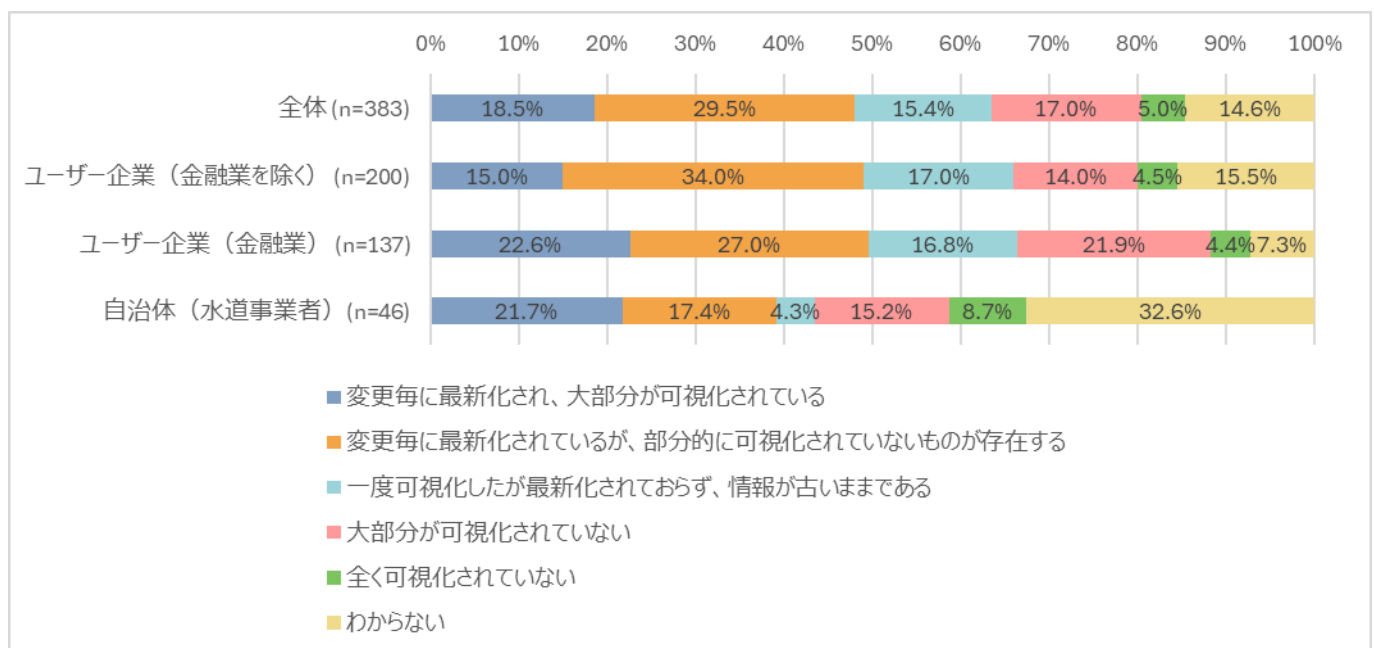
Q5-6 類似システム個数



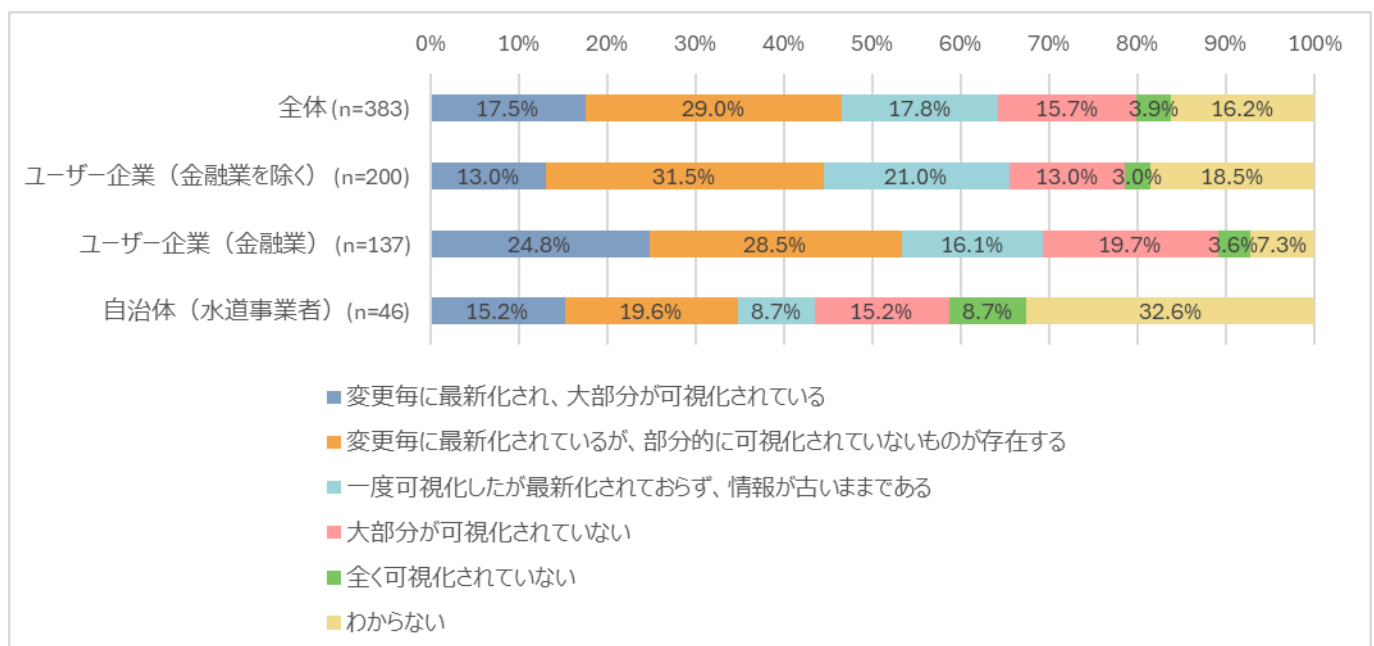
Q5-7 システム稼働年数



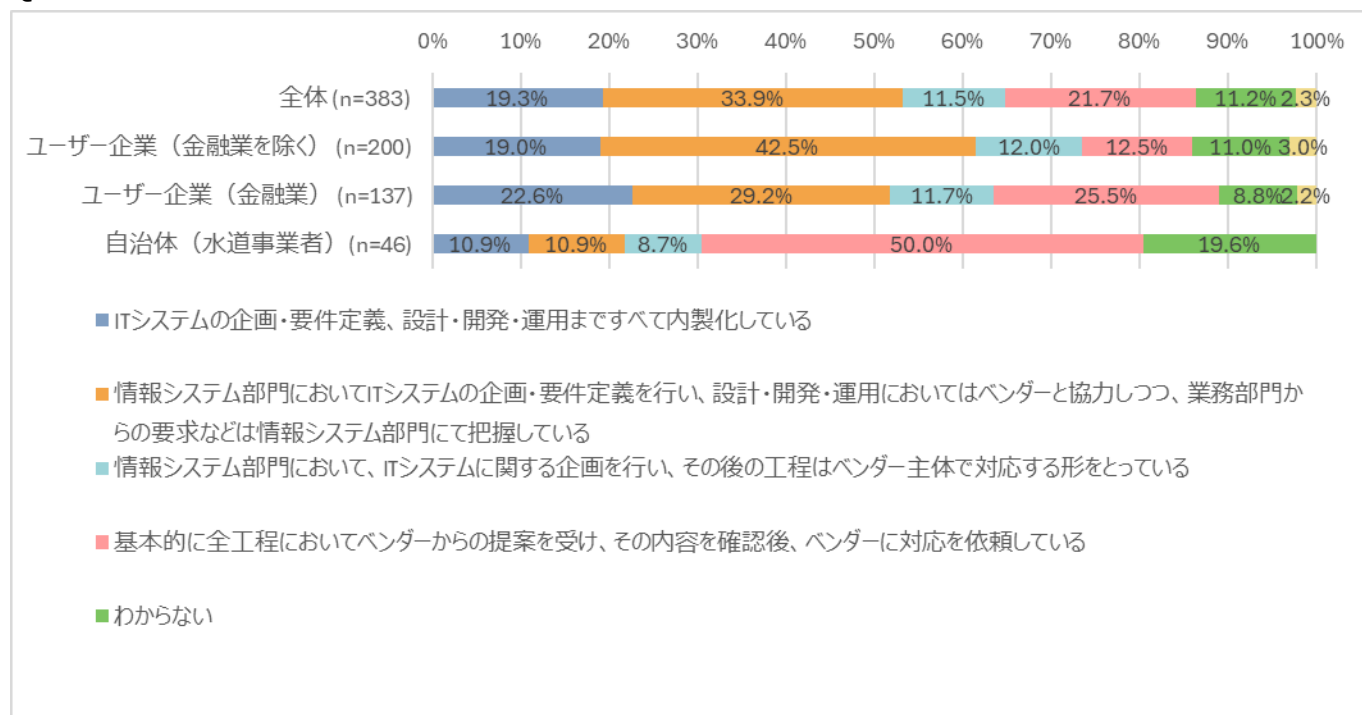
Q5-8 【レガシーシステム可視化状況】システム仕様



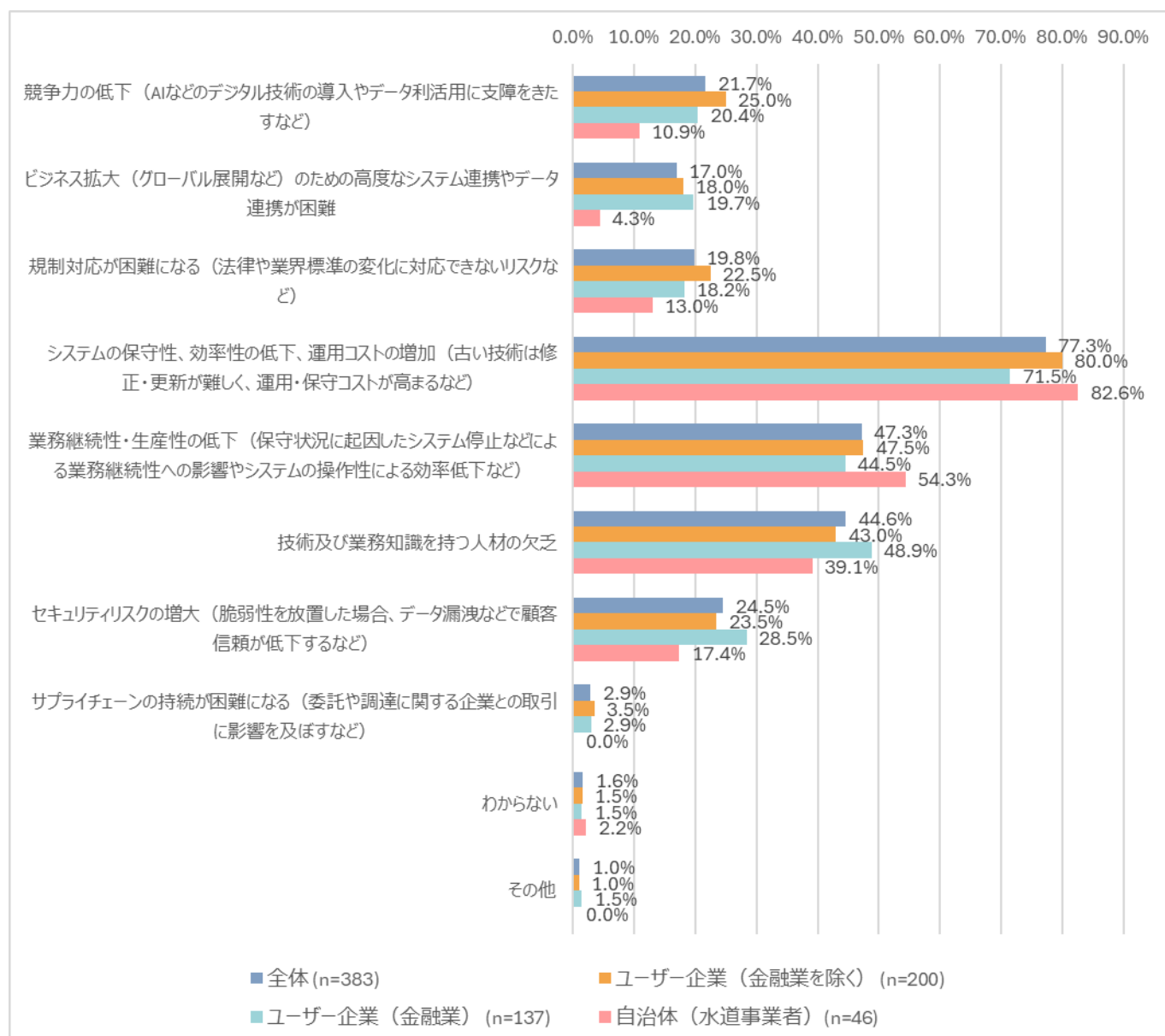
Q5-8 【レガシーシステム可視化状況】業務オペレーションやプロセス



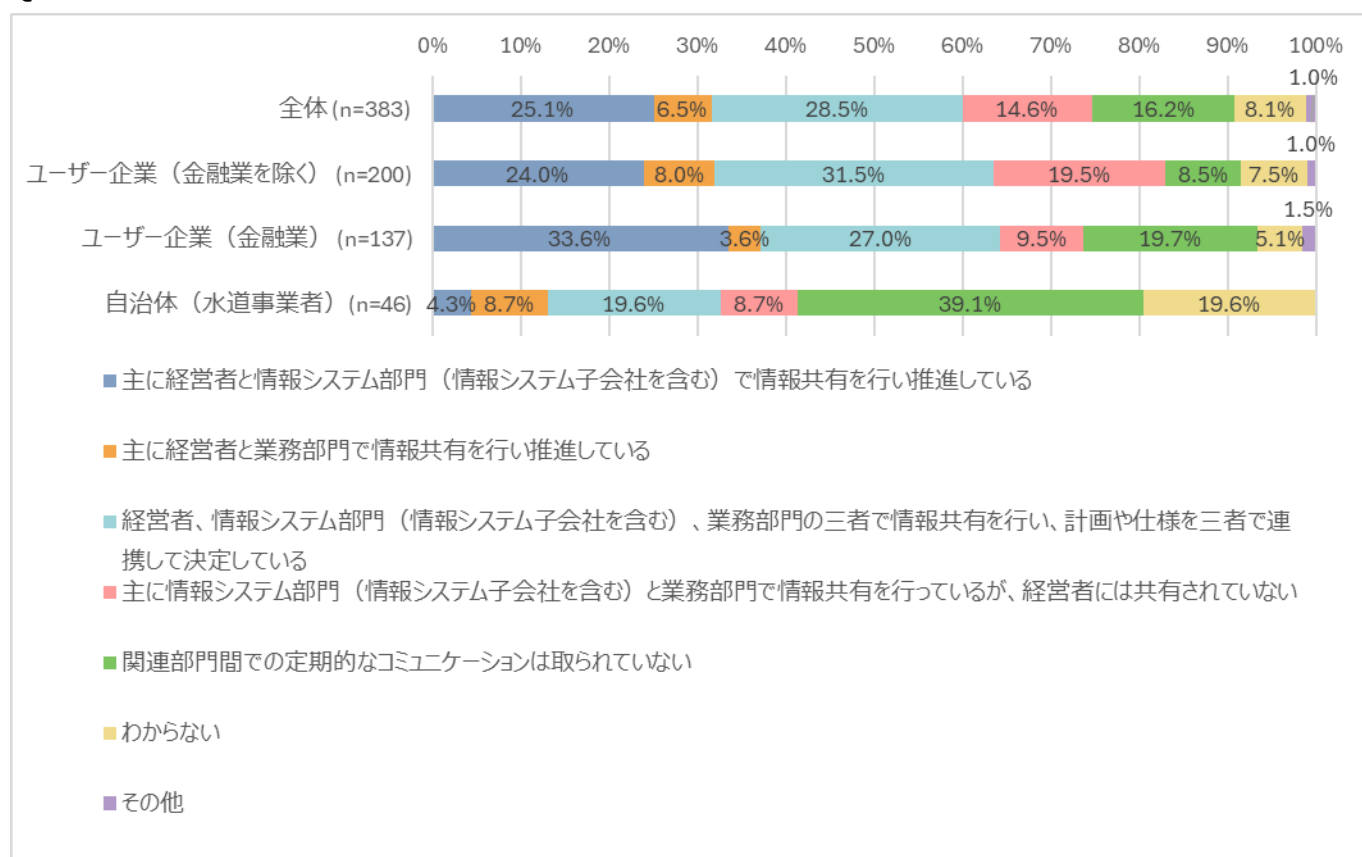
Q5-9 レガシーシステム内製化状況



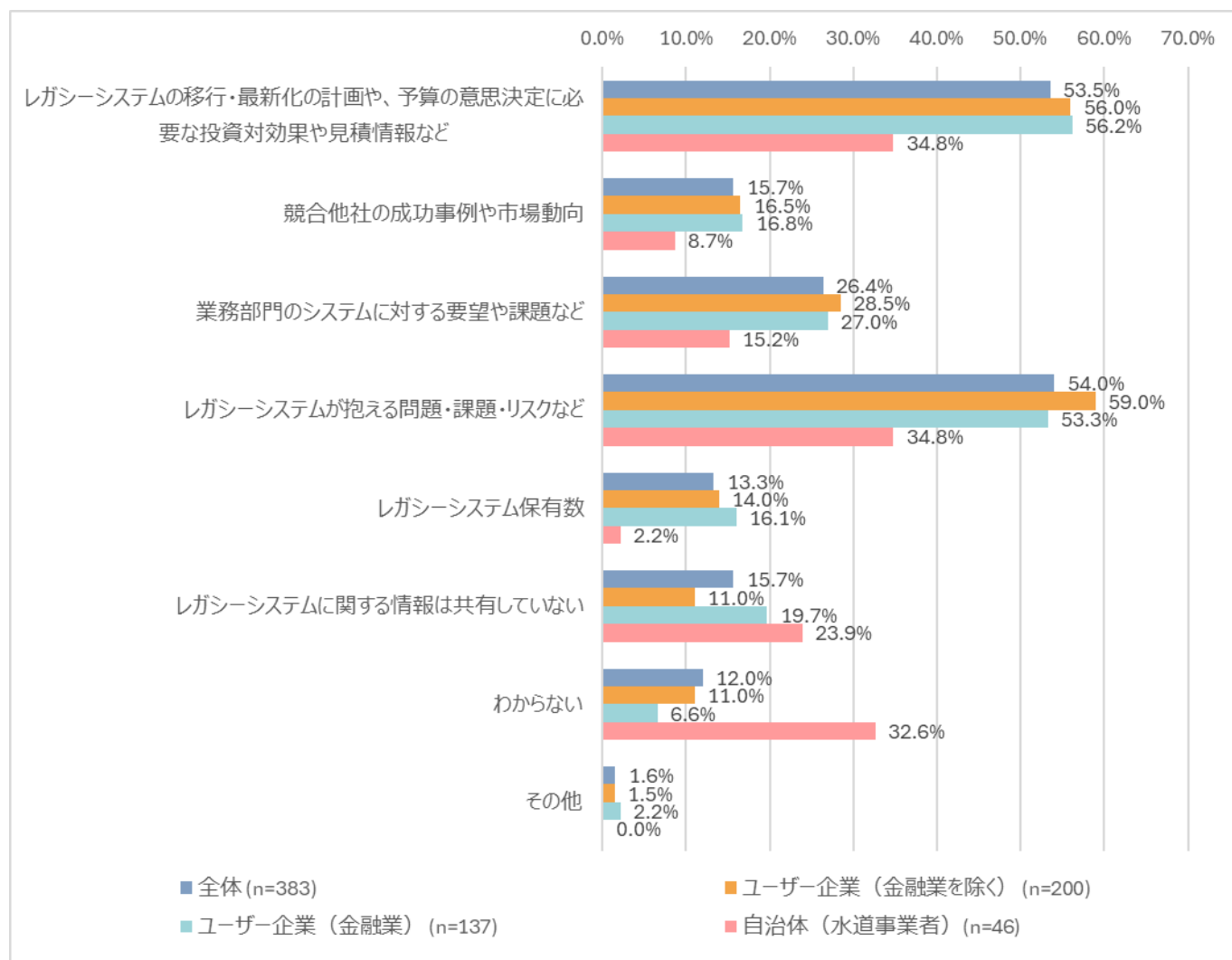
Q5-10 レガシーシステム放置時の影響



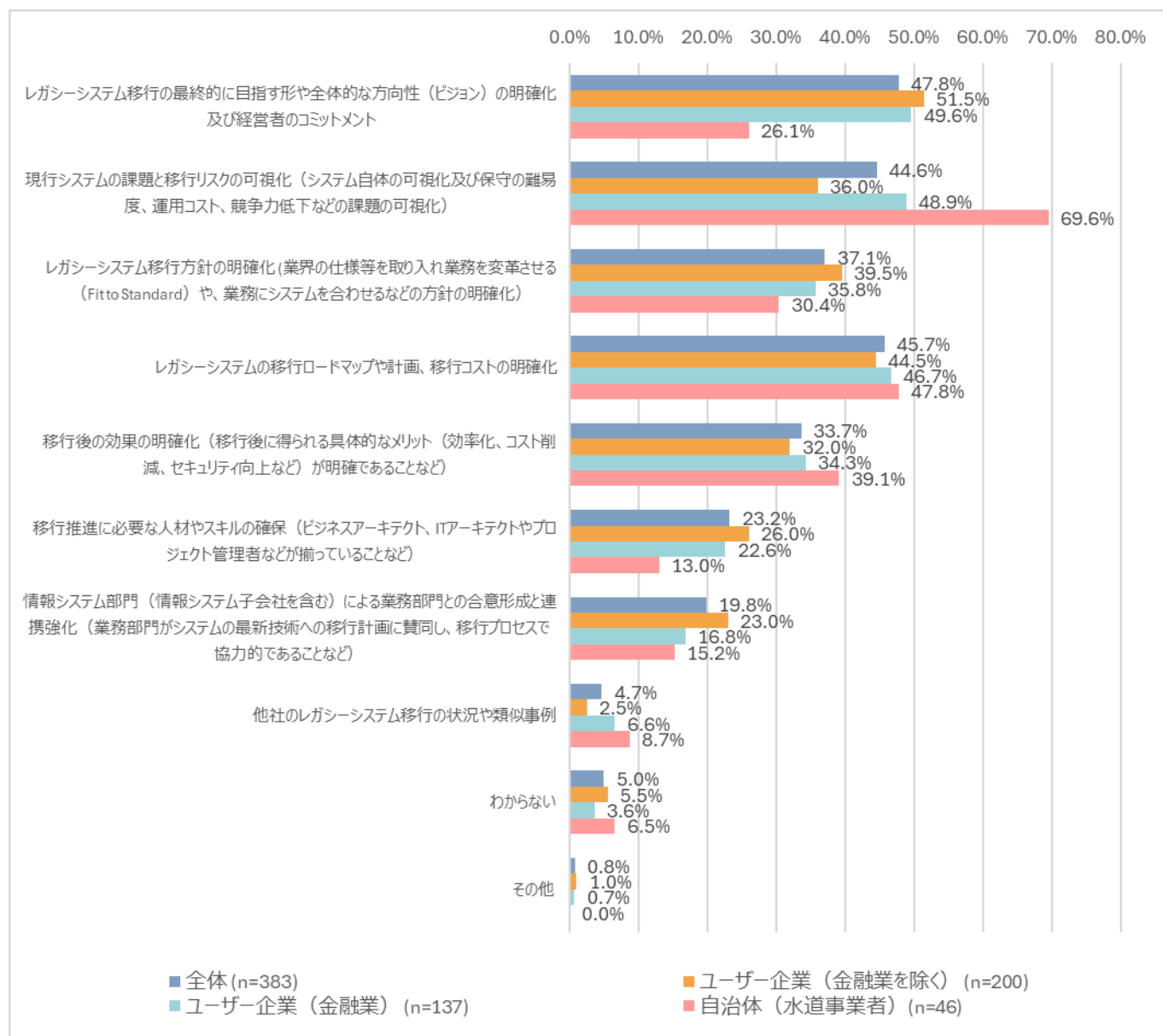
Q5-11 関係者間のコミュニケーション



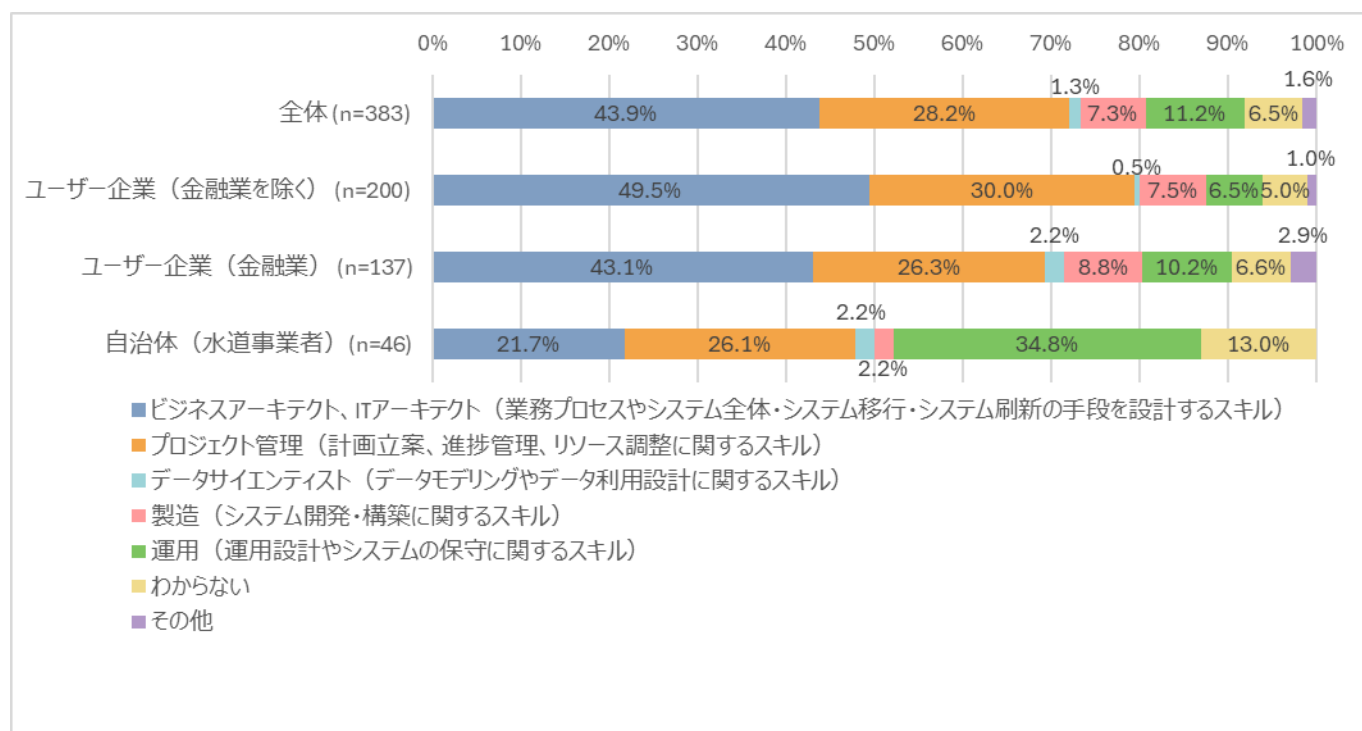
Q5-12 経営者との共有内容



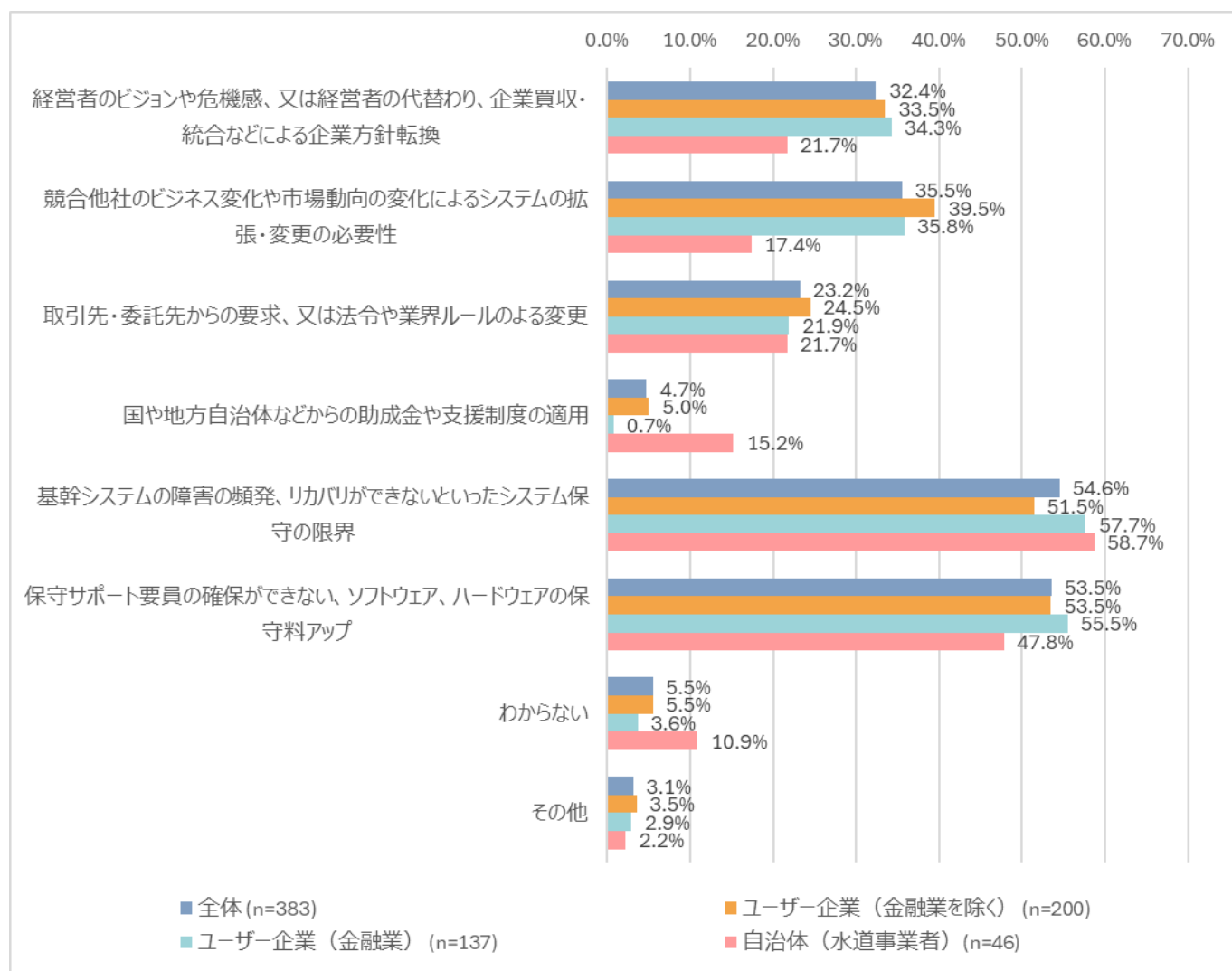
Q5-13 レガシーシステム移行時の重視事項



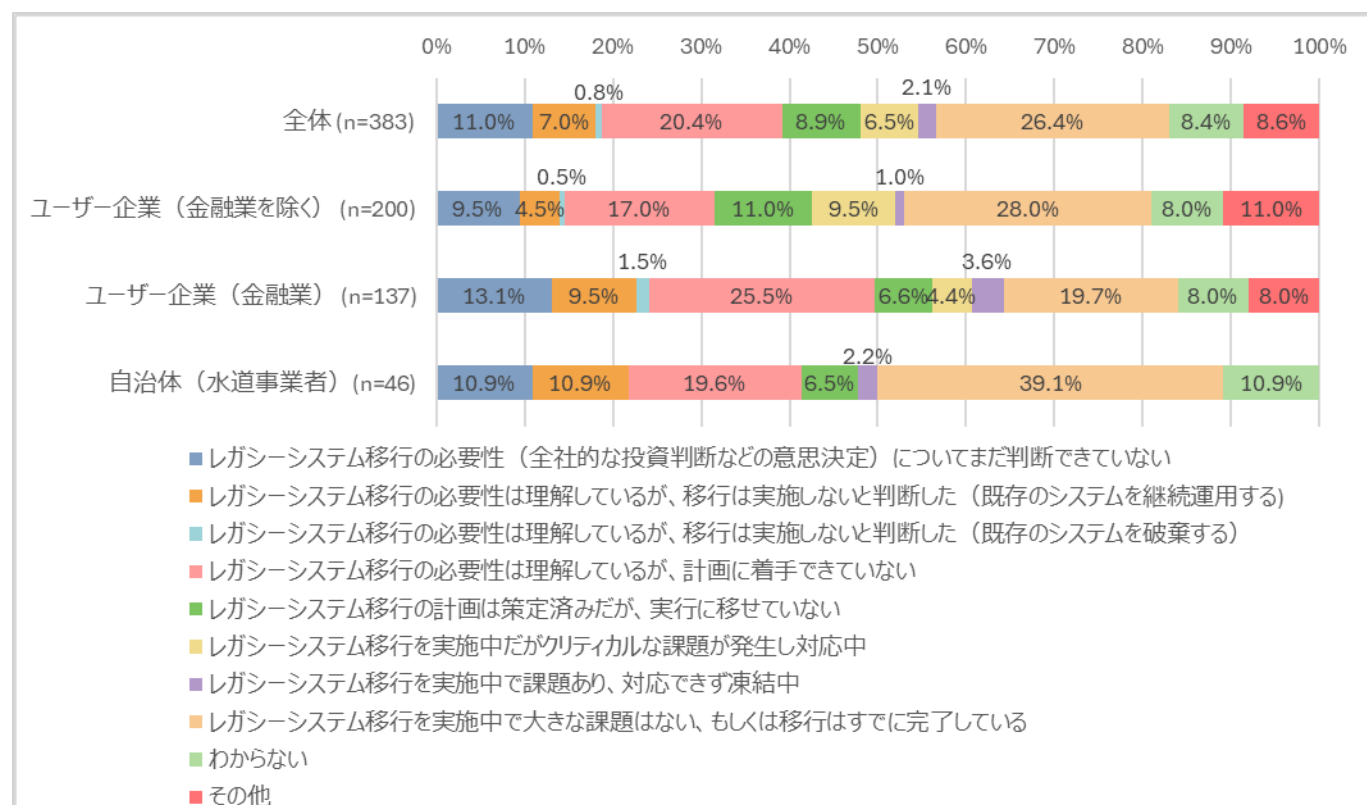
Q5-14 移行に重要な人材



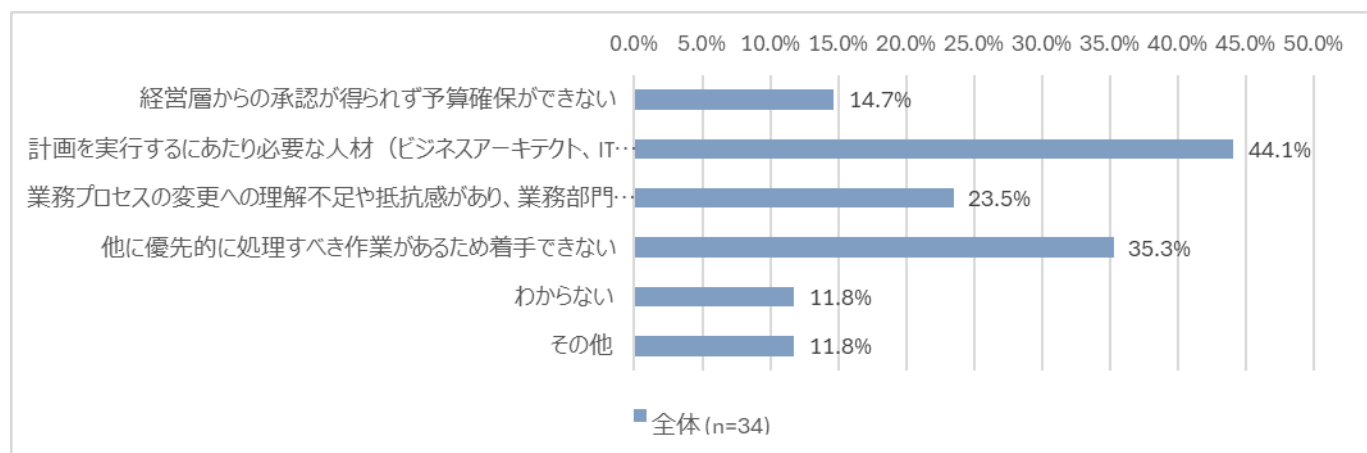
Q5-15 意思決定の決め手



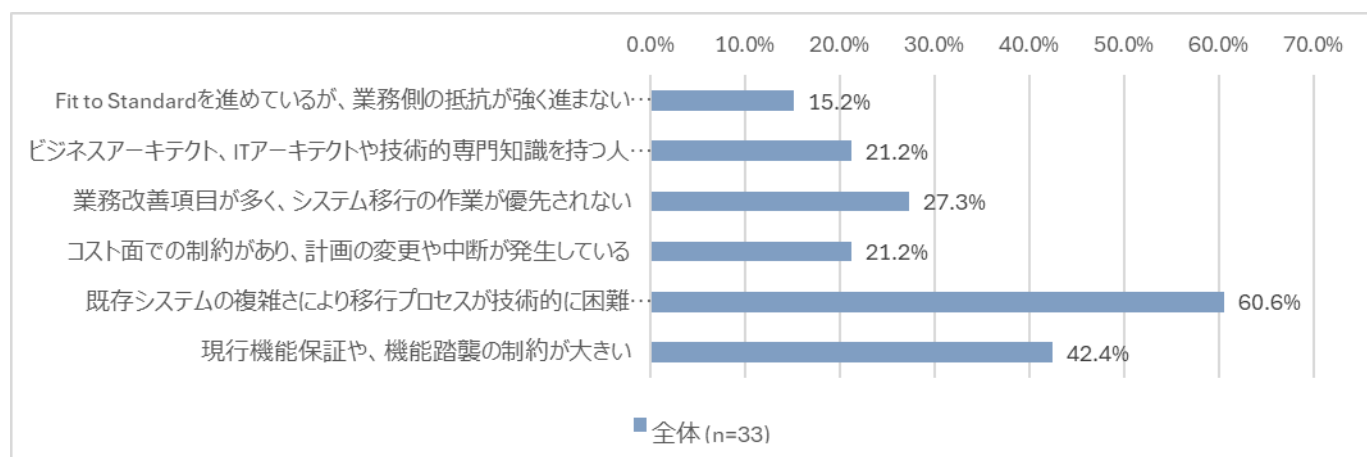
Q5-16 レガシーシステム移行の状況



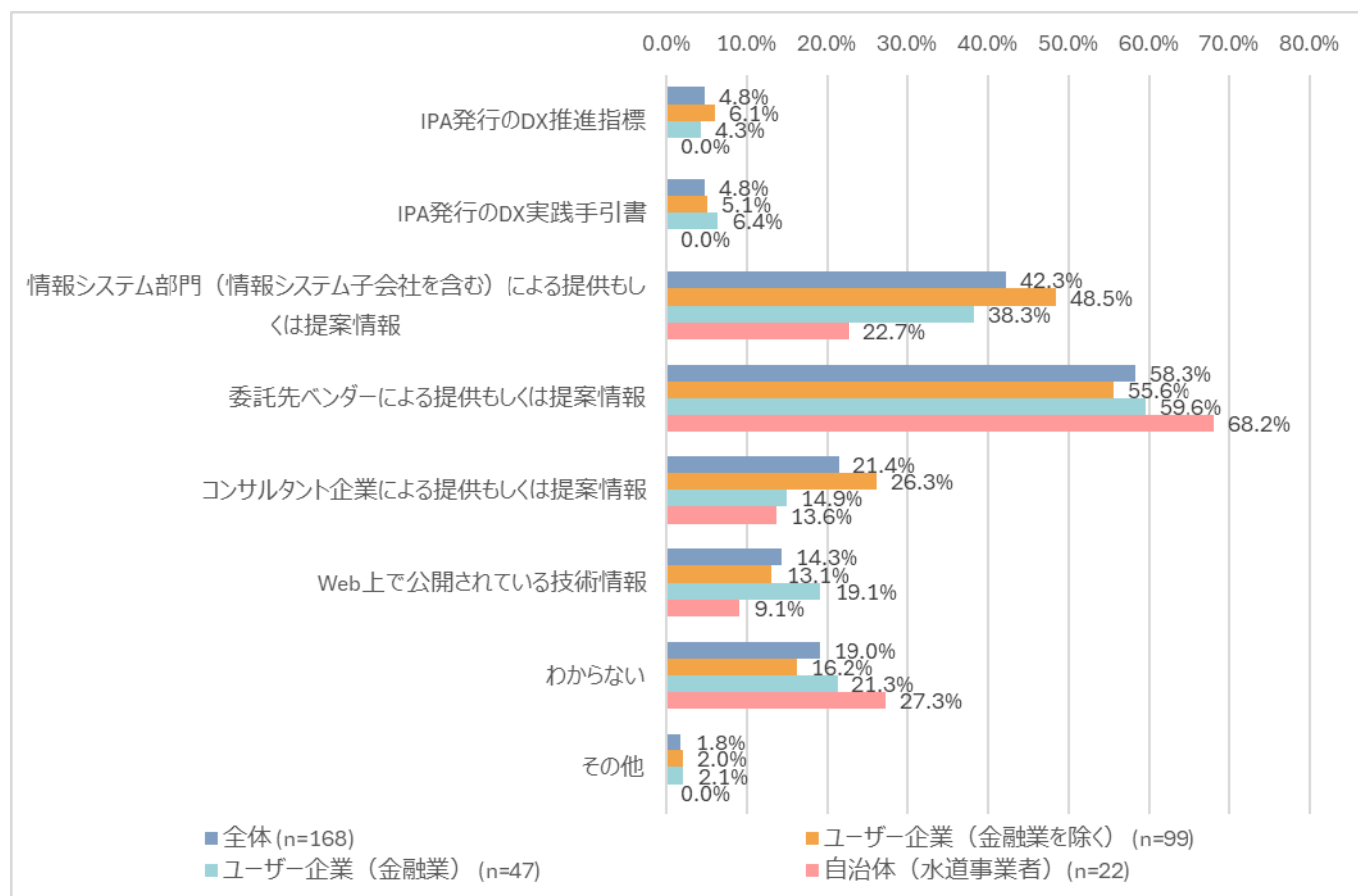
Q5-17 実行に移せない理由



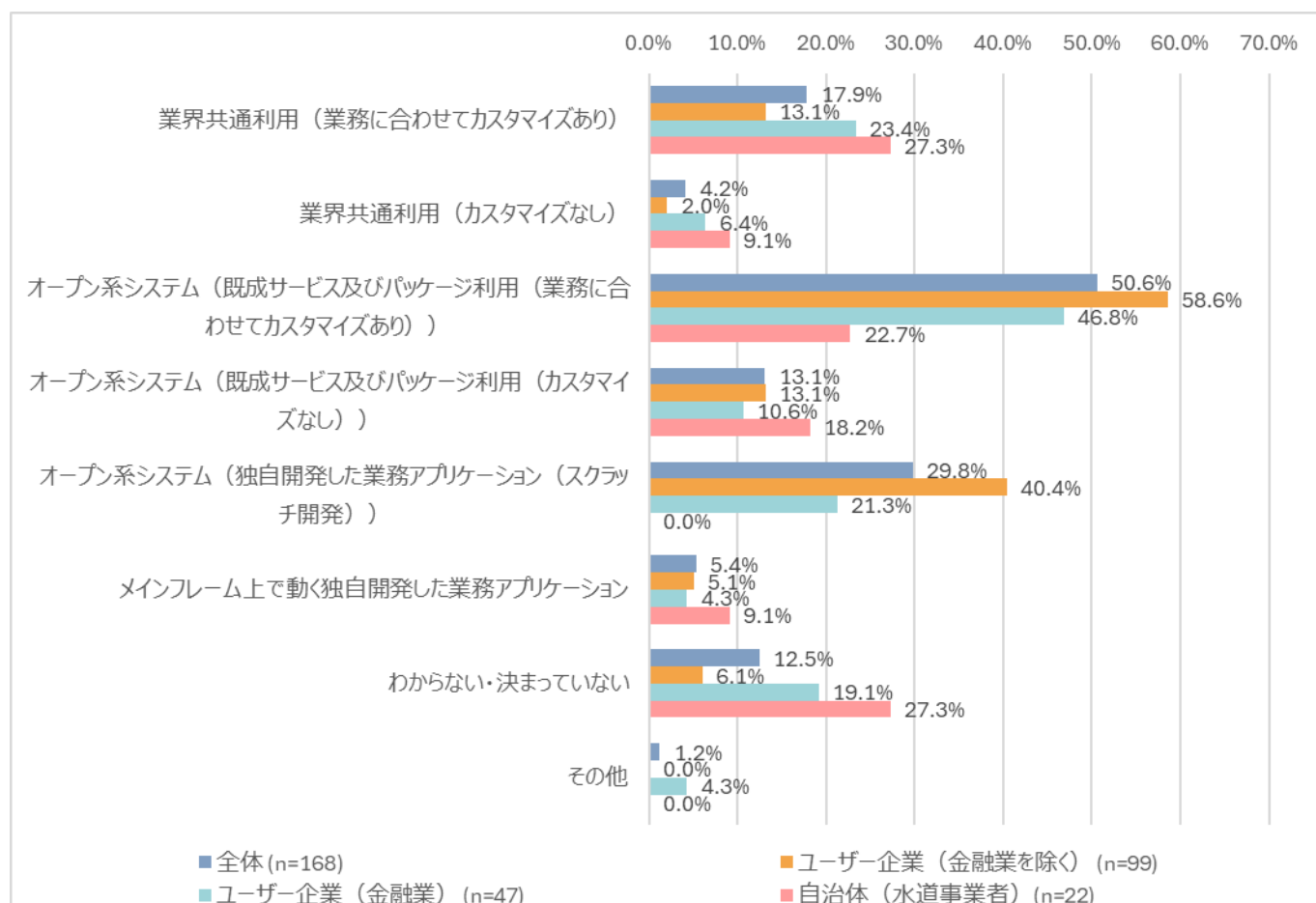
Q5-18 移行実施中の課題



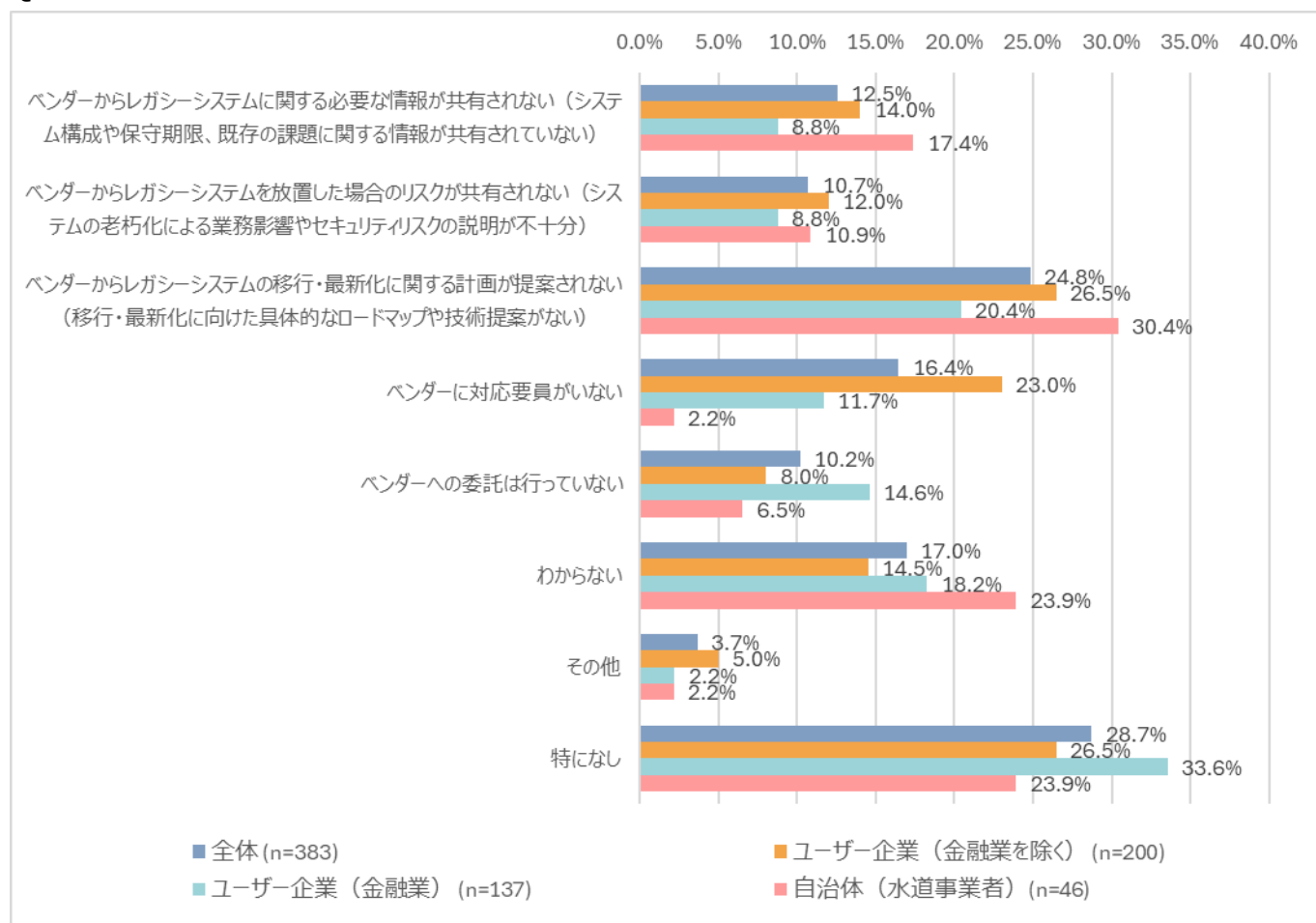
Q5-19 移行方針作成時に参考にした情報



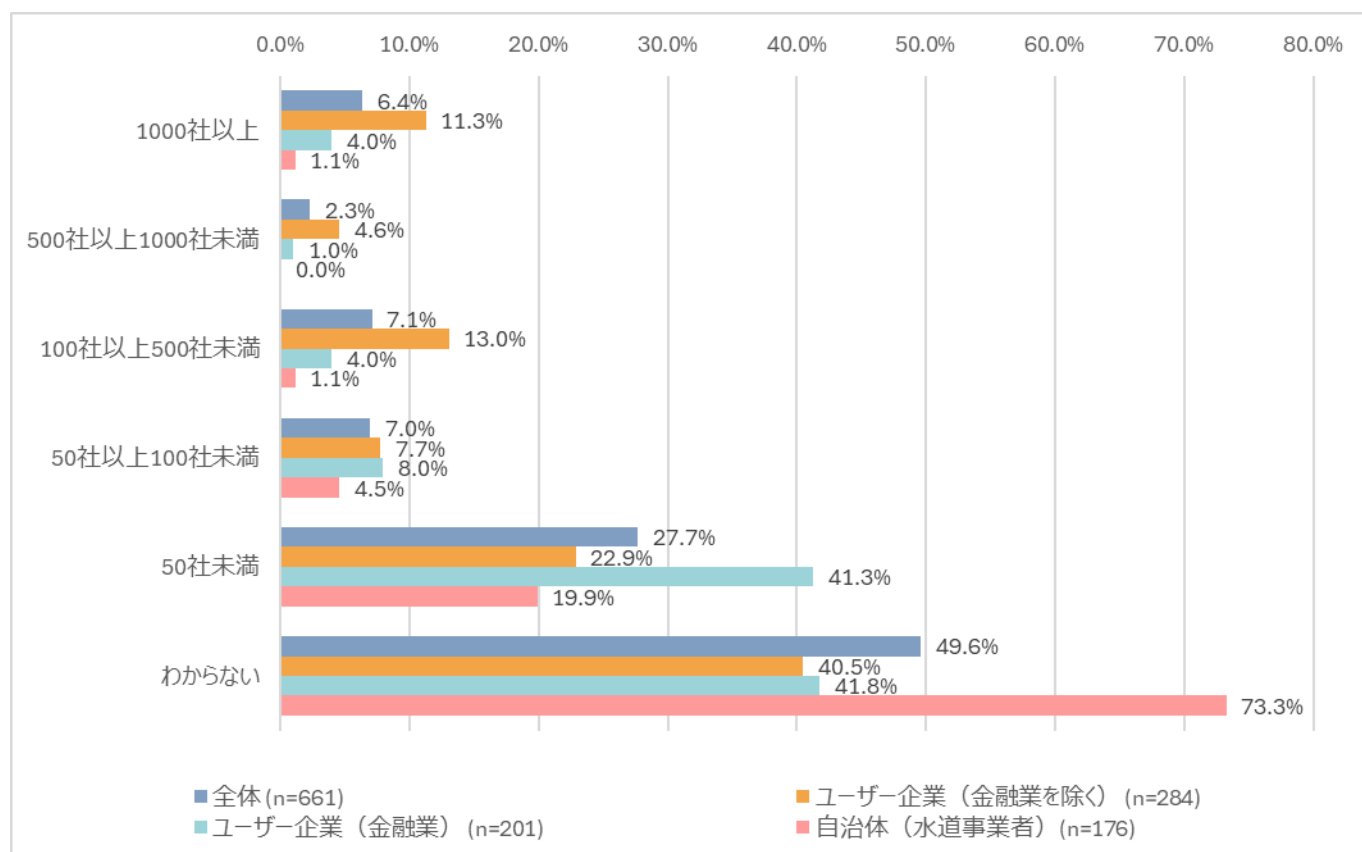
Q5-20 移行先のシステムタイプ



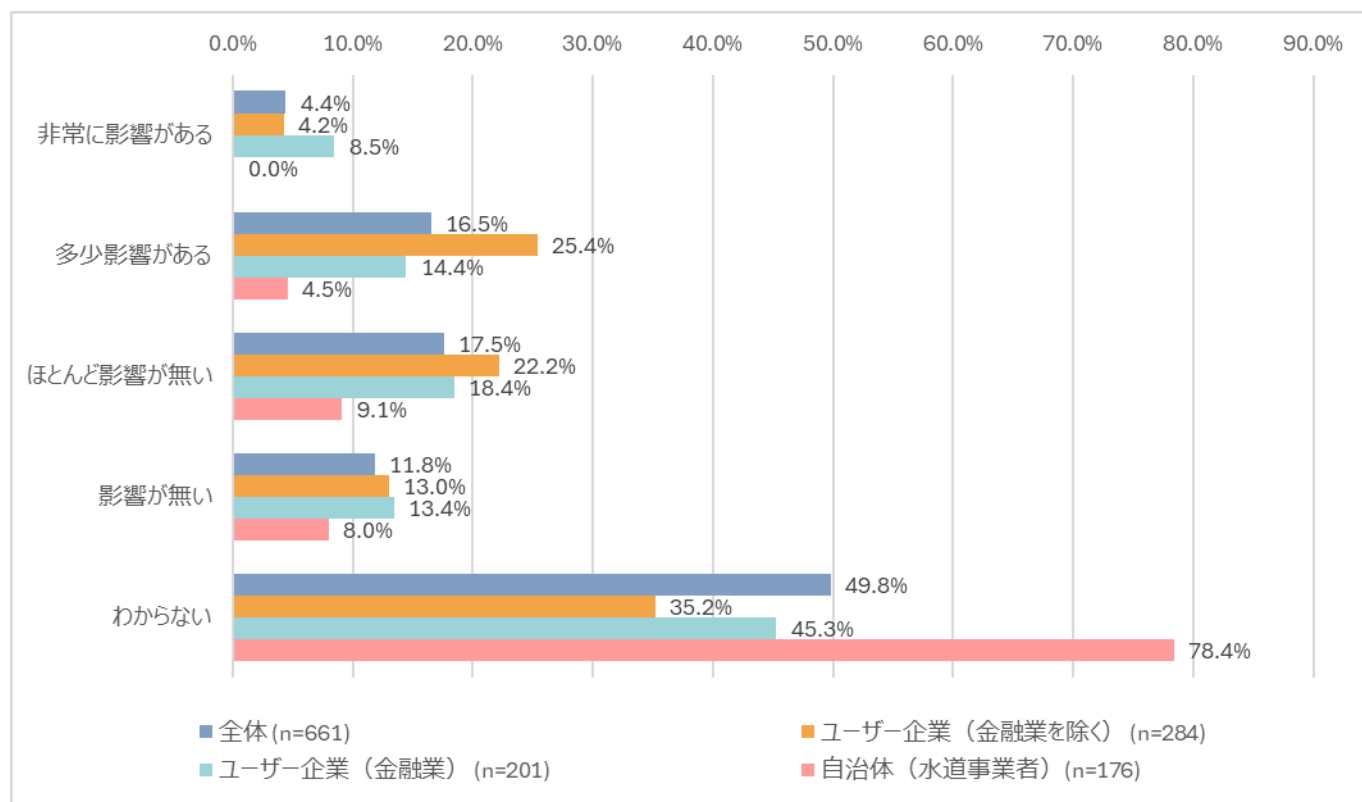
Q5-22 移行に関するベンダー起因の課題



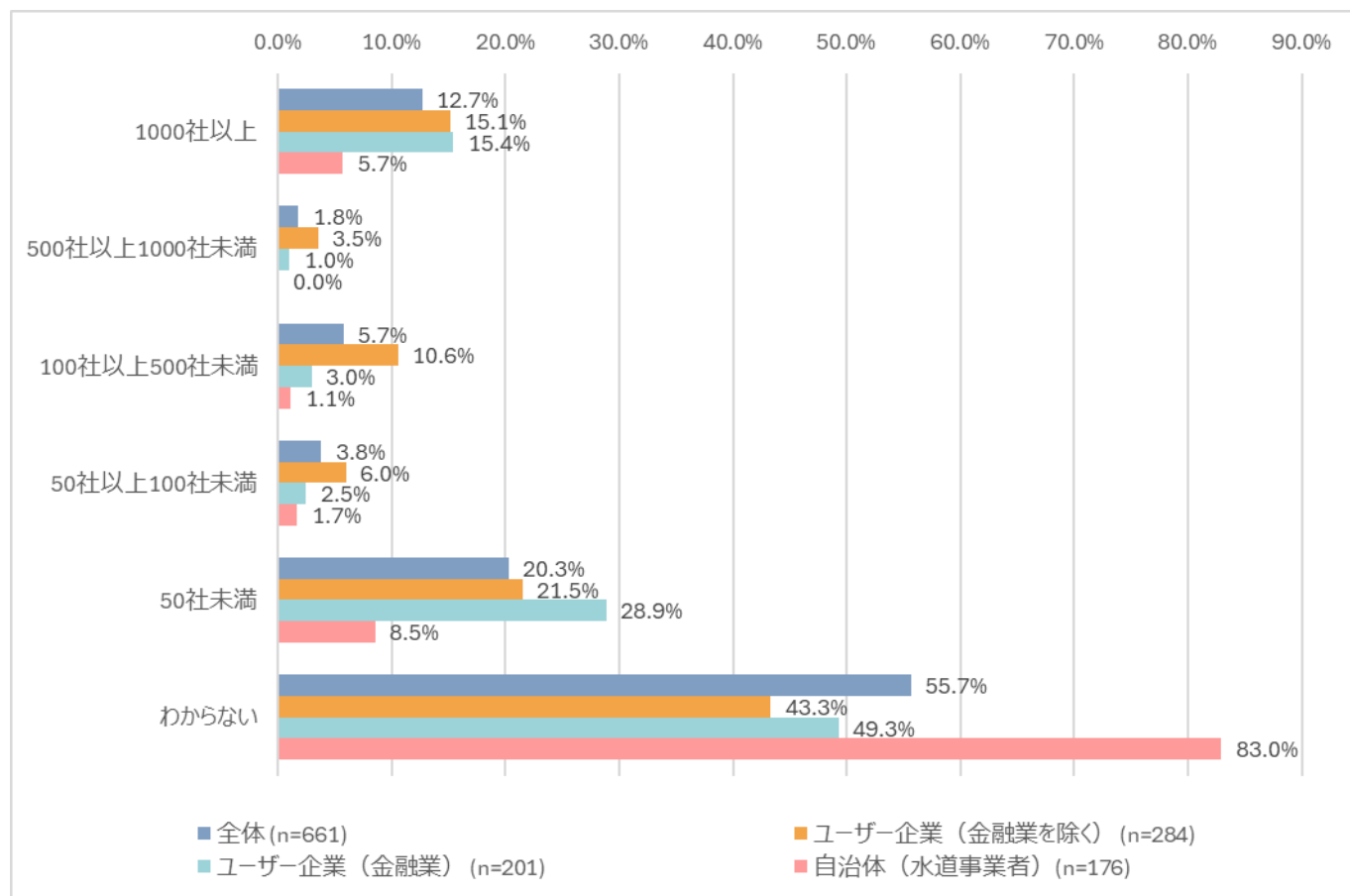
Q5-23 サプライチェーン（上流企業数）



Q5-24 サプライチェーン（上流影響）



Q5-25 サプライチェーン（下流企業数）



Q5-26 サプライチェーン（下流影響）

